

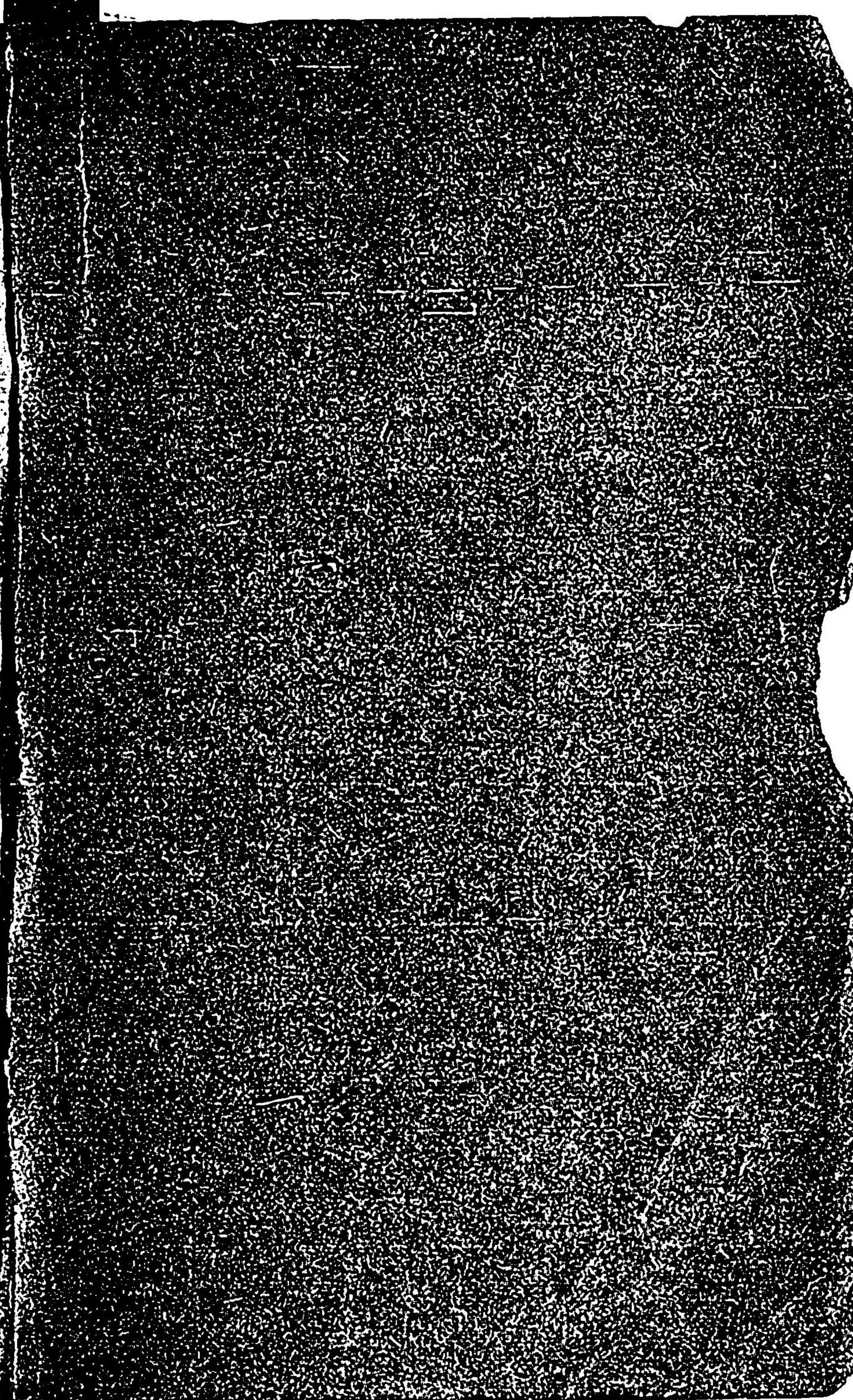
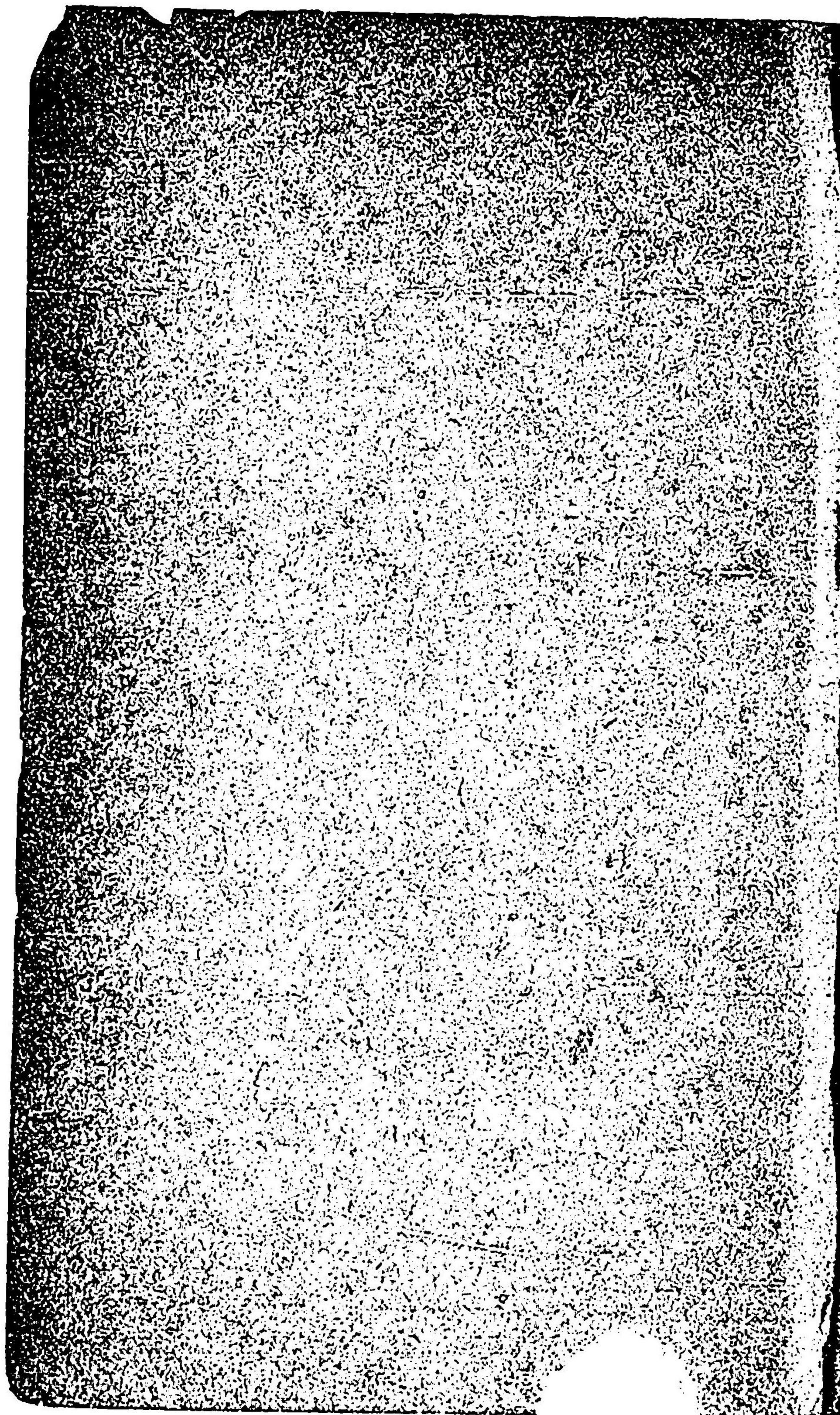
163

58

新	筑	茨	茨	前
治	波	城	城	茨
郡	郡	縣	縣	城
長	長	警	書	縣
		部	記	知
		長	官	事
手	水	川	渡	高
塚	谷	上	邊	崎
	千	親		親
	波	義	孝	章
任	君	君	君	君
君	序	序	題	題
序	文	文	字	字
文				

茨城縣第五
撰舉區
公民寶典全

弘文社藏版



特 14
484

便 而



乙未仲冬

袁三才



海
由



明治二十八年十一月
於小野官舎

渡邊存題



序

凡ソ國民タルモノ現行ノ法律規則ヲ知ラサルヘカラサルハ、猶飲
食ノ人生ニ缺クヘカラサルカ如キ歟、人ニシテ飲食ヲ缺乏センカ、
枯渴饑餓忽チニシテ臻ラン、人ニシテ法律規則ヲ知ラザランカ、各
自ノ義務ヲ果シ、各自ノ權理ヲ擴張スル能ハス、是レ理ノ最モ賸易
キトコロ、復喋々ヲ須ヒス故ニ曰ク、法律規則ヲ知ルハ國民ノ義務
ナリ、義務ヲ知ラスンハ以テ各自ノ權理ヲ擴張スル能ハスト、然リ
ト雖モ、法律規則モ亦鮮シト爲サス、其要ヲ摘ミ其簡ヲ擇ブニアラ
ザルヨリハ何ゾ閱覽ニ便ナランヤ、況ンヤ世事紛糾、博閱瀏覽ニ遑
アラザルノ人ニ於テナヤ、弘文社主柴氏此ニ見ルアリ、公民寶典ナ
ルモノヲ刷行シ以テ世ニ問ハント欲シ、來テ序ヲ請ハル、予官事鞅

明治二十八年十一月
於小野官舎

渡邊存題



序

凡ソ國民タルモノ現行ノ法律規則ヲ知ラサルヘカラサルハ、猶飲
食ノ人生ニ缺クヘカラサルカ如キ歟、人ニシテ飲食ヲ缺乏センカ、
枯渴饑餓忽チニシテ臻ラン、人ニシテ法律規則ヲ知ラザランカ、各
自ノ義務ヲ果シ、各自ノ權理ヲ擴張スル能ハス、是レ理ノ最モ賄易
キトコロ、復喋々ヲ須ヒス故ニ曰ク、法律規則ヲ知ルハ國民ノ義務
ナリ、義務ヲ知ラスンハ以テ各自ノ權理ヲ擴張スル能ハスト、然リ
ト雖モ、法律規則モ亦鮮シト爲サス、其要ヲ摘ミ、其簡ヲ擇ブニアラ
ザルヨリハ何ゾ閱覽ニ便ナランヤ、況ンヤ世事紛糾、博閱瀏覽ニ遑
アラザルノ人ニ於テチヤ、弘文社主柴氏此ニ見ルアリ、公民寶典ナ
ルモノヲ刷行シ以テ世ニ問ハント欲シ、來テ序ヲ請ハル、予官事鞅

掌未タ其全豹ヲ窺フ能ハスト雖モ、高崎明府既ニ題シテ簡而便ト
曰フ、以テ其民人ニ裨補スル淺鮮ニアラザルヲ知ル、今此書題シテ
茨城縣第五區公民寶典ト曰ヒ新治筑波二郡ヲ限ラレタルモノ、
如シト雖モ、其法律規則ニ至テハ、凡ソ六公民タルモノ、知ラズンハ
アルヘカラサルモノ、何ゾ二郡ニ止マランヤ蓋漸次各區ニ及ホサ
ントシ而シテ先ツ此ヲ以テ卷首トス、故ニ體製然ルノミ、社主序ヲ
請フ聊カ見ルトコロヲ書シテ冠スルコト如此ト云爾

明治丙申年夏日

川上竹城

序

近時法令規律ノ編纂汗牛充棟齋ナラス然リト雖
モ概子撰擇其要ヲ欠キ繁簡其宜ヲ失シ民間ノ實
用ニ適切ナルモノ殆ト稀ナルハ識者ノ遺憾トス
ル所ナリ某日弘文社主柴氏來訪其自ラ編集スル
所ノ公民寶典ナルモノヲ示シ予ニ序文ヲ求ム予
淺學固ヨリ應スルノ才ナシト雖モ偶官暇之ヲ閱
スルニ其集ムル所凡ソ法令規律ノ民間ニ適切ナ
ルモノハ悉ク之ヲ網羅シ其否ヲサレモノハ勉メ

テ之ヲ省畧シ繁簡始メテ其宜ヲ得亦遺憾ナシ編
者考案ノ周到ナル予一見贊賞措ク能ハザルナリ
遂ニ辭スル所ヲ知ラス即チ片言ヲ卷首ニ書シ以
テ責ヲ塞クト云爾

明治丙申年仲夏

水谷千波

飯島君過訪官舎示以著書謂我邦政
事之氣運發爲地方自治尋及立憲代
議寒村僻邑亦與其事爲吾人不可不
講其行政之道也此書始于帝國憲法
終于市町村吏員氏名公民須知之事
細大不漏題曰公民寶典不亦可乎余
不暇細閱然其意亦可嘉也乃書其所

言以為序

明治二十九年

...

...

...

...

...

目次

第一章

◎第一款 詔勅及法令

◎詔勅	一	◎國民軍條例	一六一
◎帝國憲法	三	◎國民兵召集規則	一六三
◎皇室典範	一五	◎狩獵規則	一六七
◎議院法	二二	◎登錄稅法	一七四
◎衆議院議員選舉法	三七	◎登錄稅法施行細則	一八四
◎府縣會議員選舉規則	五六	◎酒造稅法	一八五
◎府縣會議員定數規則	六五	◎家用酒稅法	一九一
◎府縣會議員定數關スル	七九	◎混成酒稅法	一九四
◎人口計算方心得	七九	◎沖繩縣酒類出港稅則改正	一九六
◎郡制	八〇	◎營業稅法	一九七
◎町村制	一〇二	◎煙草稅則改正	二〇六
◎市町村會議員選舉規則	一四〇	◎葉煙草專賣法	二〇七
◎議會並ニ議員保護ノ件	一四四	◎車稅則	二一一
◎衆議院議員選舉法罰則補則	一四五	◎戶籍法中心得方及改正	二二三
		◎地租條例ニ關スル諸規則	一四六
		◎地租條例	一四七
		◎徵兵令	一五二

- 出生死去出入及寄留者 二一五
- 届出方改正 二一五
- 戸籍取扱手續 二一六
- 私生子ニ關スル件 二一九
- 内外人婚姻ニ關スル件 二二〇

- 第二章 茨城縣令達
- ◎第一款 諸規則
- 古物商取締法令施行手續 二四八
 - 質屋取締法令施行手續 二五三
 - 遊技場取締規則 二五八
 - 競馬取締規則 二五八
 - 湯屋取締規則 二五九
 - 牛馬買賣取締規則 二六一
 - 瘋癲人取締規則 二六二
 - 同取締規則取扱手續 二六四
 - 墓地及埋葬取締規則細則 二六五
 - 狩獵規則ニ關スル願届ノ件 二七三
 - 狩獵及付屬規則執行心得 二七四
 - 遺失物取扱手續 二七六
 - 拾得物取扱ノ件 二八〇
 - 得遺失金賭場置去金收入 二八〇
 - 官吏ハ送付ノ件 二八〇
 - 拾得金預金局ニ寄托ノ件 二八〇

- 第二款 雜則
- 郵便稅摘要 二二一
 - 小包郵便稅改正 二二三
 - 郵便爲替差出方及受取方心得 二二四
 - 郵便貯金條例 二三〇
 - 諸印紙貼用規定 二三四
 - 聯隊區司令部條例並ニ配置 二四一
 - 海軍區鎮守府配置ノ地 二四二
 - 内國諸港ハノ航海里程 二四三
 - 外國有名諸港ハノ航海里程 二四四
- ◎第三款 郡町村長助役氏名
- 新治郡 二四六
 - 筑波郡 二四七

- 管内(離婚)ニ離縁ノ届 二四
- 携帶者入籍届 四五
- 轉住送籍届 四五
- 轉住入籍届 五五
- 管内縁組届 五五
- 管内轉住届 六六
- 失踪届 六六
- 失踪者歸復届 六七
- 入寄留届 六七
- 出寄留届 七七
- 寄届者退去届 七七
- 改名届 七八
- 廢嫡届 八八
- 廢戶主届 八八
- 復姓届 八八

◎第二款 縣知事、郡役所、登記所、町村役場、警察署、裁判所ニ要スル諸願届書式

- 出生届 一
- 結婚入籍届 一
- 養子女入籍届 一
- 離婚復籍届 一
- 死亡届 一
- 流産届 二
- 縁女送籍届 二
- 養子女送籍届 二
- 入夫(妻)離婚 二
- 養子女離婚縁送籍届 二
- 相續人離婚縁 二
- 退隠跡相續届 三
- 亡跡相續届 三
- 分家送籍届 三
- 分家入籍届 三
- 管内分家届 四
- 離婚(縁)復歸ニ付携帶者入籍届 四

- 入夫妻離婚、養子女離婚、相續人離婚ニ付携帶者送籍届 四
- 管内結婚届 四
- 管内(離婚)ニ離縁ノ届 四
- 携帶者入籍届 四五
- 轉住送籍届 四五
- 轉住入籍届 五五
- 管内縁組届 五五
- 管内轉住届 六六
- 失踪届 六六
- 失踪者歸復届 六七
- 入寄留届 六七
- 出寄留届 七七
- 寄届者退去届 七七
- 改名届 七八
- 廢嫡届 八八
- 廢戶主届 八八
- 復姓届 八八

◎私生子引受入籍届	九	◎勤務演習召集願	四
◎後見人届	九	◎召集不参届	一
◎印鑑届	九	◎診斷書	一
◎改印届	〇	◎召集不参届	一
◎改肉届	〇	◎歸郷届	一
◎代納人届	〇	◎轉住(轉籍)(養子)(相續人)届	六
◎徵兵適齡届	〇	◎出產届	七
◎徵兵異動届	一	◎死亡届	七
◎徵兵檢査時期日延届	一	◎復籍届	七
◎豫備後備下士兵卒歸休兵願届	二	◎寄留(旅行)届	八
◎結婚願	二	◎届	八
◎身元證書	二	◎死亡届	八
◎婚姻濟届	二	◎逃亡失踪届	九
◎離婚届	三	◎處刑届	九
◎勤務演習召集猶豫(簡閱)点停	三	◎郡役所及收稅署ニ要スル諸願届書式	九
◎免除(願)	三	◎地所開墾届	〇
◎寄留地簡閱點呼及諸召集願	三	◎開墾(開拓)鐵下年期明地價	〇
◎旅費受領人届	四	◎修正届	一

◎拂下(下渡)地届	二	◎荷積車檢印願	三
◎畦畔新設本地減(廢除本地增)届	三	◎耕作車檢印願	三
◎地目變換届	四	◎船舶鑑札下渡願	三
◎土地分裂(合併)届	七	◎解船(解車)届	四
◎丈量野取圖調製心得	八	◎荷積馬車(人力車)(荷積車)	四
◎官有地拜借願	九	◎讓受渡名義更正願	四
◎官有森林(原野)拂下願	九	◎煙草營業願	四
◎立木竹拂下願	〇	◎煙草仕入鑑札下附願	五
◎生草拂下願	〇	◎菓子營業願	五
◎官有原野豫約拂下願	〇	◎菓子仕入鑑札下渡願	五
◎地種組替願	一	◎開業届	六
◎凡例	一	◎興行届	六
◎民有地第一種ニ組替ノ例	三	◎移轉(廢業)届	六
◎土地臺帳謄本下付願	三	◎行商鑑札下付願	六
◎自家用料酒製造届	三	◎鑑札書換(再渡)願	七
◎自家用料酒廢造届	三	◎質屋營業又ハ改名、代替、轉居	七
◎賣藥請賣願	三	◎水車新設ノ義願	七
		◎種穀料給與願	八

◎小屋掛料給與願	三八	◎演劇(其他何々)興行願	四六
◎入社申込書	三九	◎銃砲買取手續	四六
◎食料給與願	三九	◎銃砲買取局	四七
◎農具料給與願	三九	◎獵銃買取局	四七
◎警察署及裁判所ニ要スル諸願届書式	四〇	◎彈藥買取願	四八
◎告訴狀	四〇	◎狩獵免狀下付願	四八
◎診斷書	四一	◎銃砲讓與願	四八
◎告發狀	四二	◎威銃免許願	四九
◎盜難申報書	四二	◎被害地反別及植物鳥獸名調書	四九
◎強盜申報書	四三	◎實地畧圖	五〇
◎人相書	四三	◎遺失物御届	五〇
◎失火申報書	四四	◎紛失御届	五一
◎旅人宿木賃宿營業願	四四	◎得遺物御届	五一
◎飯食店營業願	四五	◎家出人搜索願	五一
◎質屋營業又ハ取締鑑札御書換	四五	◎人相書	五二
◎御下付ノ儀願	四五	◎人力車營業願	五三
◎古物商營業願	四六		
◎古物商行商ノ儀願	四六		

◎身元保證金上納書	五三	◎有体動産差押申請書	五九
◎人力車輓子届	五三	◎不動産仮處分申請書	六〇
◎營業者自ラ輓士トナルトキ	五三	◎強制強賣申立書	六一
◎鑑札届書式	五三	◎濟口届	六一
◎廢業届	五四	◎和解申立書	六一
◎輓子解備又ハ失踪届	五四	◎旅費(日當)(止宿料)請求書	六一
◎碑表建設願	五四	◎代人願	六二
◎碑表	五四	◎親族證明願	六二
◎斃馬御届	五四	◎委任狀	六三
◎瘋癲人届	五五	◎御請書	六三
◎診斷書	五五	◎訴狀	六三
◎變死人届	五六	◎控訴狀	六四
◎檢按書	五六	◎答辨書	六四
◎始末書	五七	◎上告狀	六五
◎人殺傷申報書	五七	◎答辨書	六六
◎貸金支拂命令申請書	五八	◎登記ニ要スル諸願届書式	六七
◎名刺式	五九	◎名刺	六八
◎仮執行宣言申請書	五九	◎改印届	六八

奉體ニ死ヲ誓ヒ驅勉從事冀クハ以テ宸襟ヲ安シ奉ラシ

總 裁

公 卿

諸 侯

立憲政體ヲ立ツル詔勅ニ 明治八年 四月十四日

(布告第五十八號)

別紙詔書ノ通被仰出候條此旨布告候事

〔別紙〕

朕即位ノ初首トシテ群臣ヲ會シ五事ヲ以テ神明ニ誓ヒ國是ヲ定メ萬民保全ノ道ヲ求ム奉ニ宗祖ツ靈ト群臣ツ力トニ頼リ以テ今日ノ小康ヲ得タリ願ニ中興日淺ク内治ノ事當ニ振作更張スヘキ者少シトセス朕今誓文ノ意ヲ擴充シ茲ニ元老院ヲ設ケ以テ立法ノ源ヲ廣メ大審院ヲ置キ以テ審判ノ權ヲ鞏クシ又地方官ヲ召集シ以テ民情ヲ通シ公益ヲ圖リ漸次ニ國家立憲政體ヲ立テ汝衆庶ト俱ニ其慶ニ頼ント欲ス汝衆庶或ハ舊ニ泥ミ故ニ慣レヨト莫ク又或ハ進ムニ輕ク爲スニ急ナルコト莫ク其レ能朕カ旨ヲ體シテ翼贊スル處アレ

明治八年四月十四日

國會開設ノ勅諭

朕祖宗二千五百有餘年ノ鴻緒ヲ嗣キ中古紐ヲ解クノ乾綱ヲ振張シ大政ノ統一ヲ總攬

シ又夙ニ立憲ノ政體ヲ建テ後世子孫繼クヘキノ業ヲ爲サンコトヲ期ス爾ニ明治八年ニ元老院ヲ設ケ十一年ニ府縣會ヲ開カシム此レ皆漸次基ヲ創メ序ニ循テ歩テ進ムルノ道ニ由ルニ非サルハ莫シ爾有衆亦朕カ心ヲ諒トセン

願ミルニ立國ノ體國各宜シキヲ殊ニス非常ノ事業實ニ輕舉ニ便ナラス我祖我宗照臨シテ上ニ在リ遺烈ヲ揚ク弘ク古今ヲ變遷シ斷ク之ヲ行フ責 朕カ躬ニ在リ將ニ明治二十三年ヲ期シ議員ヲ召シ國會ヲ開キ以テ 朕カ初志ヲ成サントス今在臨臣僚ニ命シ假スニ時月ヲ以テシ經畫ノ責ニ當ラシム其組織權限ニ至テハ 朕親ヲ親ヲ裁シ時ニ反テ公布スル所アラトス 朕惟スニ人必進ムニ偏シテ時會違ナルヲ鏡ヲ浮言相勸カシ覺ニ大計ヲ避ル是レ宜シク今ニ及テ諷訓ヲ明徴シ以テ朝野臣民ニ公示スヘシ若シ仍ホ故ヲニ躡急爭ヒ事變ヲ煽シ國安ヲ害スル者アラハ處スルニ國典ヲ以テスヘシ特ニ茲ニ官明シ爾有衆ニ諭ス奉勅

明治十四年十月十二日

大 阪 大 臣 三 條 實 美

◎大日本帝國憲法

(明治二十二年二月十二日)

◎憲法發布勅語

朕國家の隆昌は臣民の慶福トテ以テ中心ノ欣榮トシ朕カ祖宗ニ承クルノ大權ニ依リ
 現在及將來臣民ニ對シ此ノ不磨ノ大典ヲ宣布ス
 惟フニ我カ祖我カ宗ハ我カ臣民祖先ノ協力輔翼ニ依リ我カ帝國ヲ肇造シ以テ無窮ニ
 垂レタリ此レ我カ神聖ナル祖宗ノ威徳ト並ニ臣民ノ忠實勇武ニシテ國ヲ愛シ公ニ殉
 ヒ以テ此光アル國史ノ成跡ヲ貽タルナリ朕我カ臣民ハ即チ祖宗ノ忠其ナル臣民ノ
 子孫ナルヲ回想シ其ノ朕カ意ヲ奉躰シ朕カ事ヲ獎順シ相與ニ和衷協同シ益我カ帝國
 光榮中外ニ宣揚シ祖宗ノ遺業ヲ永久ニ鞏固ナラシムルヲ希望ス同シ此ノ負擔
 ナ別々ニ堪フルコトヲ疑ハサルナリ
 朕祖宗ノ遺烈ヲ承テ萬世ニ系ル帝位ヲ踐シ朕カ親愛ナル所ノ臣民ハ即チ朕カ祖宗ノ
 惠撫慈養ニ須クシテ朕カ所ノ臣民タルカ念ヒ其ノ康福ヲ増進シ其慈徳良能ノ發達セシム
 ルヲ願ヒ爾其ノ翼贊ニ依リ與キ俱ニ國家ノ進退ヲ扶持セテ朕カ所ノ望ミ乃チ明治十
 四年十月十四日詔命ヲ履踐シ茲ニ大憲ヲ制定シ朕カ率由スル所ヲ示シ朕カ後嗣
 及臣民ノ子孫永ク承テ朕カ所ノ望ミヲ履踐シ朕カ率由スル所ヲ示シ朕カ後嗣
 國家統治ノ大權ヲ朕カ所ノ望ミヲ履踐シ朕カ率由スル所ヲ示シ朕カ後嗣
 來此ノ憲法ノ條章ニ循ヒ之ヲ行フコトヲ朕カ所ノ望ミヲ履踐シ朕カ率由スル所ヲ示シ朕カ後嗣
 朕ハ我カ臣民ノ權利及財産ヲ安全ニ保シ及之ヲ保護シ此ノ憲法及法律ノ範圍内
 ニ於テ其カ享有スル安全ヲ朕カ所ノ望ミヲ履踐シ朕カ率由スル所ヲ示シ朕カ後嗣

帝國議會ハ明治二十三年ヲ以テ之ヲ召集シ議會會開ノ時ヲ以テ此ノ憲法ヲシテ有效
 ナラシムルノ勅令スルハ朕カ所ノ望ミヲ履踐シ朕カ率由スル所ヲ示シ朕カ後嗣
 將來若此ノ憲法ヲ或ハ條章ニ改定スルノ必要ナキ時宜ク見ルニ至ラ朕及朕カ繼統
 ノ子孫ハ朕カ所ノ望ミヲ履踐シ朕カ率由スル所ヲ示シ朕カ後嗣
 議決スルノ外朕カ子孫及臣民ノ敢テ之ヲ紛更テ試シテ得ルモノハ朕カ所ノ望ミヲ履踐シ朕カ率由スル所ヲ示シ朕カ後嗣
 朕カ在任ノ大臣ハ朕カ所ノ望ミヲ履踐シ朕カ率由スル所ヲ示シ朕カ後嗣
 此憲法ニ對シ永遠ニ從順シ義務ヲ負フコトヲ朕カ所ノ望ミヲ履踐シ朕カ率由スル所ヲ示シ朕カ後嗣

御名

明治二十三年三月廿九日

内閣總理大臣 伯爵 黒田 清隆
 外務大臣 伯爵 伊藤 博文
 大藏大臣 伯爵 西郷 從道
 農商務大臣 伯爵 井上 馨
 海軍大臣 伯爵 山田 顯義
 陸軍大臣 伯爵 松方 正義
 司法大臣 伯爵 大 伯爵 森 有造
 文部大臣 伯爵 大 伯爵 森 有造
 大藏大臣兼內務大臣 伯爵 松方 正義
 陸軍大臣 伯爵 大 伯爵 森 有造
 海軍大臣 伯爵 大 伯爵 森 有造
 司法大臣 伯爵 大 伯爵 森 有造
 文部大臣 伯爵 大 伯爵 森 有造

○大日本帝國憲法

○大日本帝國憲法

憲 信 大 臣 子 爵 侯 本 武 揚

第一章 天皇

第一條 大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス

第二條 皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ皇男子孫之ヲ繼承ス

第三條 天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラス

第四條 天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ此ノ憲法ノ條規ニ依リ之ヲ行フ

第五條 天皇ハ帝國議會ノ協贊ヲ以テ立法權ヲ行フ

第六條 天皇ハ法律ヲ裁可シ其ノ公布及執行ヲ命ス

第七條 天皇ハ帝國議會ヲ召集シ其ノ開會閉會停會及衆議院ノ解散ヲ命ス

第八條 天皇ハ公共ノ安全ヲ保持シ又ハ其ノ災厄ヲ避クル爲緊急ノ必要ニ由リ帝國議會閉會ノ場合ニ於テ法律ニ代ルヘテ勅令ヲ發ス

此ノ勅令ハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出スヘシ議會ニ於テ承諾セザルトキハ政府ハ將來ニ向テ其ノ效力ヲ失フコトヲ公布スヘシ

第九條 天皇ハ法律ヲ執行スル爲ニ又ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及臣民ノ幸福ヲ増進スル爲ニ必要ナル命令ヲ發シ又ハ發セシム但シ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルヲ得

第十條 天皇ハ行政各部ノ官制及文武官ノ俸給ヲ定メ及文武官ヲ任免ス此ノ但シ憲法又ハ他ノ法律ニ特例ヲ掲ケタルモノハ各其ノ條項ニ依ル

第十一條 天皇ハ陸海軍ヲ統帥ス

第十二條 天皇ハ陸海軍ノ編制及常備兵額ヲ定ム

第十三條 天皇ハ戰宜シ和ヲ講シ及諸般ノ條約ヲ締結ス

第十四條 天皇ハ戒嚴ヲ宣告ス

戒嚴ノ要件及効力ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 天皇ハ爵位勳章及其他ノ榮典ヲ授與ス

第十六條 天皇ハ大赦特赦減刑及復權ヲ命ス

第十七條 攝政ヲ置クハ皇室典範ノ定ムル所ニ依ル

攝政ハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フ

第二章 臣民權利義務

第十八條 日本臣民タルノ要件ハ法律ノ定ムル所ニ依ル

第十九條 日本臣民ハ法律命令ノ定ムル所ノ資格ニ應シ均ク文武官ニ任セラレ及其

ノ他ノ公務ニ就コトヲ得

第二十條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ兵役ノ義務ヲ有ス

第二十二條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ納稅ノ義務ヲ有ス

第二十二條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ居住及移轉ニ自由ヲ有ス

第二十三條 日本臣民ハ法律ニ依ルニ非ズシテ逮捕監禁審問處罰ヲ受クルコトナシ

第二十四條 日本臣民ハ法律ニ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受クルノ權ヲ奪ハルコトナシ

第二十五條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外其ノ許諾ナクシテ在所ニ侵入

セラレ及搜索セラルコトナシ

第二十六條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外信書ノ秘密ヲ侵サルコトナシ

第二十七條 日本臣民ハ其所有權ヲ侵サルコトナシ

公益ヲ爲必要ナル處分ハ法律ノ定ムル所ニ依ル

第二十八條 日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨ス及臣民タルノ義務ニ背カサル限ニ於テ信

教ヲ自由ヲ有ス

第二十九條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ言論著作印行集會及結社ノ自由ヲ有ス

第三十條 日本臣民ハ相當ノ敬禮ヲ守別ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ請願ヲ爲スコト

得

第三十一條 本章ニ掲ケタル條規ハ戰時又ハ國家事變ノ場合ニ於テ天皇大權ノ施行

ニ妨スルコトナシ

第三十二條 本章ニ掲ケタル條規ハ陸海軍ニ於テ及ハル紀律ニ抵觸セザル限

軍人ニ準行ス

第三十三章 帝國議會

第三十三條 帝國議會ハ貴族院衆議院兩院ヲ以テ成立ス

第三十四條 貴族院ハ貴族院令ノ定ムル所ニ依リ皇族華族及勅任セラレタル議員ヲ

以テ組織ス

第三十五條 衆議院ハ撰擧法ニ定ムル所ニ依リ公撰セラレタル議員ヲ以テ組織ス

第三十六條 何人モ同時ニ兩議院ノ議員タルコト得ス

第三十七條 凡テ法律ハ帝國議會ノ協賛ヲ經ルヲ要ス

第三十八條 兩議院ハ政府ノ提出スル法律案ヲ議決シ及各々法律案ヲ提出スルコト

得

第三十九條 兩議院ノ一ニ於テ否決シタル法律案ハ同會期中ニ於テ再ヒ提出スルコト

得

第四十條 兩議院ハ法律又ハ其ノ他ノ事件ニ付各々其ノ意見ヲ政府ニ建議スルコト

得

但シ其ノ採納ヲ得サルモノハ同會期中ニ於テ再ヒ建議スルコトナシ

第四十一條 帝國議會ハ毎年之ヲ召集ス

第四十二條 帝國議會ハ三箇月ヲ以テ會期トス必要アル場合ニ於テハ敕命ヲ以テ之

ヲ延長スルコトアルヘシ

第四十三條 臨時緊急ノ必要アル場合ニ於テ常會ノ外臨時會ヲ召集スヘシ
臨時會ノ會期ヲ定ムルハ救命ニ依ル

第四十四條 帝國議會ノ開會閉會會期ノ延長及停會ハ兩院同時ニ之ヲ行フヘシ
衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ貴族院ハ同時ニ停會セラルヘシ

第四十五條 衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ救命ヲ以テ新ニ議員ヲ撰舉セシメ解
散ノ日ヨリ五箇月以内ニ之ヲ召集スヘシ

第四十六條 兩議院ハ各々其ノ總議員三分ノ一以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ
議決ヲ爲スコトヲ得ス

第四十七條 兩議院ノ議事ハ過半数ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所
ニ依ル

第四十八條 兩議院ノ會議ハ公開ス
但シ政府ノ要求又ハ其院ノ決議ニ依リ秘密會ト爲スコトヲ得

第四十九條 兩議院ハ各々天皇ニ上奏スルコトヲ得

第五十條 兩議院ハ臣民ヨリ呈出スル請願書ヲ受クルコトヲ得
第五十一條 兩議院ハ此ノ憲法及議院法ニ掲グルモノ、外内部ノ整理ニ必要ナル諸
規則ヲ定ムルコトヲ得

第五十二條 兩議院ノ議員ハ議院ニ於テ發言シタル意見及表決ニ付院外ニ於テ責ヲ
負フコトナシ

但シ議員自ラ其ノ言論ヲ演說刊行筆記又ハ其ノ他人ノ方法ヲ以テ公布シタルトキ
ハ一般ノ法律ニ依リ處分セラルヘシ

第五十三條 兩議院ノ議員ハ現行犯罪又ハ内乱外患ニ關ル罪ヲ除ク外會期中其ノ院
ノ許諾ナクシテ逮捕セラルコトナシ

第五十四條 國務大臣及政府委員ハ何時タリトモ各議院ニ出席シ及發言スルコトヲ
得

第四章 國務大臣及樞密顧問

第五十五條 國務大臣ハ天皇ヲ補助シ其ノ責ニ任ス
凡テ法律勅令及其ノ他國務ニ關ル詔敕ハ國務大臣ノ副署ヲ要ス

第五十六條 樞密顧問ハ樞密院官制ノ定ムル所ニ依リ天皇ノ諮詢ニ應ヘ重要ノ國務
管ヲ審議ス

第五章 司法
第五十七條 司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フ
裁判所ノ構成ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五十八條 裁判官ハ法律ニ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之ヲ任ス

裁判官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルノ外其職ヲ免セラルコトナシ
懲戒ノ條規ハ法律ヲ以テ之ヲ左ム

第五十九條 裁判ヲ對審判決ハ之ヲ分開ス

但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ法律ニ依リ又ハ裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得

第六十條 特別裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第六十一條 行政官廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスルノ訴訟ニシテ別ニ法律ヲ以テ定メタル行政裁判所ノ裁判ニ屬スヘキモノハ司法裁判所ニ於テ受理スルノ限ニ在ラス

第六章 會計

第六十二條 新ニ租稅ヲ課シ及稅率ヲ變更スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

但シ報償ニ屬スル行政上ノ手数料及其ノ他ノ收納金ハ前項ノ限ニ在ラス

國債ヲ起シ及豫算ニ定メタルモノヲ除ク外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スハ帝國議會ノ協賛ヲ經ヘシ

第六十三條 現行ノ租稅ハ更ニ法律ヲ以テ之ヲ改メ其限ハ舊ニ依リ之ヲ徵收ス

第六十四條 國家ノ歲出歲入ハ毎年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協賛ヲ經ヘシ
豫算ノ款項ニ超過シ又ハ豫算ノ外ニ生シタル支出アルトキハ後日帝國議會ノ承諾

請求ムルヲ要ス

第六十五條 豫算ハ前ニ衆議院ニ提出スヘシ

第六十六條 皇室經費ハ現在ノ定額ニ依リ毎年國庫ヨリ之ヲ支出シ將來増額ヲ要スル場合ヲ除ク外國議會ノ協賛ヲ要セス

第六十七條 憲法上ノ大權ニ基ツケル既定ノ歲出及法律ノ結果ニ由リ又ハ法律上政府ノ義務ニ屬スル歲出ハ政府ノ同意ヲクシテ帝國議會之ヲ廢除シ又ハ消滅スルコトヲ得ス

第六十八條 特別ノ須要ニ因リ政府ハ豫メ年限ヲ定メ繼續費トシテ帝國議會ノ協賛ヲ求ムルコトヲ得

第六十九條 避クヘカラスル豫算ノ不足ヲ補フ爲ニ又ハ豫算ノ外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツル爲ニ豫備費ヲ設クヘシ

第七十條 公共ノ安寧ヲ保持スル爲緊急ノ需用アル場合ニ於テ内外ノ情形ニ因リ政府ハ帝國議會ヲ召集スルコト能ハサルトキニ敕令ニ由リ財政上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス
第七十一條 帝國議會ニ於テ豫算ヲ議定セス又ハ豫算成立ニ至ラサルトキハ政府ハ前年度ノ豫算ヲ施行スヘシ

第七十二條 國家ノ歳出入ノ決算ハ會計検査院之ヲ検査確定シ政府ハ其ノ検査報告ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スルシ
會計検査院ノ組織及職權ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第七章 補則

第七十三條 將來此ノ憲法ノ條項改正スルノ必要アルトキハ敕命ヲ以テ議案ヲ帝國議會ノ議ニ付スヘシ
此ノ場合ニ於テ兩議院ハ各々其ノ議員三分ノ二以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開クコトヲ得ズ出席議員三分ノ二以上入多數ヲ得ルニ非サレハ改正ノ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第七十四條 皇室典範ノ改正ハ帝國議會ノ議ヲ經ルヲ要セス
皇室典範ヲ以テ此ノ憲法ノ條規ヲ變更スルコトヲ得ス

第七十五條 憲法及皇室典範ハ攝政ヲ置クノ間之ヲ變更スルコトヲ得ス
第七十六條 法律規則命令又ハ何等ノ名稱ヲ用キタルニ拘ハラズ此ノ憲法ニ矛盾セザル現行ノ法令ハ總テ遵由ノ効力ヲ有ス

歲出上政府ノ義務ニ係ル現在ノ契約又ハ命令ハ總テ第六十七條ノ例ニ依ル
◎皇室典範 (明治二十二年二月十一日)
天祐ヲ享有シタル我カ日本帝國ノ寶祚ハ萬世一系歷代繼承シ以テ 朕カ躬ニ至ル惟

フニ祖宗肇國ノ初大憲一タヒ定マリ昭ナルヨト日星ノ如シ今ノ時ニ當リ宜ク遺訓ヲ明徴ニシ皇家ノ成典ヲ制立シ以テ丕基ヲ永遠ニ鞏固スヘシ茲ニ樞密顧問ノ諮詢ヲ經皇室典範ヲ裁定シ 朕カ後嗣子孫ヲシテ遵守スル所アラシム

○皇室典範

第一章 皇位繼承

第一條 大日本國皇位ハ祖宗ノ皇統ニシテ男系ノ男子ヲ之ヲ繼承ス

第二條 皇位ハ皇長子ニ傳フ

第三條 皇長子在ラサルトキハ皇長孫ニ傳フ皇長子及其子孫皆在ラサルトキハ皇次子及其子孫ニ傳フ以下皆之ニ例ス

第四條 皇子孫ノ皇位ヲ繼承スルハ嫡出ヲ先ニス皇庶子孫ノ皇位ヲ繼承スルハ皇嫡子孫皆在ラサルトキニ限ル

第五條 皇子孫皆在ラサルトキハ皇兄弟及其子孫ニ傳フ

第六條 皇子兄弟及其子孫皆在ラサルトキハ皇伯叔父及ヒ其子孫ニ傳フ

第七條 皇伯叔父及其子孫皆在ラサルトキハ其ノ以上ニ於テ最近親ノ皇族ニ傳フ

第八條 皇兄弟以上ハ同等内ニ於テ嫡ヲ先ニシ庶ヲ後ニシ長ヲ先ニシ幼ヲ後ニス

第九條 皇嗣精神若ハ身軀ノ不治ノ重患アリ又ハ重大ノ事故アルトキハ皇族會議及

樞密顧問ニ諮詢シ前數條ニ依リ繼承ノ順序ヲ換フルコトヲ得

第二章 踐祚即位

第十條 天皇崩スルトキハ皇嗣即チ踐祚シ祖宗神器ヲ承グ

第十一條 即位ノ禮及大嘗祭ハ京都ニ於テ之ヲ行フ

第十二條 踐祚ノ後元號ヲ建テ一世ノ間ニ再ヒ改メサルコト明治元年ノ定制ニ從フ

第三章 成年立太子

第十三條 天皇及皇太子皇太孫ハ滿十八年ヲ以テ成年トス

第十四條 前條ノ外ノ皇族ハ滿廿年ヲ以テ成年トス

第十五條 儲嗣タル皇子ヲ皇太子トス皇太子在ラサルトキハ儲嗣タル皇孫ヲ皇太孫トス

第十六條 皇后皇太子皇太子ヲ立ツルトキハ詔書ヲ以テ之ヲ公布ス

第四章 敬稱

第十七條 天皇太皇太后皇太后皇孫后ノ敬稱ハ陛下トス

第十八條 皇太子皇太妃子孫太孫皇太孫妃親王妃内親王王妃女王ノ敬稱ハ殿

下トス

第十九條 天皇未タ成年ニ達セサルハ攝政ヲ置ク

第二十條 攝政ハ成年ニ達シタル皇太子又ハ皇太孫之ニ任ス

第二十一條 皇太子皇太孫在ラサルカ又ハ未タ成年ニ達セサルトキハ左ノ順序ニ依リ攝政ニ任ス

第一 親王及王

第二 皇后

第三 皇太后

第四 太皇太后

第五 内親王及女王

第二十二條 皇族男子ノ攝政ニ任スルハ皇位繼承ノ順序ニ從フ其ノ女子ニ於ケルモ亦之ニ準ス

第二十三條 皇族女子攝政ニ任スルハ其ノ配偶アラサル者ニ限ル

第二十四條 最近親ノ皇族未タ成年ニ達セサルカ又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ他ノ皇族

攝政ニ任シタルトキハ後來最近親ノ皇族成年ニ達シ又ハ其ノ事故既ニ除クト雖皇

太子及皇太孫ニ對スルノ外其ノ任ヲ讓ルコトナシ

第二十五條 攝政又ハ攝政タルヘキ者精神若ハ身体ノ重患アリ又ハ重大ノ事故アル

トキハ皇族會議及樞密顧問ノ議ヲ經テ其ノ順序ヲ換フルコトヲ得

第六章 太傅

第二十六條 天皇未タ成年ニ達セザルトキハ太傅ヲ置キ保育ヲ掌ラシム

第二十七條 先帝遺命ヲ以テ太傅ヲ任セザルシトキハ攝政ヨリ皇族會議及樞密顧問ニ諮議シ之ヲ選任ス

第二十八條 太傅ハ攝政及其ノ子孫之ニ任スルコトヲ得ス

第二十九條 攝政ハ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シタル後ニ非サレハ太傅ヲ退職セシムルコトヲ得ス

第七章 皇族

第三十條 皇族ト稱フルハ太皇太后皇太后皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃親王親王妃内親王王王妃女王ヲ謂フ

第三十一條 皇子ヨリ皇玄孫ニ至ルマテハ男ヲ親王女王ヲ内親王トシテ五世以下ハ男ヲ女王ヲ王女トス

第三十二條 天皇直系ヨリ入テ大統ヲ承クハ皇兄弟姉妹ハ王女王タル者ニ特ニ親王内親王ノ號ヲ宣賜ス

第三十三條 皇族ノ誕生命名婚嫁薨去ハ宮内大臣之ヲ公告ス

第三十四條 皇統譜及前條ニ關ル記録ハ圖書寮ニ於テ尙藏ス

第三十五條 皇族ハ天皇之ヲ監督ス

第三十六條 攝政在任ノ時ハ前條ノ事ヲ攝行ス

第三十七條 皇族男女幼年ヨリシテ父ナキ者ハ宮内ノ宮僚ニ命シ保育ヲ掌ラシム事宜ニ依リ天皇其ノ父母ノ擧ルル後見人ヲ認可シ又ハ之ヲ敕撰スヘシ

第三十八條 皇族ノ後見人ハ成年以上ノ皇族ニ限ル

第三十九條 皇族ノ婚嫁ハ同族又ハ敕旨ヨリ特ニ認許セラレタル華族ニ限ル

第四十條 皇族ノ婚嫁ハ敕許ニ由ル

第四十一條 皇族ノ婚嫁ヲ許可スルノ勅書ハ宮内大臣之ニ副署ス

第四十二條 皇族ノ養子ヲ爲スコトヲ得ス

第四十三條 皇族國疆ノ外ニ旅行セントスルトキハ敕許ヲ請フヘシ

第四十四條 皇族女子ノ臣籍ニ嫁シタル者ハ皇族ノ列ニ在ラス但シ特旨ニ依リ仍内親王女王ノ稱ヲ有セシムルコトアルヘシ

第八章 世傳御料

第四十五條 土地物件ノ世傳御料ト定メタルモノハ分割讓與スルコトヲ得ス

第四十六條 世傳御料ニ編入スル土地物件ハ樞密顧問ニ諮詢シ敕書ヲ以テ之ヲ定メ

宮内大臣之ヲ公告ス

第九章 皇室經費

第四十七條 皇室經費ハ皇室會議ニ由リテ之ヲ定メ

第四十七條 皇室諸般ノ經費ハ特ニ常額ヲ定メ國庫ヨリ支出セシム

第四十八條 皇室繼費ノ豫算決算檢査及其他ノ規則ハ皇室會計法ノ定ムル所ニ依ル

第十章 皇族訴訟及懲戒
第四十九條 皇族相互ノ民事ノ訴訟ハ敕旨ニ依リ宮内省ニ於テ裁判員ヲ命ジ裁判セ

シメ勅裁ヲ經テ之ヲ執行ス

第五十條 人民ヨリ皇族ニ對スル民事ノ訴訟ハ東京控訴院ニ於テ之ヲ裁判ス但シ皇

族ノ代人ヲ以テ訴訟ニ當ラシム自ラ出ルヲ要セス

第五十一條 皇族ハ赦許ヲ得ルニ非サレハ拘引シ又ハ裁判所ニ召喚スルコトヲ得ス

第五十二條 皇族其ノ品位ヲ辱ムル所行アリ又ハ皇族ニ對シ忠順ヲ缺クトキハ勅

旨ヲ以テ之ヲ懲戒シ其ノ重キ者ハ皇族特權ノ一部又ハ全部ヲ停止シ若ハ剝奪スヘ

シ

第五十三條 皇族遺產ノ所行アルトキハ特旨ヲ以テ治産ノ禁ヲ宣告シ其ノ管財者ヲ

任スヘシ

第五十四條 前三條ハ皇族會議ニ諮詢シタル後之ヲ勅裁ス

第五十五章 皇族會議
第五十五條 皇族會議ハ成吉以上ノ皇族男子ヲ以テ組織シ内大臣樞密院議長宮内大

臣司法大臣大審院長ヲ以テ參列セシム

第五十六條 天皇ハ皇族會議ニ親臨シ又ハ皇族中ノ一員ニ命ジ議長ヲシム

第五十七條 現在ハ皇族五世以下親王ノ號ヲ宣賜シタル者ハ舊ニ依ル

第五十八條 皇位繼承ノ順序ハ總テ實系ニ依ル現在皇養子皇猶子又ハ他ノ繼嗣タル

皇孫ニ就テ以テ之ヲ繼承スルコトナシ

第五十九條 親王内親王王女王女ノ品位ハ之ヲ廢ス

第六十條 親王ノ家格及其ノ他此ノ典範ニ抵觸スル例規ハ總テ之ヲ廢ス

第六十一條 皇族財産歳費及諸規則ハ別ニ之ヲ定ムヘシ

第六十二條 將來此ノ典範ノ條項ヲ改正シ又ハ増補スヘキノ必要アルニ當テハ皇族

會議及樞密顧問ニ諮詢シテ之ヲ勅定スヘシ

◎議院法

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ議院法ヲ裁可シ之ヲ公布セシマ併テ貴族院及衆議院成立

ノ日ヨリ各々本法ニ依リ施行スヘキコトヲ命ス

明治二十二年三月十一日

- 内閣總理大臣 伯爵 黑田清隆
- 樞密院議長 伯爵 伊藤博文
- 外務大臣 伯爵 大隈重信

海軍大臣	伯倫	西鄉	從道
農商務大臣	伯爵	井上	馨
司法大臣	伯爵	山田	顯義
大藏大臣兼內務大臣	伯爵	松方	正義
陸軍大臣	伯爵	大山	嚴
文部大臣	子爵	森	有禮
逓信大臣	子爵	榎本	武揚

○議院法

第六條 第一章 帝國議會ノ召集成立及開會
 第六條 帝國議會召集ヲ勅諭ハ集會ノ期日ヲ定メ少クモ四十日前ニ之ヲ發布スヘシ
 第三條 衆議院ノ議長副議長ハ其ノ院ニ於テ各々三名ノ候補者ヲ撰舉セシメ其ノ中ヨリ之ヲ勅任スルヲ以テ之ヲ任ズル
 議長副議長ニ勅任セシメテ之ヲ任ズルマデハ書記官長議長ノ職ヲ行フヘシ
 第四條 各議院ハ抽籤法ニ依リ總議員ヲ數部ニ分割シ每部々長一名ヲ部員中ニ於テ撰舉スルヲ以テ之ヲ任ズル

第五條 兩議院院成立後タル後敕命ヲ以テ帝國議會開會ノ日ヲ定メ兩院議員ヲ貴族ニ會合セシメ開院式ヲ行フヘシ
 第六條 前條ニ於テ貴族院議長ハ議長ノ職務ヲ行フヘシ
 第七條 各議院ノ議長副議長ハ各々一員トス

第八條 衆議院ノ議長副議長ハ任期ハ議員ノ任期ニ依ル
 第九條 衆議院ノ議長副議長ハ其ノ他ノ事故ニ依リ闕位トナリタルトキハ繼任者ヲ任期ハ仍前任者ノ任期ニ依リ之ヲ任ズル

第十條 各議院ノ議長ハ其ノ議事ノ秩序ヲ保持シ議事ヲ整理シ院外ニ對シ議院ヲ代表ス

第十一條 議長ハ議會開會ノ間ニ於テ仍其ノ議院ノ事務ヲ指揮ス
 第十二條 議長ハ常任委員會及特別委員會ニ出席シ發言スルコトヲ得

第十三條 議院ニ於テ議長故障アルトキハ副議長之ヲ代理ス
 第十四條 各議院ニ於テ議長副議長俱ニ故障アルトキハ假議長ヲ撰舉シ議長ノ職務ヲ行フルヲ以テ之ヲ任ズル
 第十五條 各議院ノ議長副議長ハ任期滿限ニ達スルモ後任者ノ勅任セララルマテハ

仍其ノ職務ヲ繼續スヘシ

第十條 各議院ニ書記官長一人書記官數人ヲ置ク

書記官長ハ勅任トシ書記官ハ委任トス

第十七條 書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ書記官ノ事務ヲ提理シ公文ニ署名ス

書記官ノ外他ノ必要ナル職員ハ書記官長之ヲ任ス

第十八條 兩議院ノ經費ハ國庫ヨリ之ヲ支出ス

第三章 議長副議長及議員歳費

第十九條 各議院ノ議長ハ歳費トシテ四千圓副議長ハ三千圓貴族院ハ被撰及勅任議

員及衆議院ノ議員ハ八百圓ヲ受ケ別ニ定ムル所ノ規則ニ從ヒ旅費ヲ受ケ

但シ召集ニ應ゼザル者ハ歳費ヲ受ケルコトヲ得ス

議長副議長及議員ハ歳費ヲ辨スルコトヲ得ス

官吏ニシテ議員タル者ハ歳費ヲ受ケルコトヲ得ス

第二十五條ノ場合ニ於テハ第二項歳費ノ外議院ノ定ムル所ニ依リ一日五圓ヨリ多

カヲサレテ手當ヲ受ケ

第四章 委員

第二十六條 各議院ノ委員ハ全院委員常任委員及特別委員ハ三種トス

全院委員ハ議院ノ全員ヲ以テ委員ト爲スモノトス

常任委員ハ事務ノ必要ニ依リ之ヲ數科ニ分割シ負擔ノ事件ヲ審査スル爲ニ各部ニ

於テ同數ノ委員ヲ總議員中ヨリ選舉シ一會期中其ノ任ニ在ルモノトス

特別委員ハ一事件ヲ審査スル爲ニ議院ノ撰擧ヲ以テ特ニ付託ヲ受ケルモノトス

第二十一條 全院委員長ハ一會期コトニ開會ノ始ニ於テ之ヲ撰擧ス

常任委員長及特別委員長ハ各委員會ニ於テ之ヲ互撰ス

第二十二條 全院委員長ハ議院三分ノ一以上常任委員會及特別委員會ハ其ノ委員半

數以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第二十三條 常任委員及特別委員會ハ議員ノ外傍聽ヲ禁ス

但シ委員會ノ決議ニ由リ議員ノ傍聽ヲ禁スルコトヲ得

第二十四條 各委員長ハ委員會ノ經過及結果ヲ議院ニ報告スヘシ

第二十五條 各議院ハ政府ノ要求ニ依リ又ハ其ノ同意ヲ經テ議會閉會ノ間委員ヲシ

テ議會ノ審査ヲ繼續セシムルコトヲ得

第五章 會議

第二十六條 各議院ノ議長ハ議事日程ヲ定メテ之ヲ議院ニ報告ス

議事日程ハ政府ヨリ提出シタル議案ヲ先ニスヘシ

但他ノ議事緊急ノ場合ニ於テ政府ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニアラス

第二十七條 法律ノ議案ハ三讀會ヲ經テ之ヲ議決スヘシ

但シ政府ノ要求若ハ議員十人以上ノ要求ニ由リ議院ニ於テ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ可決シタルトキハ三讀會ノ順序ヲ省奪スルコトヲ得

第二十八條 政府ヨリ提出シタル議案ハ委員ノ審査ヲ經スシテ之ヲ議決スルコトヲ得ス但シ緊急ノ場合ニ於テ政府ノ要求ニ由ルモノハ此限ニ在ラス

第二十九條 凡テ議案ヲ發議シ及議院ノ會議ニ於テ議案ニ對シ修正ノ動議ヲ發スルモノハ二十人以上ノ賛成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス

第三十條 政府ハ何時タリトモ既ニ提出シタル議案ヲ修正シ又ハ撤回スルコトヲ得第三十一條 凡テ議案ハ最後ニ議決シタル議院ノ議長ヨリ國務大臣ヲ經由シテ之ヲ奏上スヘシ

但シ兩議院ノ一ニ於テ提出シタル議案ニシテ他ノ議院ニ於テ否決シタルトキハ第五十四條第二項ノ規定ニ由ル

第三十二條 兩議院ノ議決ヲ經テ奏上シタル議案ニシテ裁可セラル、モノハ次ノ會期マテニ公布セラルシ

第六章 停會閉會

第三十三條 政府ハ何時タリトモ十五日以内ニ於テ議院ノ停會ヲ命スルコトヲ得議院停會ノ後再ヒ開會シタルトキハ前會ノ議事ヲ繼續スヘシ

第三十四條 衆議院ノ解散ヲ依リ貴族院ニ停會ヲ命スタル場合ニ於テハ前條第二項ノ例ニ依ラス

第三十五條 帝國議會閉會ノ場合ニ於テ議案建議請願ノ議決ニ至ラサルモノハ後會ニ繼續セス

但シ第二十五條ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第三十六條 閉會ノ勅命ニ由リ兩議院合會ニ於テ之ヲ舉行スヘシ

第七章 祕密會議

第三十七條 各議院ノ會議ハ左ノ場合ニ於テ公會ヲ停ムルコトヲ得

- 一 議長又ハ議員十人以上ノ發議ニ由リ議院之ヲ可決シタルトキ
- 二 政府ヨリ要求ヲ受ケタルトキ

第三十八條 議長又ハ議員十人以上ヨリ祕密會議ヲ發議シタルトキハ議長ハ直ニ傍聽人ヲ退去セシメ討論ヲ用ヒスシテ可否ノ決ヲ取ルヘシ

第三十九條 祕密會議ハ刊行スルヲ許サス

第八章 豫算案ノ議定

第四十條 政府ヨリ豫算案ヲ衆議院ニ提出シタルトキハ豫算委員ハ其ノ院ニ於テ受取リタル日ヨリ十五日以内ニ審査ヲ終リ議院ニ報告スヘシ

第四十一條 豫算案ニ就キ議院ノ會議ニ於テ修正ノ動議ヲ發スルモノハ三十人以上

ノ賛成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス

第九章 國務大臣及政府委員

第四十二條 國務大臣及政府委員ノ發言ハ何時タリトモ之ヲ許スヘシ
但シ之カ爲ニ議員ノ演説ヲ中止セシムルコトヲ得ス

第四十三條 議院ニ於テ議案ヲ委員ニ付シタルトキハ國務大臣及政府委員ハ何時タ
リトモ委員會ニ出席シ意見ヲ述フルコトヲ得

第四十四條 委員會ハ議長ヲ經由シテ政府委員ノ説明ヲ求ムルコトヲ得

第四十五條 國務大臣及政府委員ハ議員タル者ヲ除ク外議院ノ會議ニ於テ表決ノ數
ニ預カラス

第四十六條 常任委員會又ハ特別委員會ヲ開クトキハ每會委員長ヨリ其ノ主任ノ國
務大臣及政府委員ニ報知スヘシ

第四十七條 議事日程及議事ニ關ル報告ハ議員ニ分配スルト同時ニ之ヲ國務大臣及
政府委員ニ送付スヘシ

第十章 質問

第四十八條 兩議院ノ議員政府ニ對シ質問ヲ爲サムトスルトキハ三十人以上ノ賛成
アルヲ要ス

質問ハ簡明ナル主意書ヲ作リ賛成者ト共ニ連署シテ之ヲ議長ニ提出スヘシ

第四十九條 質問主意書ハ議長之ヲ政府ニ轉送シ國務大臣ハ直ニ答辨ヲ爲シ又ハ答
辨スヘキ期日ヲ定メ若シ答辨ヲ爲ササルトキハ其ノ理由ヲ明示スヘシ

第五十條 國務大臣ノ答辨ヲ得又ハ答辨ヲ得サルトキハ質問ノ事件ニ付議員ハ建議
ノ動議ヲ爲スコトヲ得

第十一章 上奏及建議

第五十一條 各議院上奏セムトスルトキハ文書ヲ奉呈シ又ハ議長ヲ以テ總代トシ謁
見ヲ請ヒ之ヲ奉呈スルコトヲ得

各議院ノ建議ハ文書ヲ以テ政府ニ呈出スヘシ
第五十二條 各議院ニ於テ上奏又ハ建議ノ動議ハ三十人以上ノ賛成アルニ非サレハ
議題ト爲スコトヲ得ス

第十二章 兩議院關係

第五十三條 豫算ヲ除クノ外政府ノ議案ヲ付スルハ兩議院ノ内何レヲ先ニスルモ便
宜ニ依ル

第五十四條 甲議院ニ於テ政府ノ議案ヲ可決シ又ハ修正シテ議決シタルトキハ乙議
院ニ之ヲ移スヘシ乙議院ニ於テ甲議院ノ議決ニ同意シ又ハ否決シタルトキハ之ヲ
奏上スルト同時ニ甲議院ニ通知スヘシ

乙議院ニ於テ甲議院ノ提出シタル議案ヲ否決シタルトキハ之ヲ甲議院ニ通知スヘシ

第五十五條 乙議院ニ於テ甲議院ヨリ移シタル議案ニ對シ之ヲ修正シタルトキハ之ヲ甲議院ニ回付スヘシ甲議院ニ於テ乙議院ノ修正ニ同意シタルトキハ之ヲ奏上スルト同時ニ乙議院ニ通知スヘシ若シ之ニ同意セサルトキハ兩院協議會ヲ開クコトヲ求ムヘシ甲議院ヨリ協議會ヲ開クコトヲ求ムルトキハ乙議院ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十六條 兩院協議會ハ兩議院ヨリ各々十人以下同數ノ委員ヲ撰舉シ會同セシム委員ノ協議案成立スルトキハ議案ヲ政府ヨリ受取り又ハ提出シタル甲議院ニ於テ先ツ之ヲ議シ次ニ乙議院ニ移スヘシ

第五十七條 國務大臣政府委員及各議院ノ議長ハ何時タリトモ兩院協議會ニ出席シテ意見ヲ述ブルコトヲ得

第五十八條 兩院協議會ハ傍聽ヲ許サス

第五十九條 兩院協議會ニ於テ可否ノ決ヲ取ルハ無名投票ヲ用キ可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第六十條 兩院協議會ノ議長ハ兩議院協議委員ニ於テ各々一員ヲ互撰シ每會更代シテ席ニ當ラシムヘシ其ノ初會ニ於ケル議長ハ抽籤法ヲ以テ之ヲ定ム

第六十一條 本章ニ定ムル所ノ外兩議院交渉事務ノ規程ハ其協議ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第十三章 請願

第六十二條 各議院ニ呈出スル人民ノ請願書ハ議員ノ紹介ニ依リ議院之ヲ受取ルヘシ

第六十三條 請願書ハ各議院ニ於テ請願委員ニ付シ之ヲ審査セシム

請願委員請願書ヲ以テ規程ニ合ハスト認ムルトキハ議長ハ紹介ノ議員ヲ經テ之ヲ却下スヘシ

第六十四條 請願委員ハ請願文書表ヲ作り其ノ要領ヲ録シ每週一回議院ニ報告スヘシ

請願委員特別ノ報告ニ依レル要求又ハ議員三十人以上ノ要求アルトキハ各議院ハ其ノ請願事件ヲ會議ニ付スヘシ

第六十五條 各議院ニ於テ請願ノ採擇スヘキコトヲ議決シタルトキハ意見書ヲ附シ其ノ請願書ヲ政府ニ送付シ事宜ニ依リ報告ヲ求ムルコトヲ得

第六十六條 法律ニ依リ法人ト認メラレタル者ヲ除ク外總代ノ名義ヲ以テスル請願ハ各議院之ヲ受クルコトヲ得

第六十七條 各議院ハ憲法ヲ變更スルノ請願ヲ受クルコトヲ得ス

第六十八條 請願書ハ總テ哀願ノ體式ヲ用ウヘシ若請願ノ名義ニ依ラス若ハ其ノ體ニ違フモノハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第六十九條 請願書ニシテ皇室ニ對シ不敬ノ語ヲ用キ政府又ハ議院ニ對シ侮辱ノ式語ヲ用キタルモノハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第七十條 各議院ハ司法及行政裁判ニ于預スルノ請願ヲ受クルコトヲ得ス

第七十一條 各議院ハ各別ニ請願ヲ受ケ互ニ相于預セス

第七十二章 議院ト人民及官廳地方議會トノ關係

第七十二條 各議院ハ人民ニ向テ告示ヲ發スルコトヲ得ス

第七十三條 各議院ハ審査ノ爲ニ人民ヲ召喚シ及議員ヲ派出スルコトヲ得ス

第七十四條 各議院ヨリ審査ノ爲ニ政府ニ向テ必要ナル報告又ハ文書ヲ求ムルトハ政府ハ秘密ニ涉タルモノヲ除ク外其求ニ應スヘシ

第七十五條 各議院ハ國務大臣及政府委員ノ外他ノ官廳及地方議會ニ向テ照會往復スルコトヲ得ス

第十五章 退職及議員資格ノ異議

第七十六條 衆議院ノ議員ニシテ貴族院議員ニ任セラレ又ハ法律ニ依リ議員タルコトヲ得サル職務ニ任セラルトキハ退職者トス

第七十七條 衆議院ノ議員ニシテ選舉法ニ記載シタル被選ノ資格ヲ失ヒタルトキハ

退職者トス

第七十八條 衆議院ニ於テ議員ノ資格ニ付異議ヲ生シタルトキハ特ニ委員ヲ設ケ時日ヲ期シテ之ヲ審査セシメ其ノ報告ヲ待テ之ヲ議決スヘシ

第七十九條 裁判所ニ於テ當撰訴訟ノ裁判手續ヲ爲シタルモノハ衆議院ニ於テ同一事件ニ付審査スルコトヲ得ス

第八十條 議員其ノ資格ナキコトヲ證明セラル、ニ至ルマテハ議院ニ於テ位列及發言ノ權ヲ失ハス

但シ自身ノ資格審査ニ關ル會議ニ對シテハ辨スルコトヲ得ルモ其ノ表決ニ預カサルコトヲ得ス

第十六章 請暇辭職及補闕

第八十一條 各議院ノ議長ハ一週間ニ超エサル議員ノ請暇ヲ許可スルコトヲ得其ノ一週間ヲ超エサルモノハ議院ニ於テ之ヲ許可ス期限ナキモノハ之ヲ許可スルコトヲ得ス

第八十二條 各議院ノ議員ハ正當ノ理由ヲ以テ議長ニ届出スシテ會議又ハ委員會ニ闕席スルコトヲ得ス

第八十三條 衆議院ハ議員ノ辭職ヲ許可スルコトヲ得

第八十四條 何等ノ事由ニ拘ラス衆議院議員ニ闕員ヲ生シタルトキハ議長ヨリ内務

大臣ニ通牒シ補闕選舉ヲ求ムヘシ

第十七章 紀律及警察

第八十五條 各議院開會中其ノ紀律ヲ保持セムカ爲内部警察ノ權ハ此法律及各議院ニ於テ定ムル所ノ規則ニ從ヒ議長之ヲ施行ス

第八十六條 各議院ニ於テ要スル所ノ警察官吏ハ政府之ヲ派出シ議長ノ指揮ヲ受ケシム

第八十七條 會議中議員此ノ法律若ハ議事規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ルトキハ議長ハ之ヲ警戒シ又ハ制止シ又ハ發言ヲ取消サシム命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ルマテ發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシムルコトヲ得

第八十八條 議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ジルコトヲ得

第八十九條 傍聽ハ議場ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ハ之ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ之ヲ警察官廳ニ引渡サシムルコトヲ得

傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシムルコトヲ得

第九十條 議場ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ國務大臣政府委員及議員ハ議長ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得

第九十一條 各議院ニ於テ皇室ニ對シ不敬ノ言語論說ヲ爲スコトヲ得ス

第九十二條 各議院ニ於テ無禮ノ語ヲ用ヒルコトヲ得ス及他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス

第九十三條 議院又ハ委員會ニ於テ誹毀侮辱ヲ被リタル議員ハ之ヲ議院ニ訴ヘテ處分ヲ求ムヘシ私ニ相報復スルコトヲ得ス

第十八章 懲罰

第九十四條 各議院ハ其ノ議員ニ對シ懲罰ノ權ヲ有ス

第九十五條 各議院ニ於テ懲罰事犯ヲ審査スル爲ニ懲罰委員ヲ設ク懲罰事犯アルトキハ議長ハ先ツ之ヲ委員ニ付シ審査セシメ議院ノ議ヲ經テ之ヲ宣告ス

各委員會又ハ各部ニ於テ懲罰事犯アルトキハ委員長又ハ部長ハ之ヲ議長ニ報告シ處分ヲ求ムヘシ

第九十六條 懲罰ハ左ノ如シ

一 公開シタル議場ニ於テ譴責ス

二 公開シタル議場ニ於テ適當ノ謝辭ヲ表セシム

三 一定ノ時間出席ヲ停止ス

四 除名

衆議院ニ於テ除名ハ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ之ヲ決スヘシ

第九十七條 衆議院ハ除名ノ議員再選ニ當ル者ヲ拒ムコトヲ得ス

第九十八條 議員ハ二十人以上ノ賛成ヲ以テ懲罰ノ動議ヲ爲スコトヲ得
懲罰ノ動議ハ事犯アリシ後三日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第九十九條 議員正當ノ理由ナクシテ勅諭ニ指定シタル期日後一週間内ニ召集ニ應
セサルコト由リ又ハ正當ノ理由ナクシテ會議又ハ委員會ニ出席スルコト由リ若ハ請暇
ノ期限ヲ過キタルコト由リ議長ヨリ特ニ招狀ヲ發シ其ノ招狀ヲ受ケタル後一週間内
ニ仍故ナク出席セサル者ハ貴族院ニ於テハ其ノ出席ヲ停止シ上奏シテ勅裁ヲ請フ
ヘク衆議院ニ於テハ之ヲ除名スヘシ

◎衆議院議員選舉法

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ衆議院議員選舉法及附録ヲ裁可シ之ヲ公布セシメ併セテ帝
國議會ヲ召集スルノ年ヨリ本法ニ依リ選舉ヲ施行セシムヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治二十二年二月十一日 內閣總理大臣

- 樞密院議長 伯爵 伊藤博文
- 外務大臣 伯爵 大隈重信
- 海軍大臣 伯爵 西郷從道
- 農商務大臣 伯爵 井上馨
- 司法大臣 伯爵 山田顯義
- 大藏大臣兼內務大臣 伯爵 松方正義
- 陸軍大臣 伯爵 大山久
- 文部大臣 子爵 森有禮
- 遞信大臣 子爵 榎本武揚

法律第三號

◎衆議院議員選舉法

第一章 選舉區畫

第一條 衆議院ノ議員ハ各府縣ノ選舉區ニ於テ之ヲ選舉セシム其ノ選舉區及各選舉
區ニ於テ選舉スヘキ定員ハ此ノ法律ノ附録ニ以テ之ヲ定ム

第二條 府縣知事ハ其ノ府縣ノ選舉區ノ選舉ヲ監督ス

第三條 一選舉區ノ選舉ハ郡長又ハ市長其ノ選舉長トナリ之ヲ管理ス
第二選舉區ニシテ數郡市ニ涉ルトキハ府縣知事ハ其ノ郡長又ハ市長ノ一人ヲ
任命シ選舉長トシムヘシ

第四條 二市ノ域内ニ於テ數選舉區アルトキハ府縣知事ハ區長ヲシテ其ノ選舉長ト
シムヘシ

第五條 選舉ニ關ル費用ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘシ

第三章 選舉人ノ資格

第六條 選舉人マ左ノ資格ヲ備フルコトヲ要ス

第一 日本臣民ノ男子ニシテ年齡二十五歲以上ノ者

第二 選舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上止其ノ府縣内ニ於テ本籍ヲ定メ住居

ニ仍引續キ住居スル者

第三 選舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ府縣内ニ於テ直接國稅十五圓

以上ヲ納メ仍引續キ納ムル者

但シ所得稅ニ付テハ人名簿調製ノ期日ヨリ前滿三年以上之ヲ納メ仍引續

キ納ムル者ニ限ル

第七條 家督ニ由リ財產ヲ相續シタル者ハ其ノ財產ニ付前財產主ノ納稅額ヲ以テ其

ノ納稅資格ニ算入ス

第三章 被選人ノ資格

第八條 被選人タルコトヲ得ル者ハ日本臣民ノ男子滿三十歲以上ニシテ選舉人名簿

調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ選舉府縣内ニ於テ直接國稅十五圓以上ヲ納メ仍

引續キ納ムル者タルヘシ

但シ所得稅ニ付テハ人名簿調製ノ期日ヨリ前滿三年以上之ヲ納メ尙引續キ納ム

ル者ニ限ル

第九條 宮内官裁判官會計検査官收稅官及警察官ハ被選人タルコトヲ得ス

前項ノ外ノ官吏ハ其ノ職務ニ妨ケサル限リ議員ト相兼ヌルコトヲ得

第十條 府縣及郡ノ官吏ハ其ノ管轄區域内ニ於テ被選人タルコトヲ得ス

第十一條 選舉ノ管理ニ關係スル市町村ノ吏員ハ其ノ選舉區ニ於テ被選人タルコト

ヲ得ス

第十二條 神官及諸宗ノ僧侶又ハ教師ハ被選人タルコトヲ得ス

第十三條 府縣會ノ議員ニシテ衆議院ノ議員ニ選舉セラレ當撰テ承諾シタルトキハ

其ノ前職ヲ辭スヘキモノトス

第四章 選舉人及被選人ニ通スル規定

第十四條 左ノ項ノ一ニ觸ルル者ハ選舉人及被選人タルコトヲ得ス

一 瘋癲白癡ノ者

二 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免レサル者

三 公權ヲ剝奪セラレタルモノ又ハ停止中ノ者

四 禁錮ノ刑ニ處セラレ滿期後滿三年ヲ經サル者

五 舊法ニ依リ二年以上ノ懲役若ハ國事犯禁獄ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免

ノ後滿三年ヲ經サル者

六 賭博犯ニ由リ處刑ヲ受ケ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

七 撰舉ニ關ル犯罪ニ由リ撰舉權及被撰權ノ停止中ノ者

第十五條 陸海軍軍人ハ現役中撰舉權ヲ行フコトヲ得ス其被撰人タルコトヲ得ス其ノ休職停職ニアル者亦同シ

第十六條 華族ノ當主ハ衆議院議員ノ撰舉及被撰人タルコトヲ得ス

第十七條 刑事ノ訴ヲ受ケ拘留又ハ保釋中ニ在ル者ハ其ノ裁判確定ニ至ルマテ撰舉權ヲ行フコトヲ得ス及被撰人タルコトヲ得ス

第五章 撰舉人名簿

第十八條 撰舉長ハ毎年四月一日ヲ期トシ各町村長ヲシテ一ノ投票區域内ニ於テ撰舉資格ヲ有スル者ヲ調査シ人名簿二本ヲ調製シ同月二十日マテニ其ノ一本ヲ差出サシムヘシ

撰舉人名簿ハ撰舉人ノ姓名官位職業身分住所生年月納ムル所ノ直接國稅ノ納額並ニ納稅地ヲ記載スヘシ

第十九條 市ニ於テハ左ノ方法ニ依リ撰舉人名簿ヲ調製スヘシ

第一 一市又ハ市内ノ一區ヲ以テ一撰舉區ト爲シタル場合ニ於テハ撰舉長其ノ人名簿ヲ調製スヘシ

第二 市内ニアル數區ヲ合シテ一撰舉區ト爲シタル場合ニ於テハ各區長ヲシテ其

ノ區内ノ人名簿ヲ調製シ撰舉長ニ差出サシムヘシ

第三 郡市ヲ合シテ一撰舉區ト爲シタル場合ニ於テ郡長其ノ撰舉長トナリタルトキハ市長ヲシテ其ノ人名簿ヲ調製シ之ヲ差出サシムヘシ

第四 第三ノ場合ニ於テ市長其ノ撰舉長トナリタルトキハ市長其ノ市内ノ人名簿ヲ調製スヘシ

第三十條 撰舉人其ノ住居スル投票區域ノ外ニ於テ直接國稅ヲ納ムルトキハ納稅地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ノ證狀ヲ得テ撰舉人名簿調製ノ期日マテニ其ノ投票ヲ管理スル町村長又ハ市長若ハ區長ニ差出スヘシ

第二十一條 撰舉長ハ各町村長又ハ市長若ハ區長ヨリ差出シタル撰舉人名簿ヲ合シ一撰舉區ヲ以テ一冊トシ撰舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ備置キ其ノ副本ヲ府縣知事ニ送致スヘシ

第二十二條 撰舉長ハ毎年五月五日ヨリ十五日間一撰舉區撰舉人名簿ノ寫ヲ其ノ撰舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ縦覽セシムヘシ

第二十三條 凡テ撰舉資格アル者撰舉人名簿ニ於テ人名ノ脱漏又ハ誤載アルコトヲ發見シタルトキハ其理由書及證憑ヲ具ヘテ縦覽期限内ニ撰舉長ニ申立テ其ノ改正ヲ求ムルコトヲ得
縦覽期限ヲ經過シタル後前項ノ申立ヲ爲スモ其効ナシ

第二十四條 撰舉長ニ於テ脱漏ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ理由及證據ヲ審査シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ判定スヘシ若其申立ヲ以テ正當ナリト判定シタルトキハ直ニ其人名ヲ記載シ其ノ由ヲ當人所在地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ撰舉區内ニ告示スヘシ

第二十五條 撰舉長ニ於テ誤載ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ理由及證據ヲ審査シ必要ナル場合ニ於テハ申立人又ハ被告人ヲ召喚審問シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ判定スヘシ若誤載ナリト判定シタルトキハ直ニ之ヲ削除シ其ノ由ヲ被告人所在地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ撰舉區内ニ告示スヘシ

第二十六條 申立人又ハ被告人ニ於テ撰舉長ノ判定ニ服セサルトキハ撰舉長ヲ被告トシ判定ノ日ヨリ七日以内ニ始審裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十七條 始審裁判所ニ於テ前條ノ訴訟ヲ受取りタルトキハ他ノ訴訟ノ順序ニ拘ラス速ニ其ノ裁判ヲ爲スヘシ

第二十八條 前條ニ於ケル始審裁判ノ裁判ハ控訴スルコトヲ許サス但シ大審院ニ上告スルコトヲ得

第二十九條 撰舉人名簿ハ六月十五日ヲ以テ確定期限トシ次年ノ調製ノ日マデ之ヲ据置クヘシ但シ裁判言渡書ニ依リ改正スヘキモノハ撰舉長ニ於テ其ノ言渡書ヲ受取りタル時ヨリ二十四日以内ニ之ヲ改正シ其ノ由ヲ申立人又ハ被告人所在地ノ町村

長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ撰舉區内ニ告示スヘシ

第六章 撰舉ノ期日及投票所

第三十條 撰舉ノ投票ハ通常四月一日ニ之ヲ行フ

但シ衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ勅令ヲ以テ臨時撰舉ノ期日ヲ定メ少クトモ三十日以内ニ公布スヘシ

第三十一條 投票所ハ町村役場又ハ町村長ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ設ケ町村長之ヲ管理ス

第三十二條 一町村ニ於テ撰舉人少數ニシテ一ノ投票所ヲ設クルニ足ラサルトキハ數町村ヲ合併スルコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ郡長ハ府縣知事ノ許可ヲ經テ合併ノ町村及投票所並ニ投票所管理ノ町村長ヲ指定スヘシ

第三十三條 町村長ハ其ノ管理スル投票區域内ニ於ケル撰舉人中ヨリ立會人二名以上五名以下ヲ定メ遅クトモ撰舉ノ期日ヨリ三日以前ニ之ヲ本人ニ通知シ撰舉ノ當日投票所ニ參會セシムヘシ立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス

第七章 投票

第三十四條 投票ハ午前七時ニ始メ午後六時ニ終ル

第三十五條 投票函ハ二重ノ蓋ヲ造リ二種ノ鑰ヲ設ケ其ノ一ハ町村長之ヲ管守シ其ノ一ハ立會人之ヲ管守スヘシ

第三十六條 町村長ハ投票ノ初ニ當リ立會人ト共ニ參會シタル撰舉人ノ面前ニ於テ投票函ヲ開キ其ノ空虛ナルコトヲ示スヘシ

第三十七條 選舉人ハ撰舉ノ當日日本人自テ投票所ニ至リ撰舉人名簿ノ對照ヲ經テ投票スヘシ

第三十八條 投票用紙ハ府縣各々一定ノ式ヲ用キ撰舉ノ當日投票所ニ於テ町村長ヨリ之ヲ各撰舉人ニ交付スヘシ

撰舉人ハ投票所ニ於テ投票用紙ニ被撰人ノ姓名ヲ記載シ次ニ自己ノ姓名住所ヲ記載シテ捺印スヘシ

第三十九條 撰舉人ニシテ文字ヲ書スルコト能ハサル由テ申立ルトキハ町村長ハ吏員ヲシテ代書セシメ之ヲ本人ニ讀ミ聞カセ捺印投票セシメ其ノ由ヲ投票明細書ニ記載スヘシ

第四十條 二人以上ノ議員ヲ撰舉スヘキ撰舉區ニ於テハ連名投票ヲ用ウヘシ

第四十一條 撰舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ外投票スルコトヲ得ス但シ撰舉人名簿ニ記載セラルヘキ裁判官渡書ヲ所持シ撰舉ノ當日投票所ニ至ル者アルトキハ町村長ハ投票用紙ヲ交付シ投票セシメ其ノ由ヲ投票明細書ニ記載スヘシ

第四十二條 投票終ルノ時期ニ至リタルトキハ町村長ハ其ノ由ヲ告ケ投票函ヲ閉鎖スヘシ投票函閉鎖ノ後ハ總テ投票スルコトヲ許サス

第四十三條 町村長ハ投票明細書ヲ作り投票ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ立會人ト共ニ署名スヘシ

第四十四條 町村長ハ一名又ハ數名ノ立會人ト共ニ投票ノ翌日投票函及投票明細書ヲ併セテ撰舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ送致スヘシ

第四十五條 一撰舉區内ニアル島嶼ニシテ前條ノ期限内ニ投票函ヲ送致スルコト能ハサル情况アルトキハ府縣知事ハ人名簿確定ノ日ヨリ撰舉ノ期日マテノ間ニ於テ適宜ニ其ノ投票ノ期日ヲ定メ撰舉會ノ期日マテニ其ノ投票函ヲ送致セシムルコトヲ得

第八章 撰舉會

第四十六條 撰舉會ハ撰舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ之ヲ開ク

第四十七條 撰舉長ハ各投票所ヨリ參會シタル立會人ノ中ヨリ抽籤ヲ以テ撰舉委員三名以上七名以下ヲ定ムヘシ

第四十八條 撰舉長ハ投票函送達ノ翌日撰舉委員立會ノ上各投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スヘシ若投票ト投票人トノ總數ニ差異ヲ生シタルトキハ其ノ由ヲ選舉明細書ニ記載スヘシ

第四十九條 總數ノ計算ヲ終リタルトキハ選舉長ハ選舉委員ト共ニ投票ヲ點檢スヘシ

第五十條 各撰舉區ノ撰舉人ハ其ノ撰舉會ニ參觀ヲ求ムルコトヲ得

第五十一條 左ニ掲グル投票ハ無効トス

一 撰舉人名簿ニ記載ナキ者ノ投票但シ裁判官渡書ヲ所持シタルニ依リ投票シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

二 成規ノ用紙ヲ用キサルモノ

三 撰舉人自己姓名ヲ記載セサルモノ

四 資格ナキ被選人ノ姓名ヲ記載スルモノ但シ連名投票ニ列記スル人員中資格アル者ニ付テハ其ノ効アルモノトス

五 誤字又ハ汚染塗抹毀損ニ依リ記載スル所ノ撰舉人又ハ被選人ノ姓名ヲ認知スヘカラサルモノ但シ通常ノ假名字ヲ用キ又ハ誤字ニ係ルモ明ニ其ノ姓名ヲ認知スルコトヲ得ルモノハ此ノ限ニ在ラス

六 第三十八條第二項ニ規定シタル外他ノ文字ヲ記載シタルモノ但シ被選人ノ指名ヲ誤ラサル爲ニ其ノ官位職業身分住所ヲ附記シ又ハ敬稱ヲ用キタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五十二條 投票効力ノ有無ニ付疑義アルトキハ選舉委員ノ意見ヲ聞キ選舉長之ヲ

決定ス此ノ決定ニ對シテハ撰舉會場ニ於テ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第五十三條 無効ノ投票ハ抹線ヲ加ヘ其ノ由ヲ撰舉明細書ニ記載シ一箇年間保存シ期限ヲ經過シタル後之ヲ燒棄ツヘシ

第五十四條 一投票ニシテ其ノ撰舉スヘキ定員ヨリ多キ被選人ノ姓名ヲ記載シタルトキハ其ノ定員ニ超エタル人名ヲ末尾ヨリ除却スヘシ

連名投票ニシテ其ノ撰舉スヘキ定員ニ足ラサルトキハ現ニ記載シタル者ノミヲ計算スヘシ

但シ一人ノ姓名ヲ複記シタル者ハ一人トシテ之ヲ計算スヘシ

第五十五條 投票ハ六十日間郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ保存シ期限ヲ經過シタル後之ヲ燒棄ツヘシ

第五十六條 撰舉ニ關リ訴訟又ハ告訴告發アルトキハ第五十三條第五十五條ノ期限ヲ經過スルモ裁判確定ニ至ルマテ其ノ投票ヲ保存スヘシ

第五十七條 撰舉長ハ撰舉明細書ヲ作り撰舉點檢ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ撰舉委員ト共ニ署名シテ之ヲ保存スヘシ

第九章 當選人

第五十八條 投票總數ヲ最多數ヲ得タル者ハ之ヲ當選人トス

投票同數ナルトキハ生年月ノ長者ヲ以テ當選人トス同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ

之ヲ定ムヘシ

第五十九條 當選人定マリタルトキハ撰舉長ハ直ニ其ノ姓名及投票ノ數ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

第六十條 府縣知事前條ノ届出ヲ受ケタルトキハ各當選人ニ通知シ其ノ姓名ヲ管内ニ告示スヘシ

第六十一條 當選人當撰ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否チ府縣知事ニ届出ヘシ

第六十二條 一人ニシテ數選舉區ノ當選人トナリタル者當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ何レノ選舉區ノ當選ヲ承諾スル旨ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

第六十三條 當選人其ノ府縣内ニ在ル者ハ十日以内其ノ府縣外ニ在ル者ハ二十日以内ニ當選承諾ノ届出ヲ爲サ、ルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト見做スヘシ

第六十四條 當選人ニシテ其ノ當選ヲ辭シ又ハ期限内ニ其ノ當選ノ承諾ヲ届出サルトキハ府縣知事ハ選舉ノ期日ヲ定メ其ノ選舉長ニ命シ再ヒ選舉ヲ行ハシムヘシ

但シ第五十八條第三項ノ場合ニ於テ抽籤ニヨリ當選ヲ得タル者其ノ當選ヲ辭シ又ハ其ノ承諾ヲ届出サルトキハ抽籤ニヨリ當選ヲ失ヒタル者ヲ以テ當選人ト定ムヘシ

第六十五條 各選舉區ノ當選人確守シタルトキハ府縣知事ハ當選證書ヲ付與シ及管

内ニ告示シ並ニ當選人ノ資格ヲ録シテ内務大臣ニ具申スヘシ

第十章 議員ノ任期及補闕撰舉

第六十六條 議員ノ任期ハ四年トス但シ任期ヲ終リタル後仍撰舉ニ應スルトキ得

第六十七條 議員ノ關員アルニ由リ内務大臣ヨリ補闕撰舉ヲ開クヘキ旨ヲ命セラレタルトキハ府縣知事ハ其ノ命ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ關員ノ撰舉區ニ限り臨時選舉ヲ行ヒ補闕議員ヲ選舉セシムヘシ

第六十八條 補闕議員ノ任期ハ前議員ノ任期ニ依ル

第十一章 投票所取締

第六十九條 投票管理ノ町村長ハ投票所ノ秩序ヲ保持シ必要ナル場合ニ於テハ警察

官吏ノ處分ニ付スルコトヲ得

第七十條 凡テ戎器又ハ兇器ヲ携帯スル者ハ投票所ニ入ルコトヲ許サス

第七十一條 選舉人ニ非サル者ハ投票所ニ入ルコトヲ許サス

第七十二條 投票所ニ於テハ一切ノ演說討論及喧嘩ニ涉リ又ハ他人ノ投票ヲ勸誘スルコトヲ禁ス

第七十三條 投票所ニ於テ秩序ヲ紊ル者アルトキハ町村長ハ之ヲ警戒シ其ノ命ニ從

ハサルトキハ之ヲ投票所ノ外ニ退出セシムヘシ

第七十四條 投票ノ外ニ退出セシメタル者ハ犯罪者ヲ除ク外其ノ投票ヲ爲サシムル

爲ニ再ヒ投票所ノ内ニ呼入ルコトヲ得

第七十五條 投票所ニ參會シタル選舉人ニシテ刑法又ハ此ノ法律ノ罰則ヲ犯シタル者ハ投票スルコトヲ禁シ其ノ姓名事由ヲ投票明細書ニ記載スヘシ

第七十六條 投票ニ關ル異議ノ申立ニ付町村長ノ決定ニ對シテハ投票所ニ於テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第七十七條 選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ選舉會ノ參觀ヲ求ムル者ハ總テ第六十九條ヨリ第七十三條ニ至ルマテノ例ニ照シ選舉長之ヲ處分スヘシ

第十二章 當選訴訟

第七十八條 各選舉區ニ於テ當選ヲ失ヒタル者當選人ノ當選ヲ無効トスルノ理由アリト認ムルトキハ當選人ヲ被告トシ第六十五條ニ掲ケタル當選人ノ地名告示ノ日ヨリ三十日以内ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得

其ノ期限ヲ經過シタル後出訴スルモ其ノ効ナシ

第七十九條 原告人ハ訴訟狀ト共ニ保證金トシテ金參百圓又ハ之ニ相當スル公債書證ヲ控訴院書記局ニ預置シヘシ

第八十條 原告人敗訴ノ場合ニ於テ裁判言渡ノ日ヨリ七日以内ニ一切ノ裁判費用ヲ納完セサルトキハ保證金ヨリ之ヲ控除シ尙足ラサルトキハ之ヲ追徴スヘシ

第八十條 同一ノ當選人ニ對シテ二人以上ノ原告人訴訟ヲ爲シタルトキハ控訴院ハ

爲ニ再ヒ投票所ノ内ニ呼入ルコトヲ得

一ノ裁判言渡書ヲ各訴訟人ニ宣告スルコトヲ得

第八十二條 審判中衆議院解散ノ命アルトキハ控訴院ハ其ノ訴訟ヲ棄却スヘシ

第八十三條 原告人訴訟ヲ願下クルトキハ同時ニ其ノ由ヲ新聞紙又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公告スヘシ

第八十四條 控訴院ハ當選訴訟ヲ審判スルニ當リ訴本ニ關係スル刑法又ハ此ノ法律ノ犯罪者ニ對シ直ニ處刑ノ言渡ヲ爲スコトヲ得

但シ此ノ場合ニ於テハ檢察官ヲシテ立會ハシムヘシ

當選訴訟ニ關係セザル場合ニ於ケル此ノ法律ノ犯罪者ハ所轄刑事裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス

第八十五條 控訴院ニ於テ當選訴訟ヲ判定シタルトキハ其ノ裁判言渡書ノ謄本ヲ內務大臣ニ送付スヘシ若衆議院開會スルトキハ併セテ之ヲ議長ニ送付スヘシ

第八十六條 當選訴訟ニ付控訴院ノ裁判ニ對シテハ大審院ニ上告スルコトヲ得

第八十七條 訴訟ノ目的タル當選人ハ其ノ裁判確定ニ至ルマテ衆議院ニ列席スルノ權ヲ失ハス

第八十八條 當選訴訟ニ付本章ニ規定シタルモノノ外總テ普通ノ訴訟手續ニ依ル

第十三章 罰則

第八十九條 納稅額年齡住所及其ノ他選舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シ選舉人名簿

納稅額年齡住所及其ノ他選舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シ選舉人名簿

ニ記載セラレタル者ハ四圓以上四十圓以下罰金ニ處ス

第九十條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物品手形若ハ公私ノ職務ヲ選舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
其ノ授與又ハ約束ヲ受ケタル者亦同シ

第九十一條 直接又ハ間接ニ金錢物品手形若ハ公私ノ職務ヲ選舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シテ投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ刑法第三百三十四條ノ例ヲ以テ論ス
其ノ授與又ハ約束ヲ受ケ投票ヲ爲シ又ハ投票ヲ爲サル者亦同シ

第九十二條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ選舉人ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十三條 選舉人ニ暴行ヲ加ヘ投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ三月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十四條 撰舉人ヲ強迫シ又ハ投票所若ハ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若ハ劫奪スルノ目的ヲ以テ多衆ヲ嘯聚シタル者ハ六月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其ノ情ヲ知テ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各々本刑ニ一等ヲ加フ

第九十五條 選舉ノ際管理者又ハ立會人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ暴行ヲ以テ投票所若ハ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若ハ劫奪シタル者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各々本刑ニ一等ヲ加フ

第九十六條 多衆ヲ嘯聚シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ重禁錮ニ處ス
其ノ情ヲ知テ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各々本刑ニ一等ヲ加フ

第九十七條 演說又ハ新聞紙若ハ其ノ他ノ文書ヲ以テ人ヲ教唆シ前二條ノ罪ヲ犯サシメタル者ハ刑法第一百五條ノ例ニ依リ其ノ教唆ノ効ナキ者モ仍本刑ノ二等又ハ三等ヲ減シ處斷ス

第九十八條 戎器又ハ兇器ヲ携帯シテ投票所若ハ選舉會場ニ入りタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十九條 當選人ニ於テ第八十九條ヨリ第九十八條ニ至ルマテノ刑ニ處セラレタ

ルトキハ其ノ當選ハ無効トス

第百條 他人ノ姓名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲シタル者及第十四條ニ依ル選舉人タルコトヲ得サル者投票ヲ爲シタルトキハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百一條 前數條ノ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ再ヒ罰金ノ刑ニ處セラレタル者ハ三年以上七年以下ノ選舉權及被選舉權ヲ停止ス

第百二條 立會人正當ノ事故ナクシテ此ノ法律ニ規定シタル義務ヲ缺クトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百三條 本章ニ規定シタル罰則ノ外刑法ニ正條アルモノハ各々其ノ條ニ依リ重キニ從テ處斷ス

第百四條 凡テ選舉ニ關ル犯罪ハ六箇月ヲ以テ期滿免除トス

第百五條 此ノ罰則ハ第十一章ノ各條ト共ニ投票所及選舉會場ニ貼示スヘシ

第十四章 補則

第百六條 市ニ於テハ一市ニ一ノ投票所ヲ設ケ此ノ法律ニ規定シタル投票及選舉ノ管理ハ市長兼テ之ヲ掌ルヘシ

第百七條 前條ノ場合ニ於テハ市長又ハ區長ハ其ノ管理スル選舉區内ニ於ケル選舉

ノ場合ニ於テハ市長又ハ區長ハ其ノ管理スル選舉區内ニ於ケル選舉

人中ヨリ立會人三名以上七名以下ヲ定メ選舉ノ期日ヨリ三日以前ニ之ヲ本人ニ通知シ選舉ノ當日ノ選舉管理ノ市役所及ハ區役所ニ參會セシメハシ

立會人ハ投票ニ立會ト併セテ投票ヲ点檢スヘシ

此場合ニ於ケル選舉明細書ハ併セテ投票ノ事項ヲ記載スヘシ

第百八條 島司ヲ置ク地方ニ於テハ此ノ法律ノ規定シタル選舉長ノ職務ハ島司之ヲ掌ルヘシ

第百九條 町村制ヲ施行セサル町村ニ於テハ此ノ法律ニ規定シタル町村長ノ職務ハ戶長之ヲ掌ルヘシ

第百十條 選舉人名簿調製ノ初年ニ限り所得税法施行以來第六條第八條ニ規定シタル納稅額ヲ引續キ納完シタル者ハ其ノ納稅資格ノ期限ニ充ルモノト見做スヘシ

第百十一條 北海道沖繩縣及小笠原島ニ於テハ將來一般ノ地方制度ヲ準行スルノトキニ至ルマテ此ノ法律ヲ施行ス

◎府縣會規則

明治十三年 四月八日

(太政官布告第十五號)

明治十一年七月第十八號布告府縣會規則在之通改正候條此旨布告候事

第一章 總則

第一條 府縣會ハ地方税ヲ以テ支辨スヘキ經費豫算及其徵收方法ヲ議定ス

第二條 府縣會ハ通常會ト臨時會トノ二類ニ分ツ其定期ニ於テ開ク者ヲ通常會トナス臨時會ニ開ク者ヲ臨時會トナス

第三條 通常會臨時會キ論セス會議ノ議案綱テ府知事「縣令」ヨリ之ヲ發ス

第四條 臨時會ハ其ノ特ニ會議ヲ要スル事件ニ限リ其他ノ事件ヲ議スルヲ得ス

第五條 府縣會ノ議決ハ府知事「縣令」認可ノ上之ヲ施行スヘキ者トス若シ府知事「縣令」其議決ヲ認可スヘカスト思慮スルトキハ其事由ヲ「內務卿」ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ(十四年第四號布告)

前項ノ場合ニ於テ府知事「縣令」ハ時宜ニヨリ之ヲ再議ニ付スルヲ得再議ノ後猶其議決ヲ認可スヘカラスト思慮スル時ハ「內務卿」ノ指揮ヲ請フコト前項ニ同シ

第六條 府縣會ハ毎年通常會議ノ初メニ於テ地方税ニ係ル前年度ノ出納決算ノ報告書ヲ受テ府知事「縣令」ニ說明ヲ求ムルコトヲ得若シ異見アルトキハ議長ノ名ヲ以テ直チニ「內務卿」ニ上申スルコトヲ得

出納決算ノ報告書ニ付府縣會ヨリ說明ヲ求ムルトキハ府知事「縣令」若シクハ其代理人之ヲ説明スルコト十五年第六十八號布告ヲ以テ本項追加)

第七條 通常會期中議員ノ内二人以上ノ發議ヲ以テ其府縣内ノ利害ニ關スル事件ニ付建議ヲナサントスル者ナラハ先ツ議會ヲ許可ヲ得テ之ヲ會議ニ付シ可決スルヲ

キハ其會ノ所見トシ議長ノ命ヲ以テ直チニ「內務卿」ニ建議シ又ハ府知事「縣令」ニ建議スルヲ得十五年第十號布告ヲ以テ本條改正但書追加)但臨時會ニ於テハ其會議ヲ要シタル事件ニ限リ建議スルヲ得

第八條 府縣會ハ府知事「縣令」ヨリ其府縣内ニ施行スヘキ事件ニ付會議ノ意見ヲ問フコトアルトキハ之ヲ議ス

第九條 府縣會ハ議事ノ細則ヲ議定シ府知事「縣令」ノ認可ヲ得テ之ヲ施行スルコトヲ得

府縣會ハ議員ノ内召集ニ應セス又ハ事故ヲ告スシテ參會セサル者ヲ審査シ其退職者タルヲ決スルヲ得

府知事「縣令」ト府縣會トノ間ニ於テ法律ノ見解ヲ異ニシ又ハ權限ヲ爭コトアルトキハ雙方ヨリ其事由ヲ具狀シ政府ノ裁定ヲ請フヘシ此場合ニ於テ府知事「縣令」ハ其議事若シクハ會議ヲ中止スルコトヲ得(十四年第四號布告ヲ以テ本項追加)

第二章 撰舉

第十條 府縣會ノ議員ハ郡區ノ大小ニ依リ每郡區ニ五人以下ヲ撰フ每郡區議員定數ノ外補闕員トシテ十人以下ヲ増撰スルヲ得(十五年第十號布告ヲ以テ本項追加)

第十一條 議長副議長ハ議員中ヨリ公撰シ之ヲ府知事「縣令」ニ報告シ府知事「縣令」ハ之ヲ內務卿ニ報告スヘシ

議長副議長及議員ハ俸給ナシ但會期中滞在日當及ヒ往復旅費ヲ給ス其額ハ會議ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條

書記ハ議長之ヲ撰ヒ庶務ヲ整理セシム其俸給ハ會費ノ内ヨリ之ヲ支給ス

第十三條

府縣ノ議員タルコトヲ得ヘキ者ハ滿廿五歳以上ノ男子ニシテ其府縣内ニ本籍ヲ定メ滿三年以上住居シ其府縣内ニ於テ地租十圓以上ヲ納ムル者ニ限ル但左ノ各項ニ觸ルハ者ハ議員タルコトヲ得ス

第一款

瘋癲白痴ノ者

第二款

舊法ニ依リ一年以上懲役及國事犯禁獄ノ刑ニ處セラレ滿期後五年ヲ經サル者

第三款

新法ニ依リ公權ヲ剝奪及停止セラレタル者又ハ一年以上輕重禁錮ノ刑ニ處セラレ主刑滿期後五年ヲ經サル者

第四款

身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者

第五款

官吏「教導職」及陸海軍諸卒現役者

第十四條

府縣會ニ於テ退職者トセラレタル後四年ヲ經サル者

第十五條

議員ヲ撰舉スルヲ得ヘキ者ハ滿二十歳以上ノ男子ニシテ其郡區内ニ本籍ヲ定メ其府縣内ニ於テ地租五圓以上ヲ納ムル者ニ限ルヘシ

但シ前條ノ第一款第二款第三款第五款ニ觸ルル者及陸海軍人現役ノ者ハ撰舉人タルコトヲ得ス

第十五條

撰舉ノ投票ハ豫定ノ日ニ郡區廳ニ於テ之ヲ爲シ郡區長之ヲ調査シ撰舉會

第十六條

中ノ取締ヲ爲スヘシ但便宜ニ因リ郡區廳外ニ於テ撰舉會ヲ開クコトヲ得

第十七條

撰舉ノ投票ハ豫定ノ日ニ郡區廳ニ於テ之ヲ爲シ郡區長之ヲ調査シ撰舉會

第十八條

一人ニシテ數郡區ノ選ニ當ルトキハ其何レノ郡區ニ屬スヘキハ當人ノ好ニ任スヘシ

第十九條

議員ノ任期ハ四年トシテ二年毎ニ全數ノ半ヲ改撰ス第一回二年期ノ改撰ヲ爲スハ抽籤法ヲ以テ其退任ノ人ヲ定ム

第二十二條

議長副議長ノ任期ハ二年トシ議員ノ改撰毎ニ之ヲ公撰スヘシ

第二十三條

前二條ノ場合ニ於テハ前任ノ者ヲ再撰スルコトヲ得

第二十四條

議員中第十三條ニ掲グル諸款ノ場合ニ遭遇スルカ其府縣外ニ轉籍セルカ其他總テ關員アルトキハ更ニ之ニ代ル者ヲ撰舉ス

但補缺員アルトキハ順次投票ノ多數ヲ以テ之ヲ取り尙缺員アルトキハ本條末文ノ手續ニ據ル(十五年第十號布告)

第三章 議則

第二十五條 議員半數以上出席セサレハ當日ノ會議ヲ開クヲ得ス

第二十六條 會議ハ過半數ニ依テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第二十七條 府知事「縣令」若クハ其代理人ハ會議ニ於テ議案ノ趣旨ヲ辨明スルヲ得但決議ノ數ニ入ルコトヲ得ス

第二十八條 會議ハ傍聽ヲ許ス但府知事「縣令」ノ要ニ依リ又ハ議長ノ意見ヲ以テ傍聽ヲ禁スルヲ得

第二十九條 議員會議ニ方リ充分討論ノ權ヲ有ス然レトモ人身上ニ付テ褻貶毀譽ニ涉ルコトヲ得ス

第三十條 議場ヲ整理スルハ議長ノ職掌トス若シ規則ニ背キ議長之ヲ制止シテ其命ニ順ハサル者アルトキハ議長ハ之ヲ議場外ニ退去セシムルヲ得其強暴ニ涉ル者ハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルヲ得

第四章 開閉

第三十一條 府縣會ハ毎年一度十一月ニ於テ之ヲ開ク其開閉ハ府知事「縣令」ヨリ之ヲ命ス會期ハ卅日以内トス但區部郡部會ヲ開ク地方ニ於テハ七日以内延期スルコ

トヲ得(十五年第六十八號布告ヲ以テ改正シ十七年第二十八號布告ヲ以テ三月十一月ト改メ十八年十一月ヨリ施行ス)

第三十二條 通常會期ノ外會議ニ付スヘキ事件アルトキ府知事「縣令」ハ臨時會ヲ開クコトヲ得其會期ハ七日以内トス但該會ヲ要スル事由ヲ直ニ「內務卿」ニ報告スヘシ(十五年第六十八號布告ヲ以テ改正)

第三十三條 會議ノ論說國ノ安寧ヲ害シ或ハ法律又ハ規則ヲ犯スコトアリト認ムルトキハ府知事「縣令」ニ會議ヲ中止セシメ「內務卿」ニ具狀シテ其指揮ヲ請フヘシ

府縣會ニ於テ若シ法律上議定スヘキ議案ヲ議定セス又ハ會期內ニ於テ議案ヲ議決シ終ラサルトキハ府知事「縣令」ハ更ニ其議定ヲ要セス「內務卿」ニ具狀シテ認可ヲ得テ之ヲ施行スルコトヲ得(十四年第四號布告ヲ以テ追加十五年第六十八號布告ヲ以テ改正)

議員招集ニ應セサル者半數ヲ過キ議會ヲ開クヲ得サルコトアル時ハ府知事「縣令」ハ其事由ヲ「內務卿」ニ具狀シ指揮ヲ請フヘシ(十四年第四號布告ヲ以テ本項追加)

第一項ノ場合ニ於テ「內務卿」ハ府縣會ヲ停止スルコトヲ得而シテ更ニ開會ヲ命スル迄ノ間ハ府知事「縣令」ニ於テ地方稅ノ經費豫算及徵收方法ヲ定メ「內務卿」ノ認可ヲ得テ之ヲ施行スルコトヲ得(十五年第六十八號布告ヲ以テ本項追加)

第三十四條 會議中國ノ安寧ヲ害シ或ハ法律又ハ規則ヲ犯スコトアリト認ムルトキハ「內務卿」ハ何レノ時ヲ問ハス議員解散ヲ命スルコトヲ得(十四年第四號布告ヲ以テ閉會云々ノ七字)

ルヲ創

前項ノ場合ニ於テ前議員ノ未タ議定セサル議案アルトキハ後任議員ヲシテ之ヲ議定セシムヘシ(十四年第四號布告ヲ以テ本項追加)

第三十五條 「内務卿」ヨリ解散ヲ命シタル時ハ其解散ヲ命シタル日ヨリ九十日以内ニ更ニ議員ヲ撰擧スヘシ

第五章 常置委員 (十三年第四十九號布告ヲ以テ本章追加)

第三十六條 府縣會ハ其議員中五人以上七人以下ノ常置委員ヲ撰任スヘシ

常置委員定數ノ外數名ヲ増撰シ缺員アルトキハ順序投票ノ多數ヲ以テ之ヲ補充スルヲ得 (十五年第十號布告ヲ以テ本項追加)

區部會郡部會ヲ開設シタル府縣ニ在テハ區郡各部ニ之ヲ撰任スヘシ (十五年第十號布告ヲ以テ本項追加)

第三十七條 常置委員ハ府縣會ノ議定ニ依リ事業ヲ執行スルノ方法順序及豫備費ノ支出ニ付府知事「縣令」ヨリ諮問アルトキハ其意見ヲ述フ (十五年第六十八號布告ヲ以テ本項追加)

常置委員ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事業ニシテ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テハ其經費豫算及徵收方法ヲ議決シ追テ府縣會ニ報告スルヲ得 (十五年第六十八號布告ヲ以テ本項追加)

第三十八條 常置委員ハ通常府縣會議ノ初メ委員會議ニ於テ議決シタル事件ノ要領ヲ報告シ且通常會ト臨時會トヲ論セス府知事「縣令」ヨリ發スヘキ議案ヲ前以テ請取リ會議ニ向テ其意見ヲ報告スヘシ

第三十九條 常置委員會議所ハ府縣廳内ニ置キ定日ニ會議スヘシ

第四十條 常置委員ノ諮問會議ハ別ニ議案書ヲ用ユルヲ要セス (十五年第十號布告ヲ以テ常置委員ノ下諮問ノ二字ヲ加フ)

第四十一條 諮問會ハ府知事「縣令」ヲ以テ議長トナシ其ノ他ノ會議ハ委員中ヨリ之ヲ撰擧スヘシ (十五年第十號布告ヲ以テ改正)

第四十二條 常置委員ハ半數以上出席セザレハ當日ノ會議ヲ開クヲ得ス會議ハ過半數ニ依テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第四十三條 常置委員會議ノ議事ハ書記ヲシテ筆記セシムヘシ

第四十四條 府知事「縣令」ハ主務ノ寮履ヲ委員會議ニ出シ其ノ會議ニ係ル事件ニ付辨明ヲサシムルヲ得

第四十五條 常置委員會議ハ傍聽ヲ許サス

第四十六條 常置委員ノ任期ハ二ケ年トシ議員ノ改撰毎ニ之ヲ改撰ス但期限ニ致リ再撰スルヲ得(十五年第十號布告ヲ以テ二ケ年トシノ下議員云々ノ十三字ヲ加フ)

第四十七條 常置委員會議所ノ書記ハ府縣ノ屬官中ヨリ府知事「縣令」之ヲ撰任ス

(十五年第十號布告ヲ以テ議長ヲ府知事縣令ト改ム)

第四十八條 常置委員ハ三十圓以上八十圓以下ノ月手當及往復旅費ヲ給ス其額ハ府縣會ノ議決ヲ以テ定ム

第四十九條 常置委員ノ月手當旅費其他委員會議所ノ費用ハ地方稅ヨリ支給ス

○府縣會ニテ議定スヘキ事件ノ細目ヲ區町村會等ノ議決ニ付スルヲ得

(明治十四年二月十四日太政官布告第六號)

府縣會ハ其議定スヘキ事件中細目ニ係ル事項ヲ以テ區町村會若クハ水利土功會ノ議決ニ付スルヲ得ヘシ此旨布告候事

○府縣會議員聯合集會等ヲ禁ス

明治十五年十二月二十八日
太政官布告第七十號

府縣會議員會議ニ關スル事項ヲ以テ他ノ府縣會議員ト聯合集會シ又ハ往復通信スルヲ許サス

其集會スルモノ何等ノ名義ヲ以テスルモ府知事「縣令」ニ於テ此禁令ヲ犯ス者ト認

ムル時ハ直ニ解散ヲ命スヘシ

前項ノ場合解散ノ命ニ從ハサルモノハ集會條例第十三條ニ依テ處分ス

○開會中議員建議書携帶上京等ヲ許サス

明治十五年二月二日
太政官達第十一號

府縣會規則第七條ニ依リ內務卿ニ建議スルノ場合ニ於テ開會中議員自ラ其建議書ヲ携帶上京等ノ儀ハ不相成筋ニ候條此旨相達候事

但本文ノ趣府縣會ヘ相達シ置ケヘシ

○府縣會規則第十三條第十四條ノ地租納額計算方

二十三年一月廿三日
內務省訓令第二七號

府縣會規則第十三條第十四條ノ地租納額ヲ計查スルニ數人共有地ノ地租ハ其共有人員ニ平分シ之ヲ各自ノ納額ト見做シ算入スヘキモノトス尤土地臺帳又ハ其附屬連各簿ニ各自所有權ノ步合又ハ納租額ノ割合アルモノハ其額ニ依ルヘキ儀ト心得ラルヘシ

但市町村制ニ就テモ本文同様ト心得ラルヘシ

○府縣會議員選舉規則

明治二十一年
二月二十六日

(法律第六號)

府縣會議員選舉規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

○府縣會議員選舉規則

第一條 戶長ハ毎年九月十五日ヲ以テ期トシ其役場管内ノ選舉人名原簿ヲ調査シ其

副本ヲ十月一日迄ニ郡長ニ差出スヘシ

選舉人名原簿ニハ選舉人ノ氏名住所生年月納ムル所ノ地租ノ總額並ニ其納稅地ヲ記載スヘシ

第二條 郡長ハ戶長ヨリ差出ス所ノ原簿ヲ調査シ毎年十月十五日ヲ期トシ其役所管内ノ選舉人名簿ヲ調製スヘシ

第三條 區長ハ毎年九月十五日ヲ期トシ其役所管内ノ選舉人名原簿ヲ調製シ十月十

五日ヲ期トシ撰舉人名簿ヲ調製スヘシ

撰舉人名原簿ニ記載スヘキ事項ハ第一條第二項ニ同シ

第四條 府縣會規則第十三條ノ年齢及ヒ年限ヲ算スルハ撰舉人名簿調製ノ期日ヲ以テ限界トナシ其地租納額ヲ算スルハ原簿調製ノ期日より前一年以上之ヲ納メ續引續キ納ムル者ニ限ルベシ但シ家督ニ依リ財産ヲ相續シタル者ハ前財産主ノ納稅額ヲ以テ其者ノ納稅額ニ算入スヘシ

第五條 撰舉人其住居スル區町村ノ外ニ於テ地租ヲ納ムルトキハ其納稅地區戶長ノ證據ヲ添ヘ撰舉人名原簿調製ノ期日迄ニ其住居ノ區戶長ニ届出ヘシ

第六條 郡區長ハ十月二十日ヨリ十五日間其役所管内ノ撰舉人名原簿及撰舉人名簿ノ寫ヲ其郡區在所ニ於テ縦覽セシムヘシ但關係者ノ請求アルトキハ戶長役場ニ於テモ其調製シタル原簿ノ寫ヲ示スヘシ

第七條 撰舉資格アルモノ撰舉人ニ於テ脱漏又ハ誤載アルコトヲ發見シタルトキハ其縦覽期限内ニ之ヲ申立ヘシ

第八條 郡區長ニ於テ脱漏又ハ誤載ノ申立ヲ受ケタルトキハ十日以内ニ之ヲ審査判定シ其申立正當ナルトキハ直ニ其人名ヲ記入又ハ削除シ其由ヲ管内ニ告示スヘシ但郡ニ在ラズハ仍ホ當人住居地ノ戶長ニ通知スヘシ

第九條 前條審査ノ爲メ必要アル場合ニ於テハ申立人又ハ當人ヲ召喚審問スルコトヲ得

第十條 申立人又ハ當人ニ於テ郡區長ノ判定ニ不服アルトキハ判定ノ日ヨリ七日以内ニ始審裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ其判定ハ出訴ノ爲メ停止セサルモノトス

第十一條 始審裁判所ニ於テ前條ノ訴訟ヲ受取りタルトキハ他ノ訴訟ノ順序ニ拘ハラス速ニ其裁判ヲナスヘシ

第十二條 前條始審裁判所ノ裁判ハ上告スルコトヲ得ルト雖モ控訴スルコトヲ許サズ但其裁判ハ上告ノ爲メ停止セサルモノトス

第十三條 撰舉人名簿ハ十一月十五日ヲ以テ確定期限トシ次年ノ改正期日迄之ヲ据置クモノトス但裁判官渡ニ依リ訂正スヘキモノハ郡區長ニ於テ其言渡ヲ受ケタル時ヨリ二十四時間以内ニ之ヲ訂正シ其由ヲ管内ニ告示スヘシ但郡ニ在ラズハ仍ホ當人住居地ノ戶長ニ通知スヘシ

第十四條 改正期日前ト雖モ撰舉ヲ行フ前ニ於テ撰舉權ヲ失ヒ若クハ撰舉權ヲ有セザリシコトヲ發見シタル場合ニ於テハ郡區長ハ其人名ヲ削除スヘシ

可テ經テ之ヲ變更スルコトヲ得

第十五條 議員ヲ撰舉スヘキトキハ少クトモ一ヶ月前ニ府縣知事ヨリ其月日撰舉開會並ニ投票函閉鎖ノ時刻撰舉ヲ行フヘキ郡區ノ名及ヒ撰舉スヘキ議員ノ數ヲ記シ之ヲ管内ニ告示スヘシ若シ正議員ノ外補欠員ノ増撰ヲ要スルトキハ各別ニ其數ヲ記スヘシ

撰舉開會ヨリ投票函閉鎖迄ノ時間ハ四時間以上十時間以内タルヘシ

第十六條 前條ノ告示アリタルトキハ郡區長ハ前條各事項並ニ撰舉開會ノ場所ヲ管内ニ告示スヘシ

第十七條 郡區長ハ其管内ノ撰舉人中ヨリ立會人五名ヲ定メ遅クトモ撰舉ノ期日ヨリ五日以前ニ之ヲ本人ニ通知シ撰舉ノ當日撰舉會場ニ參會セシムヘシ
撰舉分會ヲ設ケタル場合ニ於テハ本會分會トモ各其會場所屬ノ撰舉人ニ就キ前項ニ依リ立會人ヲ定ムヘシ

立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其職ヲ辭スルコトヲ得ス立會人若シ撰舉開會ノ時刻ニ至リ出頭セサルトキハ參會ノ撰舉人中最多額ノ地租ヲ納ムルモノヲ以テ假ニ其欠ヲ補フヘシ

第十八條 郡區長ハ撰舉會長トナリ撰舉會場ヲ管理スヘシ郡區長事故アルトキハ代理書記ヲ以テ之ニ充ヘシ

撰舉會書記ハ郡區長ニ於テ郡區書記中ヨリ之ヲ命スヘシ

第十九條 撰舉人ハ撰舉開會ノ時刻ヨリ投票函閉鎖ノ時刻ニ至迄何時タルリトモ到着ノ順序ニ從ヒ投票スルコトヲ得

第二十條 撰舉會場ニハ錠ヲ付シタル投票函及撰舉錄並ニ筆墨ヲ備ヘテクヘシ
投票函ハ投票ニ先チ參集シタル撰舉人ノ面前ニ於テ之ヲ開キ其空虛ナルコトヲ示スヘシ

第二十一條 投票用紙ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依リ各郡區ニ於テ一定ノ式ヲ用ヒ投票ノ當日撰舉會場ニ備ヘテキ撰舉會長又ハ書記ヨリ之ヲ各選舉人ニ交付スヘシ
用紙ハ正議員ノ外補欠員ノ増撰ヲ要スル場合ニ於テハ之ヲ甲乙二種ニ分チ甲種ハ正議員ノ爲メノ用紙トナシ乙種ハ補欠員ノ爲メノ用紙トナスヘシ

第二十二條 撰舉人ハ自ラ投票ヲ行フヘシ代人ニ託スルコトヲ得ス

第二十三條 撰舉人ハ撰舉會場ニ於テ投票用紙ニ被撰舉人並ニ自己ノ氏名ヲ記シ捺印スヘシ但氏名ノ外住所若クハ位階勳等其敬稱ノ類ヲ記スルハ妨ケナシ

第二十四條 撰舉人投票ヲサントスルトキハ撰舉會長ハ其住所氏名ヲ撰舉人名簿ニ照シ名簿ニ消印ヲ捺シ撰舉ヲシテ自ラ之ヲ投票函ニ投入セシムヘシ

第二十五條 撰舉人ニシテ文字ヲ書スルコト能ハサル由テ申立ルトキハ撰舉會長ハ書記ヲシテ代書セシメ之ヲ本人ニ讀聞セ並ニ立會人ニ示シタル後捺印投票セシム

第二十六條 撰舉ニ關スル吏員及撰舉人ノ外何人タリトモ撰舉會場ニ入ルコトヲ得
ス但會場臨視ノ職權悉ク官吏ハ此限ニアラス

第二十七條 撰舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ外投票スルコトヲ得ス但記載セラル
ハキ裁判言渡書ヲ所持シテ參會スル者ハ此限ニアラス

第二十八條 撰舉人ハ會場ニ於テ演說討論ヲナシ若クハ喧噪ニ涉リ又ハ互ニ投票ヲ
勸誘スルコトヲ得ス

第二十九條 撰舉會場ニ於テ秩序ヲ紊ル者アルトキハ撰舉會長ハ之ヲ警戒シ其命ニ
從ハサルトキハ之ヲ會場外ニ退出セシムヘシ但其投票ヲ爲サシムル爲メ再ヒ之ヲ
呼入ルコトヲ得

撰舉會長ハ會場取締ノ爲メ必要ト認ムルトキハ警察官ノ助力ヲ求ムルコトヲ得

第三十條 撰舉權ナク又ハ他人ノ氏名ヲ詐稱シテ投票セントスル者アルトキハ撰舉
會長ハ其投票ヲ取上クヘシ

第三十一條 投票函閉鎖ノ時刻ニ至ルトキハ撰舉會長ハ其由テ宣告シ書記ヲシテ一
時撰舉會場ノ入口ヲ鎖サシメ參會者ニ問フニ未タ投票セザリシ者ナキヤヲ以テ
若シ之アルニ於テハ直ニ投票セシメタル後投票函ヲ閉鎖スヘシ

第三十二條 撰舉會場ニハ點數簿三冊ヲ備ヘ書記二人ヲシテ各一冊ヲ擔任セシムヘ
シ

第三十三條 投票函閉鎖後十分時間ヲ經過スレハ撰舉會長ハ立會人ノ面前ニ於テ投
票函ヲ開キ逐次投票ヲ取出シ披封點檢シテ之ヲ書記ニ付シ撰舉人被撰舉人ノ氏名
ヲ朗讀シテ點數簿擔任ノ書記ヲシテ被撰舉人ノ得点ヲ點數簿ニ記入セシムヘシ

前項ノ點檢中若シ無効ノ投票ヲ發見シタルトキハ之ニ抹線ヲ加ヘ一部分無効ノモ
ヲハ其部分ニ抹線ヲ加フヘシ

第三十四條 選舉人ハ投票點數ノ際之ヲ參觀スルコトヲ得

第三十五條 投票點數ノ記入ヲ終リタルトキハ選舉會長ハ書記ヲシテ各被撰舉人得
点ノ合計ヲ點數簿ニ記入シテ之ヲ朗讀セシムヘシ

第三十六條 點數記入並ニ計算其他ノ書記ノ事務ハ總テ撰舉會長並ニ立會人ノ面前
ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第三十七條 點數ノ合計ヲ記入シ終リタルトキハ撰舉會長ハ立會人ノ面前ニ於テ多
數ヲ得タル者ヨリ順次ニ其被撰舉權ノ有無ヲ査定シ同數ハ年長ヲ取り同年ハ抽籤
ヲ用テ其當撰ヲ定ムヘシ但即時ニ其當撰ニ必要ナル事實ヲ確知シ得サルトキハ調
査ニ必要ナル時日ノ間其査定ヲ延ハスコトヲ得

分會ヲ設ケタル場合ニ於テハ第五十條ニ依リ當撰ヲ定ムルモノトス當撰タルヘキ
多數ヲ得タル者ノ被撰舉權ヲ有セサルコトヲ發見シタルトキハ順次其次點者ヲ以

テ當撰トナスヘシ此場合ニ於テハ郡區長ハ當撰者ノ氏名ト共ニ其事由ヲ告示スヘシ當撰タルヘキ多數ヲ得タル被撰舉人他郡區ノ人ニシテ直ニ其當撰ヲ定メ難キ時ハ第四十一條ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第三十八條 点檢濟ノ投票ハ之ヲ取纏メ封緘ノ上撰舉會長立會人並ニ書記之ニ捺印スヘシ

前項ノ投票ハ封印ノ儘附屬書類ト共ニ一年間郡區役所ニ保存スヘシ若シ撰舉ニ關シ訴訟又ハ告訴告發アルトキハ一年ヲ過グルモ其裁判確定ニ至ル迄テ之ヲ保存スヘシ

第三十九條 左ノ事項ハ之ヲ選舉錄中ニ記入スヘシ

- 一 撰舉開會ノ月日並ニ時刻
- 二 撰舉會長及ヒ書記ノ氏名
- 三 立會人ノ住所氏名
- 四 第二十七條但書ニ依リ投票セシメタルトキハ其顛末
- 五 第三十條ノ處分ヲナシタルトキハ其顛末
- 六 投票函閉鎖ノ時刻
- 七 各被撰舉人ノ得点數
- 八 當選人ノ住所氏名若シ直ニ當選ヲ定メ難キトキハ其事由

九 選舉閉會ノ時刻

十 右ノ外撰舉會長ニ於テ緊要ト認ムル事項

當撰ノ査定ヲ延シタルトキハ其結果ヲ追記スヘシ

第四十條 選舉錄ニハ撰舉會長立會人並ニ書記之ニ署名捺印スヘシ

第四十一條 當撰タルヘキ多數ヲ得タル被撰舉人他郡區ノ人ナルトキハ郡區長ハ其本籍地ノ郡區長ニ照會シ撰舉權ヲ有スルヤ否ヤノ證明ヲ求ムヘシ若シ其權ヲ有セサルトキハ第三十七條第三項ノ例ニ依ル

第四十二條 左ノ投票ハ無効トス

- 一 撰舉人名簿ニ記載ナキ者ノ投票但裁判言渡書ヲ所持シタルニ依リ投票シタル者ハ此限ニアラス
- 二 成規ノ用紙ヲ用ヒサルモノ
- 三 撰舉人又ハ被撰舉人ノ氏名ヲ記載セサルモノ
- 四 撰舉人ノ氏名ヲ讀ミ難キモノ又ハ何人タルヲ知ルヘカラザルモノ
- 五 撰舉人被撰舉人ノ住所氏名ノ外餘事ヲ記入スルモノ但位階勳等其他敬稱ノ類ヲ記入スルモノハ餘事ト見做スノ限リニアラス
- 六 被撰舉人ノ氏名ヲ讀ミ難キモノ又ハ其何人タルヲ知ルヘカラザルモノ但列記ノ被撰舉人ニ付テハ仍ホ其効アリトス

七 被選舉權ヲキモノヲ記載シタルモノ但列記ノ被選舉人ニ付テハ仍ホ其效アリトス

第四十三條 投票ニ記載ノ被選舉人其選舉スヘキ定數ニ足ラサルモ之ヲ無効トセス又定數ニ過ルトキハ前條第六第七ニ觸ルモノアルト否ヤトヲ問ハス末尾ヨリ其過數ヲ順次ニ棄却スヘシ一人ノ氏名ヲ復記シタルモノハ一人トシテ計算スヘシ

第四十四條 撰舉人又ハ被選舉人ノ住所氏名ニ誤字脱字アリ又ハ假名字ヲ用エルモ其何人ノ何人ヲ撰舉シタルコト明瞭ナルトキハ其投票ヲ有效トスヘシ

第四十五條 投票效力ノ有無ニ付疑義アルトキハ立會人ノ意見ヲ聞キ撰舉會長之ヲ決定スヘシ其決定ニ對シテハ撰舉會場ニ於テ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第四十六條 郡區ノ區域廣濶ニ過クルカ又ハ郡區内島嶼ノ地アリテ撰舉人ノ參會ニ不便ナル爲メ己ムヲ得サル場合ニ於テハ郡區長ハ府縣知事ノ指揮ニ依リ又ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ撰舉分會ヲ設クルコトヲ得

分會ノ爲メ特ニ選舉人名簿ヲ調製スルヲ要セスト雖モ撰舉人名簿中ニ各撰舉人所屬ノ會場ヲ區別シ豫メ分會場所屬ノ區域並ニ會場ヲ管内ニ告示スヘシ

第四十七條 分會ハ本會ト同日時ニ之ヲ開キ投票時間モ亦本會ト同一タルヘシ其他撰舉ノ手續會場ノ取締撰舉録ノ記載等ハ總テ本會ニ準スヘシ但島嶼其他遠隔ノ地ニ限リ府縣知事ニ於テ適宜其投票ノ期日ヲ異ニシ撰舉本會ノ投票期日迄ニ其投票

函ヲ送致セシムルコトヲ得

第四十八條 分會選舉會長ハ上席郡區書記ヲ以テ之ニ充ツヘシ分會書記ハ郡區長ニ於テ其郡區書記又ハ其他ノ戶長又ハ戶長役場吏員中ヨリ之ヲ命スヘシ

第四十九條 分會ニ於テ投票函ヲ閉鎖シタルトキハ之ニ封印シ撰舉會長及書記中少クトモ一名付添直ニ本會場ニ送付スヘシ若シ立會人又ハ他ノ撰舉人中同行ヲ臨ムモノアルトキハ之ヲ許ス

第五十條 分會ヲ設ケタルトキハ本會場ニ於テハ投票函閉鎖ノ後分會投票函ノ到着ヲ持チ第三十三條ノ手續ヲナシ合算ノ上總數ヲ以テ當撰ヲ定ムヘシ

第五十一條 當選者ノ定リタルトキハ郡區長ハ直ニ其旨ヲ當撰者ニ通知スヘシ當撰者當撰ノ通知ヲ受ケタルトキハ五日以内ニ當撰承諾ノ届出ヲナスヘシ若シ當撰ノ通知ヲサシタル日ヨリ十日以内ニ承諾ノ届出ヲササルトキハ當撰ヲ辭シタルモ

次見做スヘシ當撰ヲ辭シタル者アルトキハ郡區長ハ次点者ヲ以テ當撰者トナス

第五十二條 撰舉ノ結果ハ郡區長ヨリ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第五十三條 當撰者ノ住所氏名ハ府縣知事ニ於テ之ヲ管内ニ告示スヘシ

第五十四條 府縣會規則第十條第二項ニ依リ補欠員ヲ增撰スル時ハ其撰舉ハ正議員

選舉ト同會ニ於テ同時ニ之ヲ行フ但其投票函ハ正議員ノ投票函ト異ニスヘシ
 第五十五條 一人ニシテ正議員補欠員ノ撰ニ併セ當ルトキハ之ヲ正議員トシ其次点者ヲ以テ補欠員當撰ト爲スヘシ
 第五十六條 當撰ノ査定ニ不服アル關係者ハ當撰者ノ氏名告示ヨリ十日以内ニ府縣知事ニ其更正又ハ撰舉取消ノ申立ヲナスコトヲ得府縣知事ノ判定ニ服サセルモノハ二十日以内ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得但其判決ハ終審トス
 第五十七條 當撰者確定ノ後其當撰者ノ被撰舉權ヲ有セザリシコトヲ發見スルトキハ府縣知事ハ其當撰ヲ取消シ其次点者ヲ以テ當撰トナスヘシ但此場合ニ於テハ其事由ヲ管内ニ告示スヘシ
 第五十八條 撰舉全會ヲ取消シ更ニ撰舉ヲ命スルハ其撰舉ノ撰舉規定ニ違フ場合ニ限ル但シ規定ニ違フ所アルモ其事輕微ニシテ撰舉ノ結果ニ異動ヲ生セス又ハ其事ノ更正シ得ヘキモノハ取消ノ限ニアラス
 撰舉全會ノ取消ハ府縣知事ヨリ内務大臣ニ具狀シ其認可ヲ經テ之ヲナスヘシ但其事由ヲ管内ニ告示スヘシ
 第五十九條 納稅額年齡其他撰舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シ撰舉人名簿ニ記載セラレタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス其被撰舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シテ當撰者トナリタル者又ハ其資格ヲ有モサルモ其事ヲ告ケスシテ當撰者トナ

リタル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第六十條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲メニ投票ヲナスコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物品ヲ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス其授與又ハ約束ヲ受ケタル者モ亦同シ
 直接又ハ間接ニ金錢物品ヲ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シテ投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲メニ投票ヲナスコトヲ抑止シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス其授與又ハ約束ヲ受ケタル者モ亦同シ
 第六十一條 武器又ハ兇器ヲ携帯シテ撰舉會場ニ入りタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス
 第六十二條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲メニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ撰舉人ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上貳拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 第六十三條 投票ヲ妨害スルノ目的ヲ以テ途中又ハ其他ニ於テ撰舉人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ撰舉人ヲ恐嚇スル者又ハ撰舉ニ關スル吏員若クハ立會人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ暴行ヲ以テ撰舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若クハ劫奪シタル者ハ二月以上

一年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 第六十四條 多衆嘯集シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス其情ヲ知リ嘯集ニ應シタル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス
 第六十五條 當撰者第五十九條乃至第六十四條ノ刑ニ處セラレタルトキハ其當撰ハ無効トス
 第六十六條 撰舉權ナク又ハ他人ノ氏名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲サントシ又ハ投票ヲナシタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス
 第六十七條 撰舉ニ關スル犯罪ハ六ヶ月ヲ以テ期滿免除トス
 第六十八條 府縣會規則第十五條第十七條第十八條第十九條其他本規則ニ牴觸スル規定ハ總テ之ヲ廢止ス

附 則

明治二十二年ニ於テハ府縣知事ハ本規則規定ノ時期ニ拘ハラス撰舉人名原簿及ビ人名簿ヲ調製セシメ規定ノ時期ニ至リ仍ホ之ヲ訂正セシムヘシ
 前項ノ名簿調製前議員ノ撰舉ヲ要スル府縣ニ於テハ舊名簿ヲ用ユルコトヲ得ト雖モ其他ハ總テ本規則ニ依ルヘシ
 島司ヲ置キタル地ニ於テハ郡長ノ事務ハ島司ニ於テ之ヲ行フヘシ

◎府縣會議員定數規則
 明治二十四年 六月九日 (勅令第五十九號)

朕府縣會議員定數規則ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

◎府縣會議員定數規則

第一條 府縣制第三條ニ依リ府縣會議員ノ數ヲ定ムルコト左ノ如シ
 管内ノ人口七十萬迄ハ議員三十人ヲ以テ定員トシ七十萬以上百萬迄ハ五萬ヲ加フル毎ニ一人ヲ増シ百萬以上ハ此萬ヲ加フル毎ニ一人ヲ増ス
 第二條 前條定ムル所ノ議員ハ人口ニ應シテ郡市ニ割當撰舉スルモノトス
 第三條 人口増減ノ爲メ議員ノ定數又ハ郡市ノ割當ニ異動ヲ生スルトキハ其改撰期ヲ待テ之ヲ増減ス可シ
 第四條 府縣制第二十七條ニ依リ府縣會ノ職權ニ屬スル事件ヲ市郡ニ分別シタル府縣ニ於テ本規則ニ依リ市若クハ郡ヨリ選出スヘキ議員ノ數十名ニ滿タサルトキハ其定數ヲ十名ト爲スヘシ

○府縣會ノ議員定數規則ニ關スル人口計算方心得
 明治二十四年六月十一日
 〔內務省訓令第十號〕
 本年六月敕令第五十九號ニ掲グル人口毎年十二月末日ノ現在人口ヲ云フ但在營在監ノ現役軍火ハ其營所又ハ定醫港所在地ノ人口ニ算入セス其本籍地ノ人口ニ加フヘキ儀ト心得ラルヘシ

朕郡制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年五月十七日

内閣總理大臣 兼 內務大臣

伯爵 山縣 有朋

○法律第三十六號

郡制

第一章 總則

第一條 郡ノ廢置分合及郡界ノ變更ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

郡界ニ當ル市町村ノ境界ヲ變更スルトキハ郡界モ亦自ラ變更スルモノトス

第二條 郡内ノ町村ヲ變シテ市ト爲シ若ハ市ヲ變シテ郡内ノ町村ト爲スハ其市會町村會ノ申請ニ依リ內務大臣之ヲ定ム

第三條 第一條第二條ノ處分ニ付其財產處分ヲ要スルトキハ府縣參事會之ヲ議決スヘシ但特ニ法律ノ規定アルモノハ此限ニ在ラス

第二章 郡會

第四條 郡會ノ郡内町村ニ於テ選舉シタル議員及大地主ニ於テ選舉シタル議員ヲ以テ之ヲ組織ス

第五條 町村ニ於テ選舉スヘキ郡會議員ノ數ハ每町村各一名トス

郡會議員ノ數二十名以上ニ及フトキハ二十名ヲ以テ制限トス此場合ニ於テ議員配當法ハ首トシテ人口ヲ標準トシ郡會ニ於テ議決シ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

郡會議員ノ數十名ニ滿タサルトキハ郡會ノ議決ニ依リ府縣知事ノ認可ヲ經其數ヲ增シテ十名ニ至ルコトヲ得其配當法ハ首トシテ人口ヲ標準トシ郡會ニ於テ議決シ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

本條議員配當法ハ郡内ノ町村數ニ増減アリタル場合ノ外初回ハ三年間爾後ハ十二年以上ニ至リ町村ノ人口ニ著シキ増減アルニ非サレハ改正セサルモノトス

議員配當法ヲ改正スルトキハ議員全數ヲ改撰スヘシ

第六條 一町村ニ於テ一名以上ノ議員ヲ選舉スルハ其村會之ヲ行ヒ數町村ニ於テ一名若ハ一名以上ノ議員ヲ選舉スル其各町村會會同シテ之ヲ行フハシ

第七條 町村組合ニシテ組合會ヲ設ク其町村一切ノ事務ヲ共同處分スルモノハ第四條乃至第六條ノ規定ニ關シテハ之ヲ一町村ト同視シ其組合會ニ於テ議員選舉ヲ行フヘシ

第八條 大地主ハ町村ニ於テ選舉スヘキ議員定數ノ外其定數三分ノ一互撰スルモノトス若端數ヲ生スルトキハ之ヲ棄却スヘシ

撰舉ヲ行フコトヲ得ヘキ大地主ニシテ其員數町村ニ於テ選舉スヘキ議員定數ノ三分ノ一以下ナルトキハ其大地主ハ撰舉ニ依ラスシテ郡會議員タルモノトス但定期

撰舉ニ依ラスシテ郡會議員タルモノトス但定期

撰舉ニ依ラスシテ郡會議員タルモノトス但定期

撰舉ニ依ラスシテ郡會議員タルモノトス但定期

撰舉ニ依ラスシテ郡會議員タルモノトス但定期

撰舉ニ依ラスシテ郡會議員タルモノトス但定期

撰舉ニ依ラスシテ郡會議員タルモノトス但定期

撰舉ニ依ラスシテ郡會議員タルモノトス但定期

撰舉ニ依ラスシテ郡會議員タルモノトス但定期

撰舉ニ依ラスシテ郡會議員タルモノトス但定期

撰舉ニ依ラスシテ郡會議員タルモノトス但定期

改選ニ期限内ニ於テハ大地主ノ員數減シテ三分ノ一以下ニ至ルト雖解散ノ爲改選
スル場合ヲ除クノ外ハ本項ヲ適用スルノ限ニ在ラス

第九條 大地主トハ郡内ニ於テ町村税ノ賦課ヲ受クル所有地ニシテ地價總計一萬圓
以上ヲ有スル地主ヲ云フ

第十條 郡内町村公民ニシテ町村會ノ選舉ニ參與スルコトヲ得ヘキ者及大地主中自
ラ選舉ニ加ハルコトヲ得ヘキ者ハ總テ郡會ノ被選舉權ヲ有ス

往居ヲ移シタル爲町村ノ公民權ヲ失ヒタル者其住居同郡内ニ在リ且他ノ要件ヲ失
ハサルトキハ仍郡會ノ被選舉權ヲ有ス

左ニ掲クル者ハ選舉ニ係ルト否トヲ問ハズ郡會議員タルコトヲ得ス
一 所屬府 東京府ハ警 縣并ニ其郡ノ官吏

二 其郡ノ有給吏員
三 神官及諸宗ノ僧侶又ハ教師

四 小學校教員
前項ノ外ノ官吏ニシテ當撰ニ應シ又ハ第八條第二項ノ權利ヲ行ハントスルトキハ
本屬長官ノ許可ヲ受クヘシ

第十一條 大地主ニシテ選舉權ヲ有スルハ帝國臣民ニシテ公權ヲ有スル男子ニ限ル
年齢二十歳未満ノ者及治産ノ禁ヲ受ケケル者ハ選舉權ヲ有セサルモノトス

大地主ノ選舉權ハ身代限處分中又ハ租稅滯納處分中又ハ公權ノ剝奪若ハ停止ヲ附
加スヘキ重輕罪ノ爲裁判上ノ訊問若ハ拘留中ハ之ヲ停止ス

本條ノ規定ハ選舉ニ依ラスシテ郡會議員タル者ニモ適用ス

第十二條 選舉權ヲ有スル大地主ハ代人ヲ以テ選舉ヲ行フコトヲ得陸海軍ノ現役ニ服
スル者ハ代人ヲ以テスルニ非サレハ選舉ヲ行フコトヲ得ス

代人ハ帝國臣民ニシテ公權ヲ有シ町村制ニ定メタル獨立ノ男子ニ限ル但一人ニシ
テ數人ノ代理ヲ爲スコトヲ得ス且代人ハ委任狀ヲ以テ代理ノ證トスヘシ

本條ノ規定ハ第八條第二項ノ權利ヲ行フ場合ニモ適用スルモノトス但其代人ハ部
會ニ被選舉權ヲ有スル者ニシテ郡會議員タラサル者ニ限ル

第十三條 郡會議員ハ名譽職トス
町村ニ於テ選舉シタル議員ノ任期ハ六年トシ毎三年其半數ヲ改選ス若其二數二分

シ難キトキハ初回ニ於テ多數ノ一半ヲ解任セシム
初回ニ於テ解任スヘキ者ハ郡會議長郡會ニ於テ自ラ抽籤シテ之ヲ定ム

大地主ニ於テ選舉シタル議員ノ任期ハ三年トシ毎三年其全數ヲ改選ス
解任ノ議員ハ再選セラレ、コトヲ得

第十四條 議員中關員アルトキハ遅クトモ六箇月以内ニ補闕選舉ヲ行フヘシ
補闕議員ハ其前任者ノ殘任期間在職スルモノトス

第十五條 郡長ハ郡會議員改選前選舉權アル大地主ノ名簿ヲ製シ之ニ其資格ヲ記載シ其氏名ヲ告示スヘシ

關係者ニ於テ大地主名簿ノ正否ニ關シ異議アルトキハ告示後二十一日以内ニ郡長ニ申立テ其郡長ノ裁決ニ不服ナル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ服ナル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

大地主名簿ニ登録セヨレサル者ハ選舉ニ參與シ及第八條第二項ニ依リ郡會議員タルコトヲ得ス

大地主名簿ハ次ノ定期改選前ニ行フヘキ補闕選舉ニモ亦適用スルモノトス但大地主ノ資格ヲ失ヒ又ハ選舉權ノ要件ヲ失ヒタル者ハ之ヲ削除シ其氏名ヲ告示スヘシ其處分ニ對シ異議アルトキハ本條第二項ノ例ニ依ル

定期改選ノ期限内新ニ選舉權ヲ得又ハ選舉ニ依ラスニテ郡會議員タルノ權利ヲ得タル者ハ解散ノ爲改選スル場合ヲ除ク外期限内ニ於テ其名簿ニ登録セサルモノトス

第十六條 郡會議員ノ選舉ハ郡長ノ告示ニ依リ之ヲ行フヘシ其告示ハ遲クモ選舉ノ日ヨリ七日前ニ之ヲ發スヘシ

第十七條 選舉ノ順序ハ先ツ町村之ヲ行ヒ次ニ大地主之ヲ行フヘシ

町村ニ於テ行フ選舉ハ町村制第四十六條ノ規定ニ從テヘシ但數町村會會同シテ行

フ選舉ハ郡長又ハ郡長ノ指定スル町村長ヲ選舉會長トシ之ヲ行フヘシ

大地主ニ於テ行フ選舉ハ郡長ヲ選舉會長トシテ之ヲ行フ

第十八條 大地主ニ於テ選舉ヲ行フトキハ左ノ規定ニ依ルヘシ

- 一 郡長ハ遲トモ選舉ノ日ヨリ七日前選舉人ニ招集狀ヲ發シ選舉ノ場所日時ヲ告知スヘシ
- 二 選舉掛ハ選舉會長ニ於テ臨時ニ選舉人中ヨリ選任シタル立會人二名若ハ四名及選舉會長ヲ以テ之ヲ組織ス
- 三 選舉會長ハ選舉會ヲ開閉シ其會場ノ取締ニ任ス
- 四 選舉開會中ハ選舉人ノ外何人タリトモ選舉會場ニ入ルコトヲ得ス
- 五 投票ハ選舉人自ラ選舉會長ノ面前ニ於テ之ヲ投票函ニ投入ス投票ハ匿名トス
- 六 左ノ投票ハ之ヲ無効トス
 - 一 記載セル人名ノ讀ミ難キモノ
 - 二 被選人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ
 - 三 被選權ナキ人名ヲ記載スルモノ
 - 四 被選人氏名ノ外他ノ文字ヲ記入スルモノ但爵位職業身分住所又ハ敬稱ハ此限ニ在ラス

本項一ヨリ三ニ至ルノ場合ニ於テ票中他ニ列記ノ被選人ニ付テハ仍其効アリ

投票ノ受理並ニ効力ニ關スル事項ハ撰舉掛假ニ之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ撰舉會長之ヲ決ス

六 有效投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當撰トス投票ノ數相同キモノハ年長者ヲ取リ年齡相同キトキハ撰舉會長自ラ抽籤シテ其當撰ヲ定ム

七 撰舉掛ハ撰舉録ヲ製シテ撰舉ノ顛末ヲ記錄シ選舉ヲ終リタル後之ヲ朗讀シテ署名スヘシ

八 投票ハ選舉ノ効力確定スル迄之ヲ保存スヘシ

第十九條 選舉ヲ終リ當撰人定マリタルトキハ町村會ニ於テ行フ選舉ニ在テハ町村長數町村會同シテ行フ撰舉及大地主ニ於テ行フ撰舉ニ在テハ撰舉會長直ニ當撰人ニ通知シ町村長ハ之ヲ郡長ニ報告スヘシ

當撰人當撰ノ通知ヲ受ケタルトキハ五日以内ニ其當撰ヲ承諾スルヤ否ヲ郡長ニ届出ヘシ

一人ニシテ數箇所ノ議員ニ當リタルトキハ同期限内ニ何レノ選舉ニ應スヘキコト及撰舉ニ依ラスシテ郡會議員タルヘキ大地主ニシテ町村ノ撰舉ニ當撰シタルトキハ其撰舉ニ應スルコト又ハ應セサルコトヲ同期限内ニ郡長ニ届出ヘシ

前二項ノ届出ヲ其期限内ニ爲ササルトキハ撰舉ヲ辭スル者ト視做スヘシ

町村ノ撰舉ニ應スル大地主ハ第八條第二項ノ權利ヲ有スル者ト雖ニ重ニ其權ヲ行フコトヲ得サルモノトス

第二十條 議員ノ當撰ヲ辭シ又ハ承諾ノ届出ヲ爲ササル者アルトキハ郡長ハ七日以内ニ更ニ撰舉ヲ行ヒ又ハ町村長ニ命シテ撰舉ヲ行ハシムヘシ

第二十一條 當撰人確定シタルトキハ郡長ハ直ニ當撰證書ヲ付與シ及管内ニ告示スヘシ

第二十二條 撰舉人撰舉ノ効力ニ關シテ訴願セントスルトキハ撰舉ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ郡長ニ申立ツルコトヲ得

第二十三條 當撰人其當撰ノ際資格ノ要件ヲ有セザリシコト發覺スルトキハ其當撰ハ無効トス

當選人當選後資格ノ要件ヲ失フトキハ議員ノ職ヲ失フモノトス

第二十四條 郡會ニ於テ其議員中議員ノ資格ヲ有セサル者アルコトヲ發見スルトキハ其議決ヲ以テ之ヲ郡長ニ通知スヘシ

第二十五條 郡會議員被撰權ノ有無及撰舉ノ効力ハ郡參事會之ヲ裁決ス

郡參事會ノ裁決ニ不服ナル者ハ府縣參事議會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服ナル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十六條 郡會ノ議決スヘキ事件左ノ如シ

一 郡府歳入出豫算ヲ定ムル事
 二 決算報告ヲ認定スル事
 三 郡有不動産ノ賣買交換讓渡讓受並ニ買入書入ノ事
 四 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除ク外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ棄却ヲ爲ス事
 五 郡有財産ノ管理及營造物ノ維持方法ヲ定ムル事
 其他法律命令ニ依リ郡會ノ權限ニ屬スル事項ヲ議決ス
 第二十七條 郡會ハ其權限ニ屬スル事件ヲ郡參事會ニ委任スルコトヲ得
 第二十八條 郡會ハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ陳述スヘシ
 郡會ハ其郡ノ全部及ハ一部ノ公益ニ關スル事件ニ付郡長又ハ府縣知事ニ建議スルコトヲ得
 第二十九條 郡會議員ハ選舉人ノ指示若ハ委囑ヲ受クヘカラサルモノトス
 第三十條 郡會ハ郡長ヲ以テ議長トス
 郡會ハ改選後ノ初會ニ於テ議長代理者一名ヲ互選スヘシ
 議長及議長代理者共ニ故障アルトキハ臨時議長代理ヲ互撰スヘシ
 第三十一條 郡長若ハ特ニ郡長ノ委任ヲ受ケタル郡吏員ハ郡會ノ議事ニ參與スルコトヲ得但議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項ノ列席者ニ於テ發言ヲ求ムルトキハ議長ハ何時ニテモ之ヲ許スヘシ
 第三十二條 郡會ハ毎年一回通常會ヲ開クヘシ其他必要アルトキハ其事件ニ限リ臨時會ヲ開クコトヲ得
 郡會ハ郡長之ヲ招集ス若議員三分ノ一以上ニ於テ臨時ニ招集ヲ請求スルトキハ之ヲ招集スヘシ招集ハ開會ノ日ヨリ十四日前迄ニ告示スヘシ但急施ヲ要スル場合ハ此限ニ在ラス
 郡會ハ郡長之ヲ開閉ス
 第三十三條 郡會ハ議員半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得但同一ノ議事ニ付開會一回ニ至ルモ議員猶其半數ニ滿タサルトキハ此限ニ在ラス
 第三十四條 郡會ノ議決ハ過半數ニ依ル可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル
 第三十五條 議員ハ自己及其父母兄弟若ハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ會議ノ承諾ヲ經ルニ非サレハ郡會ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス
 第三十六條 郡會ニ於テ選舉ヲ行フトキハ第十八條四ヨリ六ニ至ル規定ニ依ルヘシ
 第三十七條 郡會ノ會議ハ公開ス但左ノ場合ハ此限ニ在ラス
 一 郡長ヨリ傍聽禁止ノ要求ヲ受ケタルトキ
 二 議長又ハ議員三名以上ノ發議ニ由リ傍聽禁止ヲ可決シタルトキ議長又ハ議員

ノ發議ハ討論ヲ用キスシテ其可否ヲ決スヘシ
第三十八條 議長ハ議事ノ順序ヲ定メ會議及選舉ノ事ヲ總理シ其日ノ會議ヲ開閉シ
並ニ延會シ議場ノ秩序ヲ保持ス

第三十九條 議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用キ及他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス
第四十條 會議中此法律若ハ議事規則ニ違ヒ其他議場ノ秩序ヲ紊ル議員アルトキハ
議長ハ之ヲ警戒シ又ハ制止シ又ハ發言ヲ取消サシム命ニ從ハサルトキハ議長ハ當
日ノ會議ヲ終ルマテ發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシムヘシ若強抗ニ涉ル者
アルトキハ警官ノ處分ヲ求ムルコトヲ得
議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコト
ヲ得

第四十一條 會議ノ傍聽人公然可否ヲ表シ又ハ喧騒ニ涉リ其他議事ノ妨害ヲ爲ス者
アルトキハ議長ハ之ヲ制止シ若命ニ從ハサルトキハ之ヲ退場セシメ必要ナル場合
ニ於テハ警官官ノ處分ヲ求ムルコトヲ得
傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシムルコトヲ得

第四十二條 郡長若ハ特ニ其委任ヲ受ケタル吏員及議員ハ議場ノ秩序ヲ紊リ又ハ議
場ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得
第四十三條 郡會ニ書記ヲ置キ議長ニ隸屬シテ庶務ヲ掌理セシム

書記ハ議長之ヲ撰任ス但郡吏員ヲシテ之ヲ兼シシムルコトヲ得

第四十四條 郡會ハ書記ヲシテ議事録ヲ製シ議決及選舉ノ頗未並ニ出席議員ノ氏名
ヲ記録セシムヘシ議事録ハ議長及議員二名以上之ニ署名スヘシ其議員ハ會議ノ前
郡會ニ於テ豫メ之ヲ定メ議事録中ニ其氏名ヲ記載シ置クヘシ
第四十五條 郡會ハ議事規則及傍聽人取締規則ヲ設ケ府縣知事ノ認可ヲ受ケテ之ヲ
施行スヘシ

第三章 郡參事會吏員及委員

第四十六條 郡ニ郡參事會ヲ置キ郡長及名譽職參事會會員四名ヲ以テ之ヲ組織ス
名譽職參事會會員中三名ハ郡會ニ於テ其會員中ヨリ互撰シ一名ハ府縣知事ニ於テ郡
會議員若ハ郡内町村ノ公民中ヨリ撰任スヘシ
第四十七條 郡參事會ハ郡長ヲ以テ議長トス議長故障アルトキハ會員ニ於テ臨時議
長代理ヲ互撰スヘシ

第四十八條 郡會ハ每通常會ニ於テ郡會ノ互撰シタル名譽職參事會會員ノ補充員三名
ヲ互撰シ其名譽職參事會會員ノ闕員アルトキハ郡長ニ於テ補充員中投票多數ノ順次
ニ依リ之ヲ補充スヘシ但其既ニ補充シタル者ハ前任者ノ任期中在職スルモノトス
第四十九條 名譽職參事會會員ノ任期ハ議員ノ任期ニ從フ但任期滿限ノ後ト唯後任者
就職ノ日マテ在職スルモノトス

郡會ノ互撰シタル各譽職參事會員ハ補充員ヲ以テ其闕員ヲ補充シ仍闕員ヲ生シタル場合ニ於テハ二箇月以内ニ臨時其撰舉ヲ行フヘシ

第五十條 郡參事會ノ職務權限左ノ如シ

- 一 郡會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其委任ヲ受ケタルモノヲ議決スル事
 - 二 郡會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急施ヲ要シ郡長ニ於テ郡會ヲ招集スルノ暇ナシト認ルトキ郡會ニ代テ議決ヲ爲ス事
 - 三 郡會ノ定メタル方法ノ範圍内ニ於テ郡有財産ノ管理又ハ營造物ノ維持ニ關シ必要ナル事件ニ付議決ヲ爲ス事
 - 四 郡ノ費用ヲ以テ支辨スル工事ノ次第順序其他必要ナル事件ニ付議決ヲ爲ス事
 - 五 郡長其他官廳ノ諮問ニ對シ意見ヲ述フル事
 - 六 郡長ヨリ發スル郡會議案ニ付郡長ニ意見ヲ述ヘ及會議ニ報告スル事
 - 七 臨時必要アルトキ郡ノ出納ヲ檢査スル事
- 其他法律命令ニ依リ郡參事會ノ權限ニ屬スル事務ヲ處理ス
- 第五十一條 郡參事會ハ郡長之ヲ招集ス
- 會員半數以上ノ請求アルトキハ郡長ハ郡參事會ヲ招集スヘシ
- 第五十二條 郡參事會ノ會議ハ傍聽ヲ許サス
- 第五十三條 郡參事會ハ郡長又ハ其代理者及會員半數以上出席スルニ非サレハ會議

ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ル

郡參事會ノ議決ハ過半數ニ依ル可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

議決ノ事件ハ之ヲ議事録ニ登記シ議長及名譽職參事會員二名以上之ニ署名スヘシ

第五十四條 郡參事會員ハ自己及其父母兄弟若ハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ付郡參事會ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項ノ規定ノ爲出席ノ參事會員減少シテ前條第一項ノ數ヲ得サルトキハ郡長ハ補充員ヲ以テ臨時之ニ充テ仍其數ヲ得サルトキハ郡會議員ニシテ該事件ニ關係ナキ者ノ内ヨリ臨時ニ指名シ名譽職參事會員ノ不足ヲ補充シテ第四十六條ノ定數ニ滿タシムヘシ

第五十五條 町村制ノ規定ニ依リ郡參事會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ二郡以上ノ町村ニ交渉スルモノアルトキハ其郡長ノ具狀ニ依リ府縣知事ニ於テ其事件ヲ管理スヘキ郡參事會ヲ指定スヘシ二府縣以上ノ町村ニ交渉スルモノアルトキハ其府縣知事ノ具狀ニ依リ內務大臣ニ於テ之ヲ指定スヘシ

第五十六條 郡長ハ郡會及郡參事會ノ議決ヲ施行シ及郡有ノ財産及營造物ヲ管理シ並ニ郡ノ費用ヲ以テ支辨スル工事ヲ執行ス

郡ニ於テ他人ノ對シ義務ヲ負擔スヘキ證書及委任狀ニハ郡長ノ外名譽職參事會員二名以上之ニ署名捺印スヘシ

前項ノ文書中郡會又ハ參事會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其議決ヲ經タルモノハ其旨ヲ記入スヘシ

第五十七條 郡會ニ於テ名譽職參事會員ヲ撰舉セス又ハ參事會成立セス又ハ招集ニ應セザルトキハ參事會成立シ又ハ招集ニ應スル迄郡長郡參事會ノ權限ニ屬スル事件ヲ專決處分スルコトヲ得

非常事變ニ際シ郡參事會ヲ招集スルノ暇ナク又ハ名譽職參事會員ノ出席半數以上ニ至ラザルトキハ郡長ハ郡參事會ノ權限ニ屬スル事件ヲ專決處分スルコトヲ得

本條ノ處分ハ次回ノ郡會々議ニ於テ之ヲ報告スヘシ

第五十八條 郡ハ府縣稅ヲ以テ支辨スル郡吏員ノ外郡會ノ議決ニ依リ郡ノ費用ヲ以テ郡有財產又ハ營造物ノ管理若ハ土木工事ニ必要ナル有給郡吏員ヲ置クコトヲ得

但其郡吏員ハ他ノ郡吏ニ準シ府縣知事ニ於テ之ヲ任免監督ス

前項郡吏員ノ給料手當退隱料等ハ郡會ノ議決スル所ニ依ル其身元保證金ヲ要スルトキ其金額ヲ定ムルモ亦同シ

第五十九條 郡長ハ郡會ノ議決ヲ經テ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置キ郡事務ノ一部ヲ調査セシメ又ハ郡有財產及營造物ノ一部ヲ管理セシムルコトヲ得

委員ハ郡會ニ於テ之ヲ撰舉ス其撰舉ノ方法及任期ハ郡會ノ議決スル所ニ依ル委員ハ名譽職トス

第四章 郡ノ會計

第六十條 郡有財產及營造物管理ノ費用郡會郡參事會及委員ノ費用第五十八條ノ郡吏員ノ給料退隱料其他諸給與及法律勅令ニ依リ郡ノ負擔ト定ムル事件ノ費用ハ其郡ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

第六十一條 郡會議員名譽職參事會員及委員ニハ旅費及日當ヲ給スルコトヲ得但日當ハ一日五十錢ヲ超ユルコトヲ得ス

第六十二條 郡ノ支出ニ充ツル費用ハ郡有財產ヨリ生スル收入其他雜收入ヲ以テ充ルモノ、外ハ郡内各町村ニ於テ分賦ス各町村分賦ノ割合ハ各町村前年度ノ直接國稅府縣稅ノ徵收額ニ據ル

各町村分賦ノ額ハ各町村ニ於テ之ヲ町村ノ豫算ニ編入シ町村稅トシテ徵收シ其總額ヲ郡金庫ニ納ムヘシ

第六十三條 郡内ノ或ル部分ニ對シ特ニ利益アル土木事業ヲ起ストキハ郡會ノ議決ニ依リ該部分ノ町村ニ對シ通常分賦額ノ外ハ其利益ノ厚薄ニ應シ特ニ夫役現品ヲ増課スルコトヲ得

第六十四條 郡ハ天災事變ノ爲已ムヲ得サル支出又ハ其郡ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ要スルニ方リ通常ノ歲入ヲ増加スルトキハ郡内町村ノ負擔ニ堪ヘサルノ場合ニ限リ勅令ノ定ムル所ニ依リ郡會ノ議決ヲ以テ郡債ヲ起スコトヲ得

郡債ヲ起スノ議決ヲ爲ストキハ併セテ起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定ムヘシ

郡債償還ノ初期ハ三年以内ト爲シ年々ノ償還歩合ヲ定メ起債ノ時ヨリ三十年以内ニ還了スヘシ

歳入出豫算内ノ支出ヲ爲スカ爲必要ナル一時ノ借入金ニシテ其年度内ノ收入ヲ以テ償還スヘキモノハ本條ノ例ニ依ルノ限ニ在ラス但參事會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス

第六十五條 郡長ハ毎年其翌年度ニ係ル歳入出豫算ヲ調製スヘシ但郡ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

豫算ハ郡會ノ議決ニ付スルノ前郡參事會ノ審査ニ付スヘシ若郡長ト郡參事會ト意見ヲ異ニスルトキハ郡長ハ參事會ノ意見ヲ豫算ニ添ヘ郡會ニ提出スヘシ追加又ハ臨時ノ豫算ニ付テモ亦同シ

内務大臣ハ省令ヲ以テ豫算調製ノ式ヲ定メ並ニ費目流用ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ得

第六十六條 豫算ハ毎年郡會ノ議決ヲ取り之ヲ府縣知事ニ報告シ並ニ郡慣行ノ公告式ニ依リ其要領ヲ告示スヘシ追加又ハ臨時ノ豫算ヲ議決シタル場合ニ於テモ亦同シ

郡ノ費用ヲ以テ支辨スル事業ニシテ數年ヲ期シテ施行スヘキモノ又ハ數年ヲ期シテ其費用ヲ支出スヘキモノハ郡會ノ議決ヲ以テ其年期間各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

豫算ヲ郡會ニ提出スルトキハ郡長ハ併セテ其郡有財産表ヲ提出スヘシ

第六十七條 歳入出豫算中ニ豫備費ヲ設クヘシ豫備費ハ郡長ニ於テ郡參事會ノ議決ヲ經テ己ムヲ得サル豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ニ充ツルコトヲ得但郡會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第六十八條 郡ノ收支命令ハ郡長之ヲ發スヘシ

第六十九條 會計事務ヲ管理スル郡役所會計吏ハ前條ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス及其命令アルモ支出ノ豫算ナキカ又ハ豫備費支出及費目流用ノ規定ニ依ラザルトキハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

第七十條 郡ノ出納ハ毎月例日ヲ定メテ檢査シ及毎年少クトモ一回臨時檢査ヲ爲スヘシ檢査ハ郡長又ハ其代理者之ヲ爲シ臨時檢査ニハ郡參事會一名以上ノ立會ヲ要ス

第七十一條 決算ハ會計事務ノ管理スル郡役所會計吏ニ於テ會計年度後三箇月以内ニ之ヲ郡長ニ提出シ郡長ハ郡參事會員ヲシテ之ヲ檢査セシメ次回ノ通常郡會ノ認定ニ付スヘシ

決算報告書並ニ之ニ關スル郡會ノ議決ハ郡長ヨリ之ヲ府縣知事ニ報告シ並ニ決算
ハ郡慣行ノ公告式ニ依リ其要領ヲ告示スヘシ

第五章 監督

第七十二條 郡ノ行政ハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ内務大臣之
ヲ監督スルハ

第七十三條 此法律中別段ノ規定アル場合ヲ除ク外郡ノ行政ニ關スル府縣知事又
ハ府縣參事會ノ處分若ハ裁決ニ不服ナル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

郡ノ行政ニ關スル訴願ハ其事件ノ處分若ハ裁決ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ其
理由ヲ具シテ之ヲ提出スヘシ

此法律ニ指定スル場合ニ於テ府縣知事ノ處分又ハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アリテ
行政裁判所ニ出訴セントスル者ハ裁決ヲ受ケタル日ヨリ二十一日以内ニ出訴スル
ハ

行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス
第七十四條 監督官廳ハ郡行政ノ法律命令ニ背反セサルヤ其事務錯乱滯滞セサルヤ
否ヲ監視スヘシ監督官廳ハ之ヲ爲メ行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ豫算及決算
等ノ書類帳簿ヲ徴シ并ニ實地ニ就テ事務ノ現況ヲ觀察シ出納ヲ檢閲スルノ權ヲ有
ス

第七十五條 郡會又ハ郡參事會ノ議決其權限ヲ越エ法律命令ニ背キ又ハ公益ヲ害ス
ト認ムルトキハ郡長自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ
議決ヲ執行ヲ停止シ之ヲ再議セシメ猶其議決變更セサルトキハ直ニ府縣知事ノ裁
決ヲ請フヘシ其權限ヲ越エ又ハ法律命令ニ背クニ依テ議決ヲ執行ヲ停止シタル場
合ニ於テ府縣知事ノ裁決ニ不服ナル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第七十六條 郡會又ハ郡參事會於テ法律命令又ハ慣行ニ依テ郡ノ負擔ニ屬スル行
政上又ハ公益上必要ノ費用ヲ否決シ又ハ議決スト雖必要ノ給需ヲ缺クトキハ郡長
ハ府縣知事ニ具狀シ其指揮ヲ請ヒ原案ヲ執行スルコトヲ得但府縣知事ハ原案金額
ヲ不相當ト認ムルトキハ原案金額以内ニ於テ適當ノ金額ヲ定メ指揮スルコトヲ得

第七十七條 郡會招集ニ應セス又ハ成立セサルトキハ郡長ハ府縣知事ノ指揮ヲ請ヒ
處分スルコトヲ得
前項ノ處分ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ報告スルコトヲ得
第七十八條 郡會又ハ郡參事會ニ於テ其議決スヘキ議案ヲ議決セサル場合ニ於テ其
事緊急ヲ要スルトキハ郡長ハ府縣知事ニ具狀シ其指揮ヲ請ヒ原案ヲ執行スルコト
ヲ得但其議決セサル議案歳入出豫算ニ依リ府縣知事ニ於テ原案金額ヲ不相當ト認
ムルトキハ原案金額以内ニ於テ適當ノ金額ヲ定メ指揮スルコトヲ得
第七十九條 府縣知事ハ郡ノ歳入出豫算中不適當ノ支出ト認ムル費用アルトキハ之

ヲ削除シ及其郡ノ資力ニ比シ不急ノ支出ト認ムル費目アルトキハ之ヲ削除若ハ減殺スルコトヲ得此場合ニ於テハ收入科目中ニ就キ之ニ相當スル收入額ヲ減殺スヘシ

第八十條 郡會ハ内務大臣之ヲ解散セシムルコトヲ得此場合ニ於テハ三個月以内ニ議員ヲ改撰スヘシ

前項解散ノ場合ニ於テハ名譽職參事會員モ亦解職スルモノトス
郡委員ハ郡會ノ解散ニ依リ解職スルノ限ニ在ラス但改撰郡會ノ議決ヲ以テ之ヲ改撰スルコトヲ得

郡會解散ノ後改撰終了ニ至ル迄ノ間急施ヲ要スル事件アルトキハ郡長之ヲ專決處分スルコトヲ得

前項ノ處分ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ報告スヘシ

第八十一條 左ノ事件ニ關スル郡會ノ議決ハ内務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス
トヲ要ス

一 新ニ郡債ヲ起シ又ハ其額ヲ増加シ若ハ償還ノ方法ヲ變更スル事

第八十二條 左ノ事件ニ關スル郡會ノ議決ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス
一 郡有不動産ノ賣却讓渡並ニ質入書入ノ事

二 第六十三條ニ依リ郡内ノ或ル部分ニ對シ特ニ夫役現品ヲ増課スル事

三 第六十六條第二項ニ依リ繼續費ヲ定メ及其年期内ニ議決ヲ變更スル事

第六章 附則

第八十三條 郡内總町村ノ共有ニ屬スル財産及營造物ハ郡内總町村ノ聯合又ハ組合ヲ以テ設立セル小學校ヲ除クノ外此法律施行ノ日ヨリ郡ノ所有ニ歸シ其權利義務トモ同時ニ郡ニ移ルモノトス

第八十四條 府縣參事會及行政裁判所ヲ開設スル迄ノ間此法律ニ依リ府縣參事會ニ屬スル職務ハ府縣知事、行政裁判所ニ屬スル職務ハ現行ノ行政裁判手續ニ從ヒ控訴院ニ於テ之ヲ行フヘシ

第八十五條 嶋司ヲ置ケル嶋嶼ニ於テハ別ニ勅令ヲ以テ其制ヲ定ム

第八十六條 此法律ニ依リ始メテ議員ヲ撰舉スルニ付郡會及郡參事會ノ職務ハ郡長ニ於テ之ヲ行フヘシ

第八十七條 町村制施行ノ爲ニ定ムル直接税ノ種類ハ此法律ノ施行ニ付テモ亦適用ス

第八十八條 此法律施行ノ後ハ町村制第二百二十六條第三ニ定ムル附加税徵收ノ許可ハ地租七分ノ一、五(十四分ノ三)ヲ超過スル上キ之ヲ要スルモノトス

第八十九條 此法律ハ町村制ヲ施行シタル各府縣ニ施行スルモノトス其施行ノ時期ハ府縣知事ヲ具申ニ依リ内務大臣之ヲ定ム

第九十條 明治十一年七月第十七號布告郡區町村編制法其他此法律ニ牴觸スル成規
ハ此法律施行ノ地ニ於テ其施行ノ時期ヨリ總テ之ヲ廢止ス

第九十一條 內務大臣ハ此法律施行ノ責ニ任シ之カ爲必要ナル命令ヲ發布スヘシ
朕地方共同ノ利益ヲ發達セシメ衆庶臣民ノ幸福ヲ増進スルコトヲ欲シ隣保團結ノ舊
慣ヲ存重シテ益之ヲ擴張シ更ニ法律ヲ以テ郡市及町村ノ權義ヲ保護スルノ必要ヲ認
メ茲ニ市制及町村制ヲ裁可シテ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治十一年四月十七日 內閣總理大臣 伯爵 伊藤博文

內務大臣 伯爵 山縣有朋

○法律第壹號

町村制

第一章 總則

第一條 町村及其區域

此法律ハ市制ヲ施行スル地ヲ除外總テ町村ニ施行スルモノトス
第二條 町村ハ法律上一個人ト均ク權利ヲ有シ義務ヲ負擔シ凡町村公共ノ事務ハ官
ヲ監督ヲ受ケテ自ラ之ヲ處理セラルルモノトス

第三條 凡町村ハ往來ノ區域ヲ存シテ之ヲ變更セス

但將來其變更ヲ要スルコトアルトキハ此法律ニ準據ス可シ

第四條 町村ノ廢置分合ヲ要スルトキハ關係アル市町村會及郡參事會ノ意見ヲ聞キ

府縣參事會之ヲ議決シ內務大臣ノ許可ヲ受ク可シ

町村境界ノ變更ヲ要スルトキハ關係アル町村會及地主ノ意見ヲ聞キ郡參事會之ヲ

議決ス其數郡ニ涉リ若クハ市ノ境界ニ涉ルモノハ府縣參事會之ヲ議決ス

町村ヲ實力法律上ノ義務ヲ負擔スルニ堪ヘス又ハ公益上ノ必要アルトキハ關係者

ノ異議ニ拘ハラズ町村ヲ合併シ又ハ其境界ヲ變更スルコトアルヘシ

本條ノ處分ニ付其町村ノ財產處分ヲ要スルトキハ併セテ之ヲ議決スヘシ

第五條 町村ノ境界ニ關スル爭論ハ郡參事會之ヲ裁決ス其數郡ニ涉リ若クハ市ノ境

界ニ涉ルモノハ府縣參事會之ヲ裁決ス其郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事

會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アルモノハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二款 町村住民及其權利義務

第六條 凡町村內ニ住居ヲ占ムル者ハ總テ其町村住民トス

凡町村住民タル者ハ此ノ法律ニ從ヒ公共ノ營造物並町村有財產ヲ共用スルノ權利

ヲ有シ及町村ノ負擔ヲ分任スルノ義務ヲ有スルモノトス

但特ニ民法上ノ權利及義務ヲ有スルモノアルトキハ此限ニ在ラス

第七條 凡帝國臣民ニシテ公權ヲ有スル獨立ノ男子二年以來(一)町村ノ住民トナリ(二)其町村ノ負擔ヲ分任シ及(三)其町村内ニ於テ地租ヲ納メ若クハ直接間接稅年額二圓以上ヲ納ムル者ハ其町村公民トス其ノ公費ヲ以テ救助ヲ受ケタル後二年ヲ經ル者ハ此限ニ在ラス

但場合ニ依リ町村會ノ議決ヲ以テ本條ニ定ムル二年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得此法律ニ獨立ト稱スルハ滿二十五歲以上ニシテ一戸ヲ構ハ且治産ノ禁ヲ受ケサル者ヲ云フ

第八條 凡町村公民ハ町村ノ選舉ニ參與シ町村ノ各舉職ニ推舉セラル、ノ權利アリ又其名譽職ヲ擔任スルハ町村公民ノ義務ナリトス

左ノ理由アルニ非サレハ各舉職ヲ拒辭シ又ハ任期中退職スルコトヲ得ス

一 疾病ニ罹リ公務ニ堪ヘサル者

二 營業ノ爲メニ常ニ其町村内ニ居ルコトヲ得サル者

三 年齡滿六十歲以上ノ者

四 官職ノ爲メニ町村ノ公務ヲ執ルコトヲ得サル者

五 四年間無給ニシテ町村吏員ノ職ニ任シ爾後四年ヲ經過セサル者及六年間町村議員ノ職ニ居リ爾後六年ヲ經過セサル者

六 其他町村會ノ議決ニ於テ正當ノ理由アリト認ムル者

欠

MISSING

町村吏員及使丁ハ別段ノ規定又ハ規約アルモノヲ除クノ外隨時解職スルコトヲ得

第三款 町村吏員ノ職務權限

第六十八條 町村長ハ其町村ヲ統轄シ其行政事務ヲ擔任ス

町村長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

- 一 町村會ノ議事ヲ準備シ及其議決ヲ執行スル事若シ町村會ノ議決其權限ヲ超エ法律命令ニ背キ又ハ公衆ノ利益ヲ害スト認ムルトキハ町村長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ更メサルトキハ郡參事會ノ議決ヲ請フ可シ其權限ヲ超ヘ又ハ法律命令ニ背クニ依テ議決ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テ府縣參事會ノ議決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
- 二 町村ノ設置ニ係ル營造物ヲ管理スル事若シ特ニ之カ管理者アルトキハ其事務ヲ監督スル事
- 三 町村ノ歲入ヲ管理シ歲入出豫算表其他町村會ノ議決ニ依リテ定マリタル歲入出ヲ命令シ會計及出納ヲ監視スル事
- 四 町村ノ權利ヲ保護シ町村有ノ財産ヲ管理スル事
- 五 町村吏員及使丁ヲ監督シ懲戒處分ヲ行フ事其懲戒處分ハ隨責及五圓以下ノ過怠金トス

六 町村ノ諸證書及公文書籍ヲ保管スル事

七 外部ニ對シテ町村ヲ代表シ町村ノ名義ヲ以テ其訴訟并和解ニ關シ又ハ他廳若クハ人民ト商議スル事

八 法律勅令ニ依リ又ハ町村會ノ議決ニ從テ使用料手数料町村税及夫役現品ヲ賦課徵收スル事

九 其他法律命令又ハ上伺指令ニ依テ町村長ニ委任シタル事務ヲ處理スル事

第六十九條 町村長ハ法律命令ニ從ヒ左ノ事務ヲ管掌ス

一 司法警察補助官タルノ職務及法律命令ニ依テ其管理ニ屬スル地方警察ノ事務
但別ニ官署ヲ設ケテ地方警察事務ヲ管掌セシムルトキハ此限ニ在ラス

二 浦役場ノ事務

三 國ノ行政並府縣郡ノ行政ニシテ町村ニ屬スル事務但別ニ吏員ノ設ケアルトキハ此限ニ在ラス

右三項中ノ事務ハ監督官廳ノ許可ヲ得テ之ヲ助役ニ分掌セシムルコトヲ得本條ニ掲載スル事務ヲ執行スルガ爲メニ要スル費用ハ町村ノ負擔トス

第七十條 町村助役ハ町村長ノ事務ヲ補助ス

町村長ハ町村會ノ同意ヲ得テ助役ヲシテ町村行政事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ得

助役ハ町村長故障アルトキ之ヲ代理ス助役數名アルトキハ上席者之ヲ代理ス可シ

第七十一條 町村收入役ハ町村ノ收入ヲ受領ス其費用ノ支拂ヲ爲シ其他會計事務ヲ掌ル

第七十二條 書記ハ町村長ニ屬シ庶務ヲ分掌ス

第七十三條 區長及其代理者ハ町村長ノ機關トナリ其指揮命令ヲ受ケテ區内ニ關スル町村長ノ事務ヲ補助執行スルモノトス

第七十四條 委員(第六十五條)ハ町村行政事務ノ一部ヲ分掌シ又ハ營造物ヲ管理シ若クハ監督シ又ハ一時ノ委託ヲ以テ事務ヲ處辨スルモノトス

委員長ハ委員ノ議決ニ加ハルノ權ヲ有ス助役ヲ以テ委員長ト爲ス場合ニ於テモ町村長ハ臨時委員會ニ出席シテ其委員ト爲リ並其議決ニ加ハルノ權ヲ有ス常設委員ノ職務權限ニ關シテハ町村條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ設ケルコトヲ得

第三款 給料及給與

第七十五條 名譽職員ハ此法律中別ニ規定アルモノヲ除クノ外職務取扱ノ爲メニ要スル實費ノ辨償ヲ受クルコトヲ得實費辨償額報酬額及書記料ノ額(第六十三條第一項)ハ町村會之ヲ議決ス

第七十六條 有給町村長有給助役其 有給吏員及使丁ノ給料額ハ町村會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム

町村會ノ議決ヲ以テ町村長及助役ノ給料額ヲ定ムルトキハ郡長ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス郡長ニ於テ之ヲ許可ス可カラスト認ムルトキハ郡參事會ノ議決ニ付シテ之ヲ確定ス

第七十七條 町村條例ノ規定ヲ以テ有給吏員ノ退隱料ヲ設クルコトヲ得

第七十八條 有給吏員ノ給料退隱料其他第七十五條ニ定ムル給與ニ關シテ異議アルトキハ關係者ノ申立ニ依リ郡參事會之ヲ議決ス其郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ議決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第七十九條 退隱料ヲ受クル者官廳又ハ府縣郡市平民及公共組合ノ職務ニ就キ給料ヲ受クルトキハ其間之ヲ停止シ又ハ更ニ退隱料ヲ受クルノ權ヲ得ルトキハ其額與退隱料ト同額以上ナルトキハ舊退隱料ハ之ヲ停止ス

第八十條 給料、退隱料、報酬及辨償等ハ總テ町村ノ負擔トス

第四章 町村有財產ノ管理

第一款 町村有財產及町村稅

第八十一條 町村ハ其不動産積立金穀等ヲ以テ基本財産ト爲シ之ヲ維持スルノ義務アリ

臨時ニ收入シタル金穀ハ基本財産ニ加入ス可シ但寄附金等寄附者其使用ノ目的ヲ

定ムルモノハ此限ニ在ラス

第八十二條 凡町村有財產ハ全町村ノ爲メニ之ヲ管理シ及共用スルモノトス但特ニ民法上權利ヲ有スル者アルトキハ此限ニ在ラス

第八十三條 舊來ノ慣行ニ依リ町村住民中特ニ其町村有ノ土地物件ヲ使用スル權利ヲ有スル者アルトキハ町村會ノ議決ヲ經ルニ非サレハ其舊慣ヲ改ムルコトヲ得ス
第八十四條 町村住民中特ニ其町村有ノ土地物件ヲ使用スル權利ヲ得ントスル者アルトキハ町村條例ノ規定ニ依リ使用料若クハ一時ノ加入金ヲ徵收シ又ハ使用料加入金ヲ共ニ徵收シ之ヲ許可スルコトヲ得但徒ニ民法上使用ノ權利ヲ有スル者ハ此限ニ在ラス

第八十五條 使用權ヲ有スル者(第八十二條第八十四條)ハ使用ノ多寡ニ準シテ其土地物件ニ係ル必要ナル費用ヲ分擔スヘキモノトス

第八十六條 町村會ハ町村ノ爲メニ必要ナル場合ニ於テハ使用權(第八十三條第八十四條)ヲ取上又ハ制限スルコトヲ得但特ニ民法上使用ノ法權ヲ有スル者ハ此限ニアラス

第八十七條 町村有財產賣却貸與又ハ建築工事及物品調達ノ請負ハ公ケノ入札ニ付ス可シ但臨時急施ヲ要スルトキ及入札ノ價額其費用ニ比シテ得失相償サルトキ又ハ町村會ノ認許ヲ得サルトキハ此限ニアラス

第八十八條 町村ハ其必要ナル支出及従前ノ法律命令ニ依テ賦課セラレ又ハ將來法律勅令ニ依テ賦課セララルル支出ヲ負擔スル義務アリ

町村ハ其財産ヨリ生スル收入及使用料、手数料(第八十九條)並科料、過怠金其他法律勅令ニ依リ町村ニ屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充テ猶不足アルトキハ町村税(第九十條)及夫役現品(第一百一條)ヲ賦課徵收スルコトヲ得

第八十九條 町村ハ其所有物及營造物ノ使用ニ付又ハ特ニ數個人ノ爲メニスル事業ニ付使用料又ハ手数料ヲ徵收スルコトヲ得

第九十條 町村税トシテ賦課スルコトヲ得可キ目左ノ如ク
一 國稅府縣稅ノ附加稅

二 直接又ハ間接ノ特別稅

附加稅ハ直接ノ國稅又ハ府縣稅ニ附加シ均一ノ稅率ヲ以テ町村ノ全部ヨリ徵收スルヲ常例トス特別稅ハ附加稅ノ外別ニ町村ニ限リ稅目ヲ起シテ課稅スルコトヲ要スルトキ賦課徵收スルモノトス

第九十一條 此法律ニ規定セル條項ヲ除クノ外使用料、手数料(第八十九條)特別稅(第九十條第一項第二)及従前ノ町村費ニ關スル細則ハ町村條例ヲ以テ之ヲ規定ス可シ其條例ニハ科料一圓九十五錢以下ノ罰則ヲ設クルコトヲ得
科料ニ處シ及之ヲ徵收スルハ町村長之ヲ掌ル其處分ニ不服アル者ハ令狀交付後十

四日以内ニ司法裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第九十二條 三ヶ月以上町村内ニ滞在スル者ハ其町村税ヲ納ムルモノトス但其課稅ハ滞在ノ初ニ遡リ徵收ス可シ

第九十三條 町村内ニ住居ヲ構ヘス又ハ三ヶ月以上滞在スルコトナシト雖モ町村内ニ土地家屋ヲ所有シ又ハ營業ヲ爲ス者(店舖ヲ定メサル行商ヲ除ク)ハ其土地家屋營業若クハ其所得ニ對シテ賦課スル町村税ヲ納ムルモノトス其法人タルトキモ亦同シ但郵便電信及官設鐵道ノ業ハ此限ニ在ラス

第九十四條 所得稅ニ附加稅ヲ賦課シ及町村ニ於テ特別ニ所得稅ヲ賦課セントスルトキハ納稅者ノ町村外ニ於ケル所有ノ土地家屋又ハ營業(店舖ヲ定メサル行商ヲ除ク)ヨリ收入スル所得ハ之ヲ控除ス可キモノトス

第九十五條 數市町村ニ住居ヲ構ヘ又ハ滞在スル者ニ前條ノ町村税ヲ賦課スルトキハ其所得ヲ各市町村ニ平分シ其一部分ニノミ課稅ス可シ但土地家屋又ハ營業ヨリ收入スル所得ハ此限ニ在ラス

第九十六條 所得稅法第三條ニ掲グル所得ハ町村税ヲ免除ス

第九十七條 左ニ掲クル物件ハ町村税ヲ免除ス
一 政府府縣郡市町村及公共組合ニ屬シ直接ノ公用ニ供スル土地、營造物及家屋
二 社寺及官立公立ノ學校病院其他學藝美術及慈善ノ用ニ供スル土地、營造物及

家屋

三 官有ノ山林又ハ荒蕪地但官有山林又ハ荒蕪地ノ利益ニ係ル事業ヲ起シ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ得テ其費用ヲ徴收スルハ此限ニ在ラス

新開地及開墾地ハ前條ノ例ニ依リ年月ヲ限リ免稅スルコトヲ得

第九十八條 前二條ノ外町村稅ヲ免除ス可キモノハ別段ノ法律命令ニ定ムル所ニ從フ皇族ニ係ル町村稅ノ賦課ハ退テ法律勅令ヲ以テ定ムル迄現今ノ例ニ依ル

第九十九條 數個人ニ於テ專ラ使用スル所ノ營造物アルトキハ其修築及保存ノ費用ハ之ヲ其關係者ニ賦課ス可シ

町村内ノ一部ニ於テ專ラ使用スル營造物アルトキハ其部内ニ住居シ若クハ滞在シ又ハ土地家屋ヲ所有シ營業(店舗ヲ定メサル行商ヲ除ク)ヲ爲ス者ニ於テ其修築及保存ノ費用ヲ負擔ス可シ但其一部ノ所有財產アルトキハ其收入ヲ以テ先ツ其費用ニ充ツ可シ

第百條 町村稅ハ納稅義務ノ起リタル翌月ノ初ヨリ免稅理由ヲ生シタル月ノ終迄月割ヲ以テ之ヲ徴收ス可シ

會計年度中ニ於テ納稅義務消滅シ又ハ變更スルトキハ納稅者ヨリ之ヲ町村長ニ届出ツ可シ其届出ヲ爲シタル月ノ終迄ハ從前ノ稅ヲ徴收スルコトヲ得

第百一條 町村公共ノ事業ヲ起シ又ハ公共ノ安寧ヲ維持スルカ爲メニ夫役及現品ヲ

欠

MISSING

義務アルモノトス

第二條 兵役ハ分テ常備兵役後備兵役及國民兵役トス

第三條 常備兵役ハ分テ現役及豫備役トス

現役ハ陸軍ハ三箇年海軍ハ四箇年ニシテ滿二十歳ニ至リタル者之ニ服シ豫備役ハ陸軍ハ四箇年海軍ハ三箇年ニシテ現役ヲ終リタル者之ニ服ス

第四條 後備兵役ハ五箇年ニシテ常備兵役ヲ終リタル者之ニ服ス

第五條 國民兵役ハ滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ者ニシテ常備兵役及後備兵役ニ在ラサル者之ニ服ス

第六條 各兵役ノ期限既ニ滿ルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習或ハ觀兵ノ舉アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其期ヲ延スコトアル可シ

第七條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ兵役ニ服スルコトヲ許サス

第八條 陸軍現役兵ハ毎年所要ノ人員ニ應ジ壯丁ノ身體藝能職業ニ從ヒ步兵騎兵工兵砲兵輜重兵職工及雜卒ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤者ヲ以テ之ニ充ツ

海軍現役兵ハ毎年所要ノ人員ニ應ジ沿海地方及島嶼ノ壯丁ヲ調査シ海軍ニ適スル職業ニ從ヒ水兵火夫職工及雜卒ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ

但海軍志願兵徵募規則ニ依リ服役スル者ハ本令ノ限ニアラス
警備隊ヲ置キタル島嶼ノ壯丁ハ總テ之ヲ警備隊ニ充テ其地ニ於テ服役セシム但在

營期限ハ一箇年以内トス

第九條 雜卒ノ現役期限ハ其職務ニ因リ之ヲ短縮スルコトアル可シ但常備兵役ノ全期ハ之ヲ減縮スルコトナシ

第十條 二十歳ニ至ラスト雖モ滿十七歳以上ノ者ハ志願ニ由リ現役ニ服スルコトヲ得

第十一條 滿十七歳以上滿二十六歳以下ニシテ官立學校(小學科及撰科等ノ別科ヲ除ク)府縣立師範學校中學校若クハ文部大臣ニ於テ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認メタル學校若クハ文部大臣ノ認可ヲ經タル學校ニ依リ法律學政治學理化學ヲ教授スル私立學校ノ卒業證書ヲ所持シ若クハ陸軍試驗委員ノ試驗ニ及第シ服役中食料被服裝具等ノ費用ヲ自辨スル者ハ志願ニ由リ一箇年間陸軍現役ニ服スルコトヲ得但費用ノ全額自辨シ能ハサルノ證アル者ニハ其幾部ヲ官給スルコトアル可シ(二十二年十一月十二日法律第二十九號ヲ以テ)(官立學校)ノ下割注ニ(帝國大學科及小學科ヲ除ク)トアルヲ本表ノ如ク改ム

前項ノ一年志願兵ハ特別ノ教育ヲ授ケ現役滿期ノ後二箇年間豫備役ニ五箇年間後備役ニ服セシム

滿十七歳以上二十六歳以下ニシテ官立府縣立師範學校ノ卒業證書ヲ所持シ官立公立小學校ノ教職ニ在ル者ハ六週間陸軍現役ニ服セシム其服役ニ關スル費用ハ官給

トス同上法律ヲ以テ本項ヲ改正ス

前項ノ現役ヲ終ルタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム同上

第三項又ハ第四項ニ依リ服役中ノ者ニシテ滿二十六歳迄ニ其教職ヲ罷ムル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ更ニ常例ノ兵役ニ服セシム但第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者ハ此限ニ在ラス同上法律ヲ以テ追加ス

第十二條 禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ賭博犯ニ由リ懲罰ニ處セラレタル者ハ一年志願兵タルコトヲ許サス

第十三條 現役中殊ニ勤務ニ熱シ品行方正ナル者ハ歸休ヲ命スルコトアルヘシ

第十四條 豫備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス平常ニ在テハ毎年一度六十日以内勤務演習ノ爲メ之ヲ召集シ又毎年一度簡閱點呼ヲ爲ス

第十五條 後備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ豫備兵ニ次テ之ヲ召集ス平常ニ在テハ勤務演習及簡閱點呼ヲ爲スコト豫備兵ニ同シ

第十六條 國民兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ後備兵ヲ召集シ仍ホ兵員ヲ要スルトキニ限リ之ヲ召集ス

第三章 免役延期及猶豫

第十七條 兵役ヲ免スルハ痲疾又ハ不具等ニシテ徵兵検査規則ニ照シ兵役ニ堪ヘサル者ニ限ル

第十八條 左ニ掲ケル者ハ徵集ヲ延期ス次年ニ於テ猶ホ徵集ニ適セサル者ハ國民兵役ニ服セシム

第一 體格完全且強壯ナルモ身軀未タ定尺ニ者タサル者

第二 疾病中又ハ病後ニシテ勞役ニ堪ヘサル者

第十九條 公權ノ剝奪若クハ停止ヲ附加スヘキ重輕罪ノ爲メ訊問若クハ拘留中ノ者ハ徵集ヲ延期ス

第二十條 徵集ニ應スルトキハ其家族自活シ能ハサル確證アル者ハ本人ノ願ニ由リ徵集ヲ延期ス其事故三箇年ヲ過クルモ猶ホ止マサル者ハ國民兵役ニ服セシム但分家又ハ絶家廢家再興ノ故ヲ以テ本條ニ當ル者其他自活シ能ハサル事故ヲ作爲シタル者ハ其願ヲ許可ス

第二十一條 第十一條第一項ニ掲ケル學校ニ在校ノ者ハ本人ノ願ニ由リ滿二十六歲迄徵集ヲ猶豫ス其事故滿二十六歲迄ニ止ミ又ハ二十六歲ヲ過クルモ尙ホ止マサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集ス但第十一條第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者及第十一條第三項ニ依リ服役スル者ハ此限ニアラズ同上法律ヲ以テ本項ヲ改正ス

學術修業ノ爲メ外國ニ寄留スル者ハ本人ノ願ニ由リ滿二十六歲迄徵集ヲ猶豫ス二十六歲迄ニ歸朝シ又ハ二十六歲ヲ過キ歸朝スル者ハ抽籤ノ法ニ依ラス以テ之ヲ徵

集ス但陸軍試驗委員ノ試験ニ及第シタル者ハ一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得

第二十二條 余人ヲ以テ代フ可カラサル職務ヲ奉スル官吏及市町村長助役及收入役ハ豫備兵ニ在ト後備兵ニ在ルトテ問ハス勤務演習簡閱點呼ノ爲メ召集スルコトナシ法律ヲ以テ設立シタル議會ノ職員其開會中亦同シ

第四章 豫備徵員

第二十三條 抽籤番號ノ順序ニ從ヒ前年所要ノ現役兵員ニ超過スル壯丁ハ一箇年間(十二月一日ヨリ起算ス)豫備徵員トシテ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキ又ハ其年徵集ノ兵員缺クルトキハ之ヲ徵集ス

第五章 雜則

第二十五條 毎年一月ヨリ十二月迄ニ滿二十歲ト爲ル者ハ其年ノ一月一日ヨリ同月三十一日迄ニ書面ヲ以テ(戶主ニ非サル者ハ其戶主ヨリ)本籍ノ市町村長ニ届出可シ(但二十歲未滿ニシテ現役ヲ終ヘタル者又ハ現役中ノ者ハ本條ノ届出ヲ爲スニ及ハス)

第二十六條 徵集ハ本籍所在ノ徵募區ニ於テスルヲ例トス他ノ徵募區ニ寄留スル者ハ願ニ由リ其區ニ於テ徵集ニ應スルコトヲ得

第二十七條 疾病又ハ犯罪等ノ爲メ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ翌年之ヲ徵集ス

金二十八條 兵役ヲ免レンカ爲メ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒ又ハ逃亡若クハ潛匿シタル者又ハ正當ノ事故ナクシテ身體ノ検査ヲ受ケサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集ス

第三十九條 現役年期ノ計算ハ總テ其入營スル年ノ十二月一日ヨリ起算シ豫備役及後備役年期ノ計算ハ其轉役スルノ十二月一日ヨリ(第十一條第三項ニ依リ服役スル者ノ現役年期ノ計算ハ別ニ勅令ヲ以テ規定スル月日ヨリ起算ス)第六條ニ依リ延期シタル者モ其起算法亦同シ但禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ附セラレ又ハ逃亡若クハ失踪シタル者其刑期中及逃亡失踪中ノ日數ハ服役年期ニ算入セス(同上法律ヲ以テ割注ヲ追加ス)

第六條 罰則

第三十條 第二十五條ノ届出ヲ爲ササル者及正當ノ事故ナク身體ノ検査ヲ受ケサル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 兵役ヲ免レンカ爲メ逃亡シ又ハ潛匿シ若クハ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒタル者ハ一月以上一年以下重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四十二條 本令ハ明治二十二年一月ヨリ施行ス但第二十五條ノ届出期限ハ明治二十二年三月一日ヨリ同月十五日迄トス

第三十三條 本令ハ北海道ニ於テ函館江刺及福山ヲ除クノ外及沖繩縣並東京府管下小笠原島ハ當分之ヲ施行セス

第三十四條 本令中市町村長トアルハ市制町村制ヲ實施スル迄ノ間戸長ノコトトス

第三十五條 舊令第十一條ニ依リ一箇年間陸軍現役ニ服シタル者ハ本令第十一條ニ照シ二箇年間豫備役ニ五年間後備役ニ服セシメ其豫備役二箇年ヲ終リタル者ハ直ニ後備役ニ服セシメ通シテ七箇年トス

第三十六條 舊徵兵令第十七條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ尙ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十七條 舊令第十八條第二項ニ依リ既ニ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ尙ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十八條 舊令第十八條第七項及第二十一條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ尙ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十九條 舊令第十八條第三項ノ生徒ニシテ第一豫備徵員ト爲リ尙ホ在校ノ者ハ該徵員タルコトヲ止メ滿二十七歳迄徵集ヲ猶豫シ其事故二十七歳ヲ過クルモ尙ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第四十條 第三十六條第三十八條及第三十九條ニ掲グル者其事故各其本條ノ期限内ニ止ミタルトキハ抽籤ノ法ニ依リ徵集ス但一年志願兵ハ志願スルコトヲ得

第四十一條 舊令第十八條第三項若クハ第十九條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シ在校ノ者ハ其事故六箇年以内ニ止ミタルトキ又ハ六箇年ヲ過クルモ尙ホ止マサルトキハ抽籤ノ法ニ依リ徵集ス但ニ年志願兵ヲ志願スルコトヲ得

第四十二條 舊令第三十條ニ依リ補充員ト爲リタル者ハ之ヲ豫備徵員ト爲シ一箇年間(明治二十一年十二月一日ヨリ起算ス)ニ徵集セサル者ハ國民兵役ニ服セシム

第四十三條 舊令第三十一條ニ依リ第一豫備徵員ト爲リ在校セサル者及舊令第三十二條ニ依リ第二豫備徵員ト爲リタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム補充員ヨリ第一豫備徵員トナリタル者亦同シ

第四十四條 明治二十二年第四十六號布告徵兵令ニ依リ國民軍ノ外免役又ハ平時免役若クハ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム

第四十五條 舊令第八條ニ依リ海軍兵ト爲リタル者ノ服役期限ハ同令第三條及第四條ニ依ル

第四十六條 第三十六條第三十七條第三十八條ニ掲ケル徵集延期ノ者及第三十九條第四十一條ニ掲ケル徵集猶豫ノ者其事故各本條ノ期限内ニ止ミタルトキハ三日以内ハ本籍ノ市町村長ニ届出可シ

第四十七條 第三項又ハ第四條ニ依リ服役中ノ者ニシテ滿二十六歲迄ニ其效職ヲ罷ムル者ハ三日以内ニ本籍ノ市町村長ニ届出可シ(同上法律ヲ以テ本項ヲ追加ス)

第二項第三項ノ届出ヲ爲ササル者及本令施行前舊令第三十五條第三十六條ノ届出ヲ爲サスシテ本令施行後ニ發覺スル者ハ本令第三十條ニヨリ處分スヘシ
同上法律ヲ以テ(前項)トアルヲ(第一項第二項)ト改ム

◎國民軍條例 明治二十八年 (勅令第十三號) 二月

第一條 國民軍ハ陸軍ニ屬シ主トシテ衛戍若クハ邊境ノ警備ニ充ツ

第二條 國民軍ハ國民兵ヲ以テ之ヲ編制ス

第三條 國民兵ノ召集及ヒ解散勅令ニヨリ師團長之ヲ行フ

戒嚴ヲ宣告シ得ルノ權アル司令官時機切迫シテ通信斷絶シ命ヲ請フノ途ナキトキハ直ニ召集ヲ行フコトヲ得

第四條 國民軍幹部ハ必要ニ應シ現役豫備後備ノ陸軍將校、同相當官、准士官下士ヲ以テ充ツルノ外左ニ渡タル者ヨリ撰拔シテ之ニ充ツ

一 退役陸軍將校、同相當官、准士官ニシテ國民兵役ニ在ル者若クハ國民軍編入志願ノ者

二 元陸軍下士、上等兵ニシテ國民兵役ニ在ル者若クハ國民軍編入志願ノ者

三 國民兵中材ニ技能アル者

第五條 陸軍後備兵ニシテ後備軍召集ニ加ハラサル者ハ特ニ國民軍ニ編入スルコトヲ得

第六條 第四條第二第三ニ該ル者ノ任官ハ陸軍武官等表ニ依リ士官以上ハ師團長ノ具狀ニ由リ陸軍大臣之ヲ奏薦宣行シ其ノ他ハ師團長ノ認可ヲ得テ聯隊長同等以上ノ權アル長官之ヲ行フ

第三條第二項ニ依リ召集ヲ行ヒタル司令官ハ召集員ニ士官以上ノ勤務ヲ命スルコトヲ得

其勤務ヲ命セラレタル者ノ身分取扱ハ其ノ官職ヲ有スル者ニ準ス
前項ノ司令官師團長ニアラサルトキハ准士官以下ノ任官ニ付師團長ト同一ノ權ヲ有ス

第七條 國民軍幹部ノ進級ハ拔擢トス其ノ任官ハ前條ノ例ニ依ル

第八條 國民軍編制ノ爲メ召集セラレタル者及志願ニ由リ國民軍ニ編入セラレタル者ハ其ノ間現役ニ準ス

第九條 第四條第三ニ該リ任官シタル者解散ノトキハ准士官以上ハ之ヲ退役トシ下士ハ其ノ官ヲ免ス

◎陸軍省令第三號

○國民軍召集規則左之通定ム

明治二十八年二月一日

陸軍大臣 伯爵西鄉從道

國民兵召集規則

第一章 總則

第一條 國民兵召集別テ左ノ四種トス

第一種 陸軍ニ於テ軍事教育ヲ受ケタル者

第二種 滿二十一歳以上二十六歳未滿ニシテ陸軍豫備徵員タリシ者

第三種 滿二十六歳以上三十歳未滿ニシテ豫備徵員タリシ者

第四種 前三種ニ屬セサル者

第二條 各種ノ國民兵召集ハ各種同時若クハ各別ニ之ヲ行ヒ又ハ一部ノ地方ヲ限リ之ヲ行フコトヲ得

第三條 各種ノ國民兵ハ年齢若キ者ヨリ之ヲ召集スルヲ例トス

年齢十七歳以上二十歳迄ノ國民兵ハ特別ノ命令アルニアラサレハ之ヲ召集セス

第四條 本規則ニ於テ郡ト稱スルハ市、(東京、京都、大阪ノ三市ニ在ラハ區)及島廳

ヲ置キタル島嶼ヲ包含ス

第五條 本規則ニ於テ師團長ト稱スルハ近衛師團長ヲ包含セス又警備隊區ニ在テハ

同司令官ハ大隊區司令官、島司郡長、市長（東京京都大阪ノ三市ニ在テハ區長）ノ郡長及町村長戸長ハ町村長ノ職務ヲ行フ

第六條 戒嚴ヲ宣告シ得ル權アル司令官國民兵ノ召集ヲ行フ場合ニ在テ師團長ニアラザル司令官ハ其召集ニ關シ師團長ト同一ノ職權ヲ有ス

第二章 召集

第七條 師團長國民兵召集令ヲ下ストキハ之ト同時ニ召集ノ種類所要ノ人員及召集地ヲ定テ旅團長ヲ經テ大隊司令官ニ達シ地方長官ニ通知スヘシ

師團長所製ノ人員ヲ定ムルニハ召集區域中召集ノ種類毎ニ其總員（不應召員ノ見込數ヲ省キタルモノ）率上ノ比例ヲ以テ之ヲ各大隊區ニ配賦ス但配賦人員ニハ檢査不合格疑込人員凡十分ノ一ヲ加算スルモノトス

第八條 大隊區司令官前條ノ達ヲ受ケレハ各郡ニ配賦スヘキ人員召集地及應召員ノ一旦集合スヘキ地點並ニ其集合期日ヲ定メ之ヲ郡長ニ通告ス

大隊區司令官召集人員ヲ定ムルニハ大隊區中召集ノ種類毎ニ其總員ヲ率トシ比例ヲ以テ各郡ニ之ヲ配賦ス

大隊區司令官ハ各郡ノ應召員並ニ其召集地到着ノ期日ヲ豫定シ之ヲ旅團長ヲ經テ師團長ニ報告スヘシ

第九條 郡長ハ地方長官ヨリ國民兵召集ヲ受領シ大隊區司令官ヨリ前條第一項ノ通

達ヲ受ケタルトキハ召集令召集スヘキ人員召集集合地及集合期日ヲ町村長ニ通告シ集合地ニハ吏員ヲ派遣スヘシ

郡長召集人員ヲ定ムルニハ郡中召集ノ種類毎ニ其總員ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ各町村ニ配賦ス

第十條 町村長前條ノ達ヲ受ケタルトキハ其配賦人員ニ應シ第一様式ノ召集令傳達書ヲ作り之ヲ國民兵中召集スル種類ニ相當スル者ノ内年齢若キ者ヨリ逐次ニ之ヲ交付シ配賦人員ニ充タシメ然ル後集合地ニ至リ派遣ノ郡吏員ニ第二様式ノ應召員

連名簿ニ通テ附シテ應召員ニ交付スヘシ此名簿ニハ其町村長ニ在籍スル國民兵中召集令傳達書ヲ交付シタル總テノ人員ヲ掲ケ不應召員ハ其事由ヲ記シ第十二條ノ書類ヲ添フヘシ

第十一條 召集傳達書ヲ受ケタル國民兵ハ町村長ノ指示ニ從ヒ該傳達書ヲ携帯シ發送スヘシ

第十二條 正當ノ事故ニ因リ召集ニ應シ難キモノハ本人或ハ戸主若クハ其家族ヨリ二十四時間以内ニ町村長ニ届出ツヘシ但其事故傷痕疾病ニ係ルトキハ醫師ノ診斷書ヲ其他ハ憲兵ハ警察官ノ承認書ヲ添フヘシ
前項ニ違背シタル者ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處シ又ハ五日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第十三條 郡吏員集合地ニ至レハ町村長ヨリ受領セシ連名簿ヲ大隊區司令官或ハ大隊區司令部出張員ニ差出スヘシ

第十四條 應召員集合地ニ到着スレハ大隊區司令官或ハ大隊區司令部出張員身體検査ヲ爲サシメ合格不合格ヲ召集令傳達書並ニ連名簿ニ記入シ連名簿一通ハ之ヲ郡吏員ニ傳達書ハ之ヲ本人ニ返附シ其合格者ハ郡吏員ヲシテ召集地ニ引率セシメ不合格者ハ直チニ歸郷セシムハシ但身體検査ハ最寄衛戍地ノ在職軍醫若クハ地方醫師ヲシテ之ヲ行ハシム

第十五條 郡吏員應召員ヲ引率シ召集地ニ到着シタルトキハ連名簿ト共ニ之ヲ國民兵受領員ニ交付スヘシ

第十六條 召集地ニ於ケル國民兵受領員ハ師團長適宜ニ之ヲ編成スヘシ

第十七條 召集令傳達書ハ應召員ヨリ編入セラレタル部隊ニ差出スモノトス

第十八條 陸軍召集條例第二章本則ニ矛盾セサルモノハ之ヲ准用ス

第三章 旅費支給

第十九條 國民兵召集旅費ハ當該監督部長陸軍大臣ノ命令及師團長ノ請求ニヨリ居住地ヨリ集合地迄ノ概算額ハ之ヲ陸軍臨時召集旅費支出規程ニ定ムル所ノ出納官吏ニ送附シ出納官吏ハ適宜之ヲ應召員ニ交付スヘシ
其集合地ヨリ召集地迄ノ旅費及検査不合格者ノ歸郷旅費概算額ハ之ヲ大隊區司令官

官ニ送付シ該司令官又ハ司令部出張員ヨリ本人ニ交付スヘシ

第二十條 國民兵召集旅費ハ陸軍給與令第三十七條ノ額ニヨル

第二十一條 志願ニヨリ國民軍ノ幹部ニ充テラレタル者ハ前條ノ例ニヨリ編成地ニ於テ旅費ヲ給ス

第四章 雜則

第二十二條 第六條ノ場合ニ在テ前諸條ノ規則ニヨリ難キトキハ司令官必要ニ應ジ適宜處置スルコトヲ得

第二十三條 後備軍召集ニ應セサル在郷軍人ニシテ國民兵ト共ニ召集セラル、時ハ其召集手續ハ本規則ニヨリ施行スルコトヲ得 (様式略ス)

●狩獵規則

明治二十五年
十月五日

(勅令第八十四號)

第一章 獵具獵法

第一條 此規則ニ於テ狩獵ト稱スルハ銃器、各種ノ網、放鷹、綱繩又ハ撿ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲スルヲ謂フ前項各獵具ノ種類及制限ハ農商務大臣ノ定ムル所ニヨル

第二條 爆發物、提銃若クハ危險ナル器及陷穽ヲ以テ狩獵ヲ爲スコトヲ得ス
前項ノ外ノ獵具獵法ニシテ第一條ニ掲ケサルモノニ就テハ地方長官(東京府下ハ

警視總監以下之ハ農商務大臣ノ許可ヲ經テ便宜取締規則ヲ設クルコトヲ得

第三條 日出前日没後又ハ市街、人家稠密ノ場所、衆人群集ノ場所ニ於テ若クハ銃丸ノ達スヘキ虞アル建物、船舶、涼車ニ向テ銃獵ヲ爲スコトヲ得ス

第四條 左ニ掲クル場所ニ於テハ狩獵ヲ爲スコトヲ得ス

- 一 御獵場
- 二 禁獵制札アル場所
- 三 公道

- 四 公園
- 五 社寺境内
- 六 墓地

七 柵、柵、園障ヲ設ケ又ハ作物植付アル他人ノ所有地但所有者又ハ管理人ノ承諾ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス

第五條 地方長官ハ土地所有者ノ出願又ハ其他ノ理由ニ因リ必要ト認ムル場合ニ於テハ禁獵制札ヲ建ツルコトヲ得

第二章 狩獵免許
第六條 狩獵ヲ爲サント欲スル者ハ地方長官ニ願出テ免狀ヲ受クヘシ但柵、柵、園障アル宅地内ニ於テ銃器ヲ使用セスシテ狩獵ヲ爲ス者ハ此限ニ在ラス

第三十條ノ處罰ヲ受ケタル者ハ滿一箇年ヲ經過セサレハ再ヒ免狀ヲ受クルコトヲ得ス

第七條 免狀ヲ分チテ職獵免狀、遊獵免狀トシ更ニ分チテ各甲乙ノ二種トス

職獵免狀ハ主計ヲ爲メニ狩獵ヲ爲ス者ニ下付シ遊獵免狀ハ遊樂ノ爲メニ狩獵ヲ爲ス

者ニ下付スルモノトス

第八條 左ニ掲クル者ハ職獵免狀ヲ許受クルコトヲ得ス

- 一 判任以上ノ官吏及其待遇ヲ受クル者
- 二 所得稅ヲ納ムル者
- 三 地租拾五圓以上ヲ納ムル者
- 四 所得稅拾五圓以上ヲ納ムル者ノ家族

第九條 免狀ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ免許料ヲ納ムヘシ

狩獵免狀	甲種	金五拾錢
	乙種	金壹圓
遊獵免狀	甲種	金五圓
	乙種	金十圓

第十條 甲種免狀ノ有効期限ハ十月十五日ヨリ滿一箇年トシ乙種免狀ノ有効期限ハ十月十五日ヨリ翌年四月十五日マテトス

第十一條 免狀ノ使用ハ免許本人ニ限ルモノトス但甲種職獵免許ヲ有スル者ハ助手トシテ無免狀ノ者三人以下ヲ同伴スルコトヲ得

第十二條 獵者ハ出獵ノ際必ス免狀ヲ携帶スヘシ警察、署憲兵森林官及市町村長ハ獵者ノ免狀ヲ檢査スルコトヲ得獵區監理人其管理スル區内ニ於テモ亦同シ前項ノ場合ニ於テ獵者ハ免狀ノ檢査ヲ拒ムコトヲ得ス

◎登録税法

(明治二十九年三月二十七日)

法律第二十七號

- 第一條 登録税ハ本法ノ定ムル所ニヨリ賦課徴收ス
- 第二條 地所、建物ノ登記ヲ請フトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ
 - 一 買受人 賣買代價千分ノ二十二
 - 二 家督相續人 戸主ノ死亡、失踪、離縁、跡相續人共 時價相當價格千分ノ五
 - 但シ相續ノ日ヨリ六十日ヲ經過シタル時ハ時價相當價格千分ノ十トス
 - 三 遺産相續人 時價相當價格千分ノ十
 - 四 贈與又ハ遺贈ヲ受クル者 時價相當價格千分ノ二十
 - 五 買入人又ハ書入人 契約金額千分ノ五
 - 六 強制競賣ノ申立人 價格千分ノ五
 - 七 強制管理ノ申立人又ハ假差押假處分ノ申請人價格千分ノ三
 - 八 登記事件ノ取消又ハ變更ヲ請フ者 每一件金拾錢
 - 九 從來保有セル所有權ヲ明確ニスル爲登記ヲ請フ者 時價相當價格千分ノ二
- 第三條 船舶ノ登記ヲ請フトキ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ
 - 六號及七號ノ場合ニ於テ價格定マラサルモノハ時價相當價格ニヨル

- 一 買受人 賣買代價千分ノ十
 - 二 家督相續人 戸主ノ死亡、失踪、離縁、跡相續人共 時價相當價格千分ノ二
 - 但シ相續ノ日ヨリ六十日ヲ經過シタルトキハ時價相當價格千分ノ五トス
 - 三 遺産相續人 時價相當價格千分ノ五
 - 四 贈與又ハ遺贈ヲ受クル者 時價相當價格千分ノ十
 - 五 買入人又ハ書入人 契約金額千分ノ五
 - 六 強制競賣ノ申立人 價格千分ノ五
 - 六 假差押、假處分ノ申請人 價格千分ノ三
 - 八 登記事件ノ取消又ハ變更ヲ請フ者 每一件金十錢
 - 九 從來保有セル所有權ヲ明確ニスル爲登記ヲ請フ者 時價相當價格千分ノ二
 - 六號及七號ノ場合ニ於テ價格定マラサルモノハ時價相當價格ニヨル
- 第四條 船舶ノ登録ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ
- | | | |
|--------|----------|---------|
| 一 新規登録 | 十五噸未滿ノ船舶 | 金五十錢 |
| | 十五噸以上ノ船舶 | 每十噸金五十錢 |
| 二 轉籍 | 十五噸未滿ノ船舶 | 金十錢 |
| | 十五噸以上ノ船舶 | 每十噸金十錢 |
| 三 除籍 | 十五噸未滿ノ船舶 | 金五錢 |
| | 十五噸以上ノ船舶 | 每十噸金五錢 |

四 登簿事項ノ變更

每一件金十錢

一號、二號及三號ノ場合ニ於テ十五噸以上ノ船舶ヲ登録スルトキ十噸未滿ノ端數ハ十噸トシテ計算ス

第五條 土地臺帳ニ左ノ事項ヲ登録スルトキハ土地所有者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

一 新規登録

地價千分ノ二十

二 地價ノ設定 復舊

地價千分ノ十

三 地價ノ修正

地價千分ノ十

四 開墾

地價千分ノ十

五 鐵下年期付與

地價千分ノ十

六 地價据置年期付與

地價千分ノ十

七 鐵下年期ノ繼年期付與

地價千分ノ十

八 新開免租年期ノ繼年期付與

地價千分ノ十

九 低價年期ノ付與

地價千分ノ十

十 段別ノ増減

地價千分ノ五

十一 分裂又ハ合併

地價千分ノ五

本條中地價未設定ノ土地ハ近傍類地地價ノ比準ニ依ル

第六條 左ノ事項ニ付キ登記ヲ受クル商事會社ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

一 合名會社、合資會社設立

資本金額千分ノ二

二 合名會社、合資會社資本増加

増加資本金額千分ノ二

三 合名會社、合資會社支店設置

會社資本金額萬分ノ二

四 株式會社設立

設立初度拂込資本金額千分ノ三

五 株式會社設立後ノ資本金拂込

每拂込金額千分ノ三

六 株式會社支店設置

現在拂込資本金額萬分ノ三

七 登記事項ノ變更 資本ノ増加及拂込登記ヲ除ク

每一件金三圓

八 解散

每一件金一圓

第七條 左ノ事項ニ付キ辨護士名簿ニ登録ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

一 新規登録

金二十圓

二 登録換

金十圓

三 取消ノ請求

金一圓

第八條 左ノ事項ヲ官簿ニ登録スルトキハ醫師、藥劑師、獸醫、蹄鐵工ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

一 新規登録

- 醫師 金二十圓
- 藥劑師 金十二圓
- 獸醫 金十二圓
- 蹄鐵工 金五圓
- 假開業醫師 金五圓
- 假免許獸醫 金三圓

二 登錄事項ノ變更

每一件金五十錢

第九條 左ノ事項ヲ官簿ニ登錄スルトキハ海員ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一 新規登錄

- 甲種船長 金十五圓
- 甲種一等運轉手 金十圓
- 甲種二等運轉手 金六圓
- 甲種一等機關手 金十五圓
- 甲種二等機關手 金十圓
- 乙種船長 金十圓
- 乙種一等運轉手 金六圓
- 乙種二等運轉手 金四圓

乙種一等機關手 金十圓

乙種二等機關手 金六圓

小形船機關手 金四圓

水先人 金二十圓

二 登錄事項ノ變更

每一件金五十錢

第十條 版權ノ登錄ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一 普通ノ文書、圖畫

一種毎ニ金五圓

二 冊號ヲ追ヒ順次出版スル文書、圖畫

一冊毎ニ金二圓五十錢

三 雜誌ノ類

一冊毎ニ金五十錢

四 興行權ヲ併有スル脚本

一種毎ニ金五十圓

五 興行權ヲ併有スル樂譜

一種毎ニ金二十圓

六 寫眞

一版毎ニ金五圓

第十一條 特許ニ關シ登錄ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一 新規登錄

五年ノ特許 金二十圓

十年ノ特許 金三十圓

十五年ノ特許 金四十圓

- 二 賣與、讓與又ハ共有 每一件金十圓
- 二 書入契約 每一件金五圓
- 第十二條 意匠ニ關シ登録ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
 - 一 新規登録
 - 三年ノ專用 物品一類毎ニ金三圓
 - 五年ノ專用 物品一類毎ニ金五圓
 - 七年ノ專用 物品一類毎ニ金七圓
 - 十年ノ專用 物品一類毎ニ金拾圓
 - 二 賣與、讓與又ハ共有 物品一類毎ニ金貳圓
 - 三 書入契約 物品一類毎ニ金一圓
- 第十三條 商標ニ關シ登録ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
 - 一 新規並續用登録 商品一類毎ニ金二十圓
 - 二 賣與、讓與又ハ共有 商品一類毎ニ金十圓
- 第十四條 鑛業ニ關シ左ノ事項ヲ官簿ニ登録スルトキハ記名者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
 - 一 試掘 金五十圓
 - 二 探掘 金百圓

- 三 試掘増區及増減區ニ係ル訂正 金二十五圓
- 四 探掘増區及減區ニ係ル訂正 金五十圓
- 五 買受、讓受 金五十圓
- 六 探掘權書入又ハ試掘延期 金十五圓
- 七 減區ニ係ル訂正 金五圓
- 八 鑛區ノ合併又ハ分割 金十圓
- 九 廢業 金五圓
- 第十五條 左ノ事項ニ付戶籍ニ登記スルトキハ届出人ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
 - 一 左ニ列記スルモノ
 - 身分變換 復姓 金一圓
 - 改名 家督相續
 - 相續人入籍 廢戶主
 - 廢嫡 分家
 - 廢嫡者復立 絕家再興
 - 離婚送籍 相續人送籍
 - 私生子引受

- 二 左ニ列記スルモノ
 - 養子女入籍 金七拾錢
 - 相續人離縁送籍 結婚入籍
 - 轉籍 養子女離縁送籍
 - 戸内離婚 私生子引渡
 - 左ニ列記スルモノ 庶子私生子ヲ嫡出トナスモノ 金五十錢
 - 戸籍訂正 戸内結婚
 - 縁女入籍 結婚送籍
 - 縁女送籍 養子女送籍 金三十錢
 - 左ニ列記スルモノ 分家者復歸入籍 養子女離縁復籍
 - 相續人離縁復籍 離婚復籍
 - 縁女離縁復籍 離縁復籍
 - 左ニ列記スルモノ 出生 失踪者復歸 金二十錢
 - 失踪者所在分明 失踪者復歸 金十錢
 - 左ニ列記スルモノ

- 携帶者入籍 親族入籍
- 附籍者入籍 携帶者送籍
- 親族送籍 附籍者送籍
- 第十六條 國債證券ノ記名登録ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
 - 一 新規記名 額面金額千分ノ二
 - 二 左ニ列記スルモノ 額面金額千分ノ一
 - 記名變更 枚數變更
 - 記名除却
- 第十七條 登録稅ハ印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ但シ勅令ノ定ムル所ニ依リ現金ヲ以テ之ヲ徵收スルコトヲ得
- 第十八條 登録稅ハ總テ金一錢以上トス一錢未満ノ端數ハ一錢トシテ之ヲ計算ス
- 第十九條 無資力ニシテ左ニ掲グル者及窮民ニシテ公ノ救助ヲ受クル者ハ戸籍ノ登録稅ヲ免除ス
 - 一 一定ノ職業ナク臨時日雇等ニ依リ生活スル者
 - 二 十三年未滿六十年以上ニシテ一定ノ職業ナキ者
 - 三 婦女子ニシテ一定ノ職業ナキカ又ハ他人ニ雇使セラル、者

第二十條 本法ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

第二十一條 現行法律命令ニ規定スル登記料又ハ手数料等ニシテ本法ニ規定スル登録税ト重複スルモノハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

◎登録税法施行細則 明治二十九年 (大藏省令第六號)

第一條 印紙ヲ以テ納ムル登録税ハ登録ニ關スル書類ニ登記印紙ヲ貼用スヘシ

第二條 登録税法第十九條ニ該當スル者ハ登録ニ關スル書類ニ其該當スル事項ヲ付記シ公署ニ差出スヘシ

第三條 貼用シタル印紙ニハ書類ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ其名下ノ印ヲ以テ消印スヘシ

◎登録税法施行手續 明治二十九年 (大藏省訓令第五號)

第一條 公署ニ於テ登録税法第十九條ニ依リ登録税ヲ免除スヘキ者ノ書類ヲ受理シタルトキ税法第十九條第一項後段ニ該當スル者ニ對シテハ之ヲ救助人名簿ニ照シ

其相違ナキヲ認メ其前段ニ該當スル者ニ對シテハ其實際ヲ精査シ付記ノ事項相違ナキヲ認メ受理スヘシ

第二條 收稅署、市役所、區役所、町村役場、戶長役場若クハ日本銀行等ニ於テ登録税法ニ依リ印紙ヲ貼用セル書類ヲ受理 上司へ差出ス爲メ經シタルトキハ別ニ編綴セ

シメ置キ其貼用印紙ノ額面金額登録税法第二條乃至第十六條ノ各條毎ニ區別シ毎年度分集計ヲ爲シ四月末日迄ニ當省ニ報告スヘシ

第三條 官衙公署若クハ日本銀行ニ於テ印紙貼用シアル書類ヲ受理シタルトキハ其貼用印紙ニ黒肉ヲ以テ消印スヘシ又免稅ニ屬スル書類ヲ受理シタルトキハ其書類ニ朱肉ヲ以テ免稅印ヲ押捺スヘシ

◎酒造税法 明治二十九年 (法律第二十八號) 三月二十七日

第一條 此税法ニ於テ酒類ト稱スルハ清酒、濁酒、白酒、味淋、燒酎、酒精ノ六種トス

第二條 酒類ヲ製造セムトスル者ハ製造場一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第三條 其ノ年十月一日ヨリ翌年九月三十日マテヲ以テ一酒造年度トス

第四條 酒類ヲ製造スル者ニハ其ノ造石數ニ應ジ左ノ割合ニ從ヒ造石稅ヲ課ス

第一種 清酒、白酒、味淋 一石 金七圓

第二種 濁酒 一石 金六圓

第三種 燒酎、酒精 一石 金八圓

但シ當分ノ内北海道ニ於テ渡島國一圓後志國ノ内八郡 磯谷郡、歌棄郡、壽都郡、奥尻郡、檜振國ノ内一郡山越郡ヲ除ク外一石ニ付金壹圓ヲ減ス 太極郡、檜棚郡、久遠郡、島收郡

第五條 新ニ清酒製造ノ免許ヲ受クル者ハ造石高百石以上ニ非サレハ許可セス

第六條 造石税ノ納期ヲ分テ左ノ四期トス

第一期 七月一日ヨリ全十五日限

前年十月一日ヨリ其ノ年四月三十日マテ査定石數ニ係ル税額四分ノ一

第二期 九月一日ヨリ同十五日限

同上

第三期 翌年一月一日ヨリ同十五日限

同上及其ノ年五月一日ヨリ九月三十日マテ査定石數ニ係ル税額二分ノ一

第四期 翌年三月一日ヨリ同十五日限

前納額ノ殘數

第七條 政府ハ酒類ヲ製造スル者脱税又ハ脱税ヲ謀ルノ所爲アリト認ムルトキハ前條ノ納期ニ拘ラス造石税ノ全部又ハ一部ヲ徵收スルコトヲ得

第八條 酒類ノ造石數ハ製成ノ時之ヲ査定ス

酒類ノ造石數ヲ査定スルハ密器ノ容量ニ依ル但シ清酒ニ限り命令ノ定ムル所ニ依リ査定石數百分二以内ノ滓引減量ヲ控除スルコトヲ得

犯則其ノ他人ノ事故ニ依リ前各項ニ依リ難キ場合ニ於テハ現在ノ酒類又ハ證憑物件ニ就キ之ヲ査定ス

第九條 粕漉シタル酒類ハ粕漉ニ依リ増加シタル分ノミニ就キ其ノ造石數ヲ査定ス
第十條 酒類ヲ製造スル者ノ製造ニ係ル醗ハ左ノ場合ニ於テハ濁酒ヲ製成シタルモノトシテ其ノ造石數ヲ査定ス

一 他人ニ讓渡ストキ

二 公賣セラルルトキ

三 飲料ニ供シ又ハ酒類製造用ノ外ニ供スルトキ

第十一條 酒類ヲ製造スル者既ニ査定ヲ受ケタル酒類ノ造石數ニ對シテハ特ニ法律ヲ以テ定ムル場合ノ外其ノ造石税ヲ免ルルコトヲ得ス

第十二條 左ノ酒類ニ係ル未納ノ造石税ハ之ヲ免除スルコトヲ得但シ製造場外ニ移出シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

一 災害ニ罹リ酒類ノ廢棄ニ屬シタルモノ

二 酒類ノ腐敗シテ廢棄ニ屬シタルモノ

三 腐敗シタル酒類ニシテ蒸溜酒ノ製造ニ供スルモノ

四 容器損傷ニ依リ酒類ノ亡失シタルモノ

第十三條 酒類ヲ製造スル者ハ納税保證トシテ造石税半額ニ相當スル保證物ヲ供スヘシ保證物ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 左ノ場合ニ於テハ保證物ヲ免除ス

一 相當ノ納稅保證人ヲ供シタルトキ
 二 納稅保證トシテ造石稅額ニ相當スル酒類ヲ保存スルトキ
 三 造石稅ヲ前納シタルトキ
 第十五條 酒類ヲ製造スル者稅金ヲ納メサルトキハ政府ハ納稅保證ニ供シタル保證物及保存ノ義務ヲ有スル酒類ヲ公賣シテ造石稅金ヲ徵收スヘシ但シ仍滯納アルトキ滯納處分ノ執行ヲ妨ケス
 第十六條 納稅保證人ハ酒類ヲ製造スル者造石稅ヲ完納スル能ハサルトキハ納稅者トシテ其ノ義務ヲ負擔スルモノトス
 第十七條 酒類ヲ製造スル者納稅保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類ハ之ヲ他人ニ讓渡シ、質入シ、消費シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス
 第十八條 酒類ヲ製造スル者ハ造石數査定前ニ於テ其ノ酒類ヲ他人ニ讓渡シ質入シ消費シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス
 第十九條 收稅官吏ハ命令ノ規稅ニ依リ酒類ノ製造出入ニ關スル一切ノ帳簿書類及酒類製造上必要ナル建築物材料器械具ノ他ノ物件ヲ檢査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得
 第二十條 酒類ヲ製造セサル者酒母又ハ醪ヲ製造セムトスルトキハ政府ノ免計ヲ受ケ酒類ヲ製造スル者ト等シク其ノ檢査監督ヲ受ケヘシ

第二十一條 酒類ヲ製造セサル者其ノ製造ニ係ル醪ヲ飲料ニ供シ又ハ飲料トシ讓渡シタルトキハ濁酒ヲ製造スル者ト等ク其ノ製造ニ係ル總石數ノ造石稅ヲ課ス
 第二十二條 免許ヲ受ケスシテ酒類及酒類製造用ノ爲酒母若ハ醪ヲ製造シ又ハ他人ヨリ讓受ケタル酒母若ハ醪ヲ以テ酒類ヲ製造シタル者ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス
 免許ヲ受ケスシテ醪、濁酒、白酒、燒酎製造用ノ爲酒母一斗以下ヲ製造シ又ハ他人ヨリ讓受ケタル酒母ヲ以テ醪、濁酒、白酒、燒酎ノ一種又ハ數種ヲ通シテ三石以下ヲ製造シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス但シ本項前段ノ場合ニ於テ酒母ノ量數不明ナルモ其ノ製造シタル醪若ハ酒類ノ量數一種若ハ數種ヲ通シテ三石以下ナルトキハ仍本項ニ依ル
 第二十三條 酒類ヲ製造セサル者免許ヲ受ケスシテ酒母又ハ醪ヲ製造シタルトキハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二十四條 酒類ヲ製造スル者詐爲其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ造石數ノ査定ヲ免カレ又ハ免カレムトシタル片ハ其ノ石數ノ造石稅三倍ニ相當スル罰金若ハ科料ニ處ス
 第二十五條 酒類ヲ製造スル者故意ニ事故ヲ作爲シ又ハ詐術ヲ構ヘ造石稅ノ免除ヲ得又ハ得ムトシタルトキハ其ノ石數ノ造石稅三倍ニ相當スル罰金若ハ科料ニ處ス
 第二十六條 納稅保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類ヲ他人ニ讓渡シタル者滯納處

分受クルモ仍税金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ其ノ不足造石税ノ三倍ニ相當スル罰金若ハ科料ニ處ス

第二十七條 酒類製造用ト否トヲ問ハス其ノ製造シタル酒母又ハ膠ノ検査ヲ受ケザル者八十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 酒類ヲ製造スル者第十七條又ハ第十八條ノ禁令ヲ犯シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 酒類ヲ製造スル者酒類ノ製造出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ帳簿ノ記載ヲ怠リタル者ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十條 酒類ヲ製造スル者收税官吏ノ職務執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第三十一條 此ノ税法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用キス但シ刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十二條 酒類ヲ製造スル者ノ代理人家族同居者雇人其ノノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ此ノ税法ヲ犯シタルトキハ製造主ハ自己ノ指揮ニ出サルノ故ヲ以テ此ノ税法ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第三十三條 第二十九條乃至第三十二條ハ酒類ヲ製造セサル者ニシテ酒母又ハ膠ヲ製造スル者ニモ適用ス

第三十四條 酒類ヲ製造シタル者ハ其ノ製造ヲ廢止スルモ造石税完納前ニアリテハ總テ此ノ税法ノ規程ニ從フモノトス

第三十五條 府縣及市町村ハ此ノ税法ニ依リ造石税ヲ課スル酒類ニ對シ特令アルモノヲ除キ府縣稅若ハ地方稅及市町村稅町村費ヲ課スルコトヲ得ス

附 則

第三十六條 神社ニ於テ古例ニ依リ明治十三年以前ヨリ引續キ酒類ヲ製造スルトキハ一年ノ製造石數一石以下ノ場合ニ限リ總テ無稅トス

第三十七條 此ノ税法ハ明治二十九年十月一日ヨリ施行ス但シ明治十三年布告第四十號同年布告第四十一號同十六年布告第四十二號及同二十二年法律第二十四號ハ此ノ税法施行ノ日ヨリ廢止ス

明治二十九年九月三十日前検査濟石數ニ係ル造石税ニ關シテハ仍明治十三年布告第四十號ニ依ル

第三十八條 沖繩縣、東京府管下小笠原島伊豆七島ニハ當分此ノ税法ヲ施行セス

◎自家用酒税法 明治二十九年 三月二十七日 (法律第二十九號)

第一條 濁酒、白酒、燒酎ニ限り自家用トシテ製造セムトスル者此ノ税法ニ依リ製造免許ヲ出願スルトキハ政府ハ特ニ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第二條 自家用酒ノ製造免許ハ一家一人ニ限ル其ノ稅石數ハ各酒類ヲ合セテ一酒造年度間其ノ年十月ヨリ翌年九月マテ二石以下トス但シ直接國稅ヲ納メサル者及其ノ納額五圓未滿ノ者ハ其ノ造石數一石ヲ超ユルコトヲ得ス

第三條 自家用酒ノ製造ヲナス者ニハ毎年度左ノ製造稅ヲ課ス

- 一 前條但書ニ該當スル者 金二圓
- 二 直接國稅五圓以上十圓未滿ノ者 金三圓

- 一石迄 金八圓
- 二石迄

第四條 製造稅ハ之ヲ二分シ其ノ年十月及翌年四月ヲ以テ納期トス但シ納期後ニ免許ヲ受クルトキハ即納トス

第五條 左ニ掲クル者及其ノ家族同居者同居ノ雇人ハ自家用酒製造ノ免許ヲ請フコトヲ得ス

- 一 直接國稅十圓以上ヲ納ムル者
- 二 酒類製造營業人及酒類販賣人
- 三 醬油製造營業人及醬油販賣人
- 四 酒母又ハ醪製造人及酒母販賣人
- 五 酢製造營業人及酢販賣人
- 六 料理店、飲食店、旅人ヲ營業者

自家用酒製造ノ免許ヲ得タル者前各項ノ一ニ該當スルニ至ルトキハ其ノ免許ノ効力ヲ失フモノトス

第六條 自家用酒ハ製造ノ免許ヲ受ケタル者ノ各自ノ居宅域内ニ限り之ヲ製造スルコトヲ得

第七條 收稅官吏ハ自家用酒製造者ニ就キ檢査ヲ爲スコトヲ得

第八條 自家用酒製造者ノ製造シタル酒類ヲ販賣シ又ハ其ノ居宅域外ニ於テ自家用酒ヲ製造シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條 自家用酒製造者免許制限ヲ超過シテ酒類ヲ製造シタルトキハ三圓以上三十圓以上ノ罰金ニ處シ仍其ノ超過石數ニ對シ酒造稅法第四條ノ造石稅ヲ課ス

第十條 前項ノ造石稅ハ即時之ヲ徵收ス

第十條 自家用酒製造者元用トシテ清酒、味淋、酒精ヲ製造スルコトヲ得ス犯ス者ハ酒造稅法ニ依リ處分ス

第十一條 第七條ノ檢査ニ關シテハ酒造稅法第三十條ヲ適用ス

第十二條 此ノ税法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用キス

第十三條 自家用酒製造者ノ家族、雇人、同居者ニシテ其ノ製造ニ關シ此ノ税法ヲ犯シタルトキハ製造主ハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ此ノ税法ノ處罰ヲ免ルコトヲ得

トヲ得ス

附 則

第十四條 此ノ税法ハ明治二十九年十月一日ヨリ施行ス但シ明治十九年勅令第六十號ハ此ノ税法施行ノ日ヨリ廢止ス

第十五條 沖繩縣、東京府管下小笠原島伊豆七島ニハ當分此ノ税法ヲ施行セス

◎混成酒税法 明治二十九年 三月二十七日 (法律第二十號)

第一條 此ノ税法ニ於テ混成酒ト稱スルハ左ニ掲クルモノヲ謂フ

一 酒精ト他ノ物品トヲ混和シテ一種ノ飲料酒類トナシタルモノ

二 二種以上ノ飲料酒類ヲ混和シテ二種ノ飲料酒類トナシタルモノ

三 一種又ハ二種以上飲料酒類ト他ノ物品ヲ混和シテ一種ノ飲料酒類トナシタルモノ

四 飯料酒類ニ酒精若ハ燒酎ト水ヲ混和シタルモノ

第二條 混成酒ヲ製造スル者ニハ其ノ造石數ニ石ニ付金六圓ノ割合ヲ以テ造石税ヲ課ス

混成酒元用トシテ酒造税法ニ掲クル酒類ヲ製造スル者ニハ該税法ノ造石税ヲ課ス

第三條 第一條第四號ノ混成酒ヲ製造スルモ別種ノ飲料トナラズ單ニ酒造税法ノ酒類ノ造石數ヲ増加スルニ止ルモノハ其ノ増加石數ノミニ課税ス

第四條 造石税ノ納期ヲ左ノ二期トス但シ廢業シタル者ハ即納トス

第一期 其ノ年七月一日ヨリ同三十一日限
一月一日ヨリ六月十三日迄査定済石數ニ係ル税額

第二期 翌年一月一日ヨリ同三十一日限
七月一日ヨリ十二月三十一日迄査定済石數ニ係ル税額

第五條 混成酒ヲ製造スルモノハ收税官吏ノ認許ヲ受クルニ非サレハ其ノ製造シタル酒類ヲ販賣シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第六條 第五條ヲ犯シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 酒税法第二條第七條第八條第十一條第十二條第十八條第十九條第二十二條

第一項第二十四條第二十五條第二十八條第二十九條第三十條第三十一條第三十二條

第三十六條ハ混成酒ノ製造ニ適用ス

附 則

第八條 此ノ税法ハ明治二十九年十月一日ヨリ施行ス

第九條 沖繩縣、東京府管下小笠原島伊豆七島ニハ當分此ノ税法ヲ地行セス

◎沖繩縣酒類出港稅則改正 明治二十九年 三月二十七日 (法律第三十一號)

明治二十一年勅令第十二號沖繩縣酒類出港稅則中左ノ通改正ス

第一條 沖繩縣ニ於テ製造シテ他ノ地方ニ輸出スル酒類ニハ出港稅ヲ課ス其酒類及稅率左ノ如シ

- 第一種 清酒、白酒、味淋 一石ニ付金六圓
- 第二種 濁酒 一石ニ付金九圓
- 第三種 燒酎、酒精 一石ニ付金七圓

附 則

此法律ハ明治二十九年十月一日ヨリ施行ス

◎明治十九年勅令第六十一號稅率改正 明治二十九年 三月二十七日 (法律第三十二號)

- 明治十九年勅令第六十一號中酒類及稅率ヲ左ノ通改正ス
- 第一種 清酒、白酒、味淋 一石ニ付金七圓
- 第二種 濁酒 一石ニ付金六圓
- 第三種 燒酎、酒精 一石ニ付金八圓

附 則

此法律ハ明治二十九年十月一日ヨリ施行ス

◎營業稅法 明治二十九年 三月二十七日 (法律第三十三號)

第一條 左ニ掲グル營業ヲ爲ス者ニハ營業稅ヲ課ス

- 一 物品販賣業 一 銀行業
- 一 保險業 一 金錢貸付業
- 一 物品貸付業 一 製造業
- 一 運送業 一 倉庫業
- 一 運河業 一 棧橋業
- 一 船渠業 一 船舶碇繋場業
- 一 貨物陸揚場業 一 土木請負業
- 一 勞力請負業 一 印刷業
- 一 寫眞業 一 席貸業
- 一 旅人宿業 一 料理店業
- 一 公ナル周旋業 一 代辨業
- 一 仲立業 一 仲買業

第二條

營業稅ヲ課スヘキ物品販賣業ハ一定ノ店舗其ノ他ノ營業場ヲ設ケ物品ノ卸

賣又ハ小賣ニ爲ス者ヲ謂フ

左ノ諸業ハ前項ニ該當セサルモ仍物品販賣業ト見做ス
一 一定ノ製造場ナク職工ヲ使用スルコトナク原料ヲ供給シ工錢ヲ支拂ヒ物品ヲ製造セシメテ販賣スル者

二 一定ノ製造場ヲ設ケス店頭ニ於テ物品ヲ製造シ主トシテ小賣ヲ爲ス者
三 牧場ニ非サル場所ニ於テ飼料ヲ購求シ家畜又ハ家禽ヲ飼養シ之ヲ賣リ又ハ鶏

印牛乳等其ノ產物ヲ販賣スル者
四 魚介類ヲ養殖シテ之ヲ販賣スル者

五 動植物其ノ他普通ニ物品ト稱セサルモノヲ販賣スル者
一箇年ノ賣上金額千圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セス

第四條ノ營業者其ノ製造場區域ニ於テ製造品ヲ販賣シ及別ニ營業場ヲ設ケ其ノ製造品ノ卸賣營業ヲ爲スモ物品販賣業トセス

第三條 營業稅ヲ課スヘキ金錢貸付業及物品貸付ハ一定ノ店舗其ノ他ノ營業場ヲ設ケ貸付ノ業ヲ營ム者ヲ謂フ

普通ニ物品ト稱セサルモノノ貸付ヲ爲スモ亦同シ
資本金額五百圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セス

第四條 營業稅ヲ課スヘキ製造業ハ一定ノ製造場ヲ設ケ職工勞役者ヲ使役シテ物品ヲ製造シ又ハ物品製造ノ一部ヲ助成スル者ヲ謂フ

瓦斯電氣ノ供給ヲ爲ス者及器物、器械ノ修理ヲ爲シ又ハ穀物ヲ精白搗碎シ又ハ染物、洗濯ヲ爲ス者ハ前項製造業ト見做ス

資本金額五百圓未滿ノ者又ハ職工勞役者ヲ通シテ二人以上ヲ使用セサル者ニハ營業稅ヲ課セス

第五條 運賃又ハ手数料ヲ受ケテ旅客貨物ノ運送ヲ爲シ又ハ其ノ取扱ヲ爲ス者ヲ運送業トシテ營業稅ヲ課ス但シ雇人二人以上ヲ使用セサル者ニハ營業稅ヲ課セス

第六條 倉庫ヲ備ヘテ貨物ヲ預リ倉敷料其ノ他ノ名義ヲ以テ報酬ヲ受ケル者ヲ倉庫業トシテ營業稅ヲ課ス

第七條 印刷業、寫眞業ニシテ職工雇人ヲ通シテ二人以上ヲ使用セサル者及土木請負業、勞力請負業ニシテ請負金額一箇年千圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セス

第八條 貸料又ハ其ノ他ノ名義ヲ以テ報酬ヲ受ケ客室又ハ集會場ヲ貸ス者ヲ席貸業トシテ營業稅ヲ課ス但シ建物賃貸格五十圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セス

第九條 營業稅ヲ課スヘキ旅人宿業ハ飲食物ヲ供スルト否トニ拘ラス旅客ヲ宿泊セシメ又ハ人ヲ寄宿セシメ雇人三人以上ヲ使用スル者トス但シ木錢宿ニハ營業稅ヲ課セス

欠

MISSING

第十三條 本前條ノ葉煙草ハ政府ノ保管ニ付スヘシ

第十四條 政府於テ保管スル葉煙草ハ其ノ保管證ヲ以テ買賣スルコトヲ得

第十五條 政府於テ保管スル葉煙草ハ保管後一箇年內ニ輸出セサルトキハ政府ハ

之ヲ收納シ第四條ニ依リ賠償金ヲ交付スヘシ

第十六條 政府ニ於テ保管シタル葉煙草輸出ノ際之ヲ輸出者ニ交付スヘシ

第十七條 保管若ハ運搬ニ爲シタル費用ハ保管證所有者ノ負擔トス

第十八條 政府ハ何人ニ所屬モ問ハス葉煙草耕作地及貯藏所其ノ他所在ノ場所ヲ檢

査スルコトヲ得ヘシ此ノ場合ニ於テ當該官吏ハ葉煙草所在場所又ハ葉煙草ノ所在

上認ムル場所ニ立込又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得其ノ運送中ニアルモノ

ハ其ノ所在ニ就キ之ヲ檢査ヲ爲スコトヲ得

第十九條 政府ハ各地方便宜ノ地ニ葉煙草取扱所ヲ設ケテ葉煙草ノ收納及賣渡ヲ取

扱ハシム

第二十條 耕作ノ届出ヲ爲サスシテ葉煙草ヲ耕作シタル者又ハ届出ヲオササル土地

ニ葉煙草ヲ耕作シタル者ハ三圓以上卅圓以下ノ罰金ニ處シ仍其ノ葉煙草ヲ沒收ス

第三十一條 葉煙草ヲ耕作スル者政府ニ納付スルキ葉煙草ヲ他ニ讓渡又ハ消費シタ

ルトキハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ其ノ犯罪ニ係ル葉煙草ノ現存スルト

モ何人ノ所有ヲ問ハズ政府ハ之ヲ收納シ第四條ニ準シテ其ノ賠償金ヲ交付スヘシ